

教育の概要（シラバス）

令和2年度



学校法人 札幌青葉学園

北海道看護専門学校

目 次

教育内容

1	教育理念	1
2	教育目的	1
3	教育目標	1
4	学年別到達目標	2
5	教育課程	
1)	教育課程表	3
2)	教育課程の概念図	5
3)	臨地実習	
(1)	臨地実習の目的と目標	6
(2)	臨地実習の構成	7
(3)	臨地実習計画	8
6	シラバス	
1)	基礎分野	9
(1)	論理学	10
(2)	情報科学	11
(3)	統計学	12
(4)	文章表現法	13
(5)	倫理学	14
(6)	心理学	15
(7)	人間関係論	16
(8)	カウンセリング理論	17
(9)	地域生活論	18
(10)	教育学	19
(11)	英語 I	20
(12)	英語 II	21
(13)	音楽	22

2) 専門基礎分野	2 3
(1 4) 解剖生理学 I	2 5
(1 5) 解剖生理学 II	2 7
(1 6) 解剖生理学 III	2 9
(1 7) 解剖生理学 IV	3 1
(1 8) 生化学	3 3
(1 9) 栄養学	3 4
(2 0) 薬理学	3 6
(2 1) 病理学	3 8
(2 2) 病態学 I	4 0
(2 3) 病態学 II	4 2
(2 4) 病態学 III	4 4
(2 5) 病態学 IV	4 6
(2 6) 治療論 I	4 8
(2 7) 治療論 II	4 9
(2 8) 微生物学	5 0
(2 9) 総合医療論	5 1
(3 0) 公衆衛生学	5 2
(3 1) 口腔保健	5 4
(3 2) 関係法規	5 5
(3 3) 社会福祉	5 6
(3 4) 生命倫理	5 8
3) 専門分野 I	5 9
実務経験のある教員（専任教員）による授業科目	6 1
(3 5) 看護学概論	6 2
(3 6) 基礎看護学方法論 I	6 3
(3 7) 基礎看護学方法論 II	6 5
(3 8) 基礎看護学方法論 III	6 7
(3 9) 基礎看護学方法論 IV	6 9
(4 0) 基礎看護学方法論 V	7 0
(4 1) 基礎看護学方法論 VI	7 1
(4 2) 基礎看護学方法論 VII	7 2
(4 3) 基礎看護学方法論 VIII	7 3
(4 4) 基礎看護学方法論 IX	7 5

4) 専門分野Ⅱ	7 7
実務経験のある教員（専任教員）による授業科目	7 9
(47) 成人看護学概論	8 0
(48) 成人看護学方法論Ⅰ	8 1
(49) 成人看護学方法論Ⅱ	8 2
(50) 成人看護学方法論Ⅲ	8 3
(51) 成人看護学方法論Ⅳ	8 4
(52) 成人看護学方法論Ⅴ	8 6
(53) 老年看護学概論	8 7
(54) 老年看護学方法論Ⅰ	8 8
(55) 老年看護学方法論Ⅱ	9 0
(56) 老年看護学方法論Ⅲ	9 1
(57) 小児看護学概論	9 2
(58) 小児看護学方法論Ⅰ	9 3
(59) 小児看護学方法論Ⅱ	9 4
(60) 小児看護学方法論Ⅲ	9 5
(61) 母性看護学概論	9 6
(62) 母性看護学方法論Ⅰ	9 8
(63) 母性看護学方法論Ⅱ	9 9
(64) 母性看護学方法論Ⅲ	1 0 1
(65) 精神看護学概論	1 0 2
(66) 精神看護学方法論Ⅰ	1 0 4
(67) 精神看護学方法論Ⅱ	1 0 6
(68) 精神看護学方法論Ⅲ	1 0 8
5) 統合分野	1 1 0
実務経験のある教員（専任教員）による授業科目	1 1 1
(77) 在宅看護概論	1 1 2
(78) 在宅看護方法論Ⅰ	1 1 3
(79) 在宅看護方法論Ⅱ	1 1 5
(80) 在宅看護方法論Ⅲ	1 1 6
(81) 看護管理	1 1 7
(82) 医療安全	1 1 8
(83) 災害看護	1 1 9
(84) 看護研究Ⅰ	1 2 0
(85) 看護研究Ⅱ	1 2 1
(86) 総合看護技術	1 2 2

教育内容

1 教育理念

本校は、生命の尊厳と人間尊重の精神、倫理観を備えた豊かな人間性、人々の健康生活に関わる専門職者としての意識を培い、主体的かつ継続的に研鑽を積む自己教育力を備えた看護専門職者の養成を目指す。

2 教育目的

教育理念に基づく生命の尊厳と人間尊重の精神を培うために、人間観、倫理観を基に自己を見つめ、他者のために貢献する精神を養う。

地域医療に貢献するために必要な知識と技術、多様な健康ニーズに対応できる専門的な知識と科学的根拠に基づいた看護実践能力を養い、看護専門職者として常に研鑽し、人々から信頼される看護師を育成することを目的とする。

3 教育目標

1. 生命および人間尊重を基盤に、専門職業人としての倫理的判断に基づいて行動することができる。
2. 自己を客観的に理解し、他者を尊重したコミュニケーション力を養う。
3. 看護の対象となる人々を客観的・統合的に理解し、対象の状況に対応できる能力を養う。
4. 人々の健康ニーズに対応できる知識と技術、および解決に必要な科学的根拠に基づく看護実践の基礎的能力を養う。
5. 保健・医療・福祉を総合的に理解し、チーム医療における他職種との連携、および看護の専門的役割と責任について認識し、協働できる能力を養う。
6. 国内外の社会に関心を向け、保健・医療・福祉のニーズに対応できるよう、最新の知識と技術を養う。
7. 専門職業人として常に自己成長を目指し、主体的・継続的に研鑽する態度を養う。

4 学年別到達目標

教育目標	1年次目標	2年次目標	3年次目標
1. 生命および人間尊重を基盤に、専門職業人としての倫理的判断に基づいて行動することができる	①生命および人間尊重について理解する ②社会人としての倫理的行動ができる	①生命・人間尊重について、看護の視点から理解する	①専門職業人の立場から生命尊重について考えることができる ②看護師としての倫理的判断に基づいて行動できる
2. 自己を客観的に理解し、他者を尊重したコミュニケーション力を養う	①自己理解について、客観的に考えることができる。 ②他者理解と他者尊重について理解する ③コミュニケーションを理解し、良好な人間関係を築くことができる	①他者を尊重したコミュニケーションを実践できる ②信頼関係の形成に必要なコミュニケーションについて実習を通して理解する	①信頼関係の形成に必要なコミュニケーションについて、実習および日常生活を通して実践し、客観的に評価ができる
3. 看護の対象となる人々を客観的・統合的に理解し、対象の状況に対応できる能力を養う	①人間の成長・発達過程を基に対象者を理解する ②看護実践に必要な思考過程を理解する	①実践を通して対象者を総合的に理解する ②対象者の状態に合った援助計画を立案できる	①対象者の健康レベルを総合的に判断し、適切な援助計画を立案できる
4. 人々の健康ニーズに対応できる知識と技術、および解決に必要な科学的根拠に基づく看護実践力の基礎的能力を養う	①健康的な生活習慣を身につけることができる ②日常生活支援に必要な知識と技術を理解する ③各技術の科学的根拠を理解し、安全安楽に行うことができる	①対象者の健康レベルと主なニーズに対応した支援ができる ②対象者の状態に合わせて、安全安楽に支援することができる ③実践した看護支援を客観的に評価することができる	①対象者の健康レベルと全体のニーズに対応した支援ができる ②対象者の安全安楽を第一に考慮し、行動することができる ③援助の計画から実施までを客観的に評価することができる
5. 保健・医療・福祉を総合的に理解し、チーム医療における他職種との連携、および看護の専門的役割と責任について認識し、協働できる能力を養う	①保健・医療・福祉制度と各職種と役割について理解する ②看護師の専門的役割と責任について理解する ③チーム医療について理解する	①実践を通して、チーム医療の実際と他職種との連携について理解する ②看護の専門性について述べることができる	①チーム医療における看護の専門性とチームワークについて実践することができる
6. 国内外の社会に関心を向け、保健・医療・福祉のニーズに対応できるよう、最新の知識と技術を養う	①健康に関連する国内外の社会的状況について把握する ②国内の健康ニーズの実態について理解する	①国内の健康ニーズに必要な知識と技術について把握する	①国内外の健康ニーズに必要な技術を磨くための学習を継続できる
7. 専門職業人として常に自己成長をめざし、主体的・継続的に研鑽する態度を養う	①自己の成長をめざして、主体的に学習する ②看護師を目指し、継続的に学習する ③学習目標と具体的学習計画を立て、行動する	①学習目標と具体的学習計画を継続的に実施し、自己評価を行う ②看護師としての自己成長をめざすための具体的な行動ができる	①看護師としての自己成長を目指し、主体的・継続的に研鑽する習慣を身につける

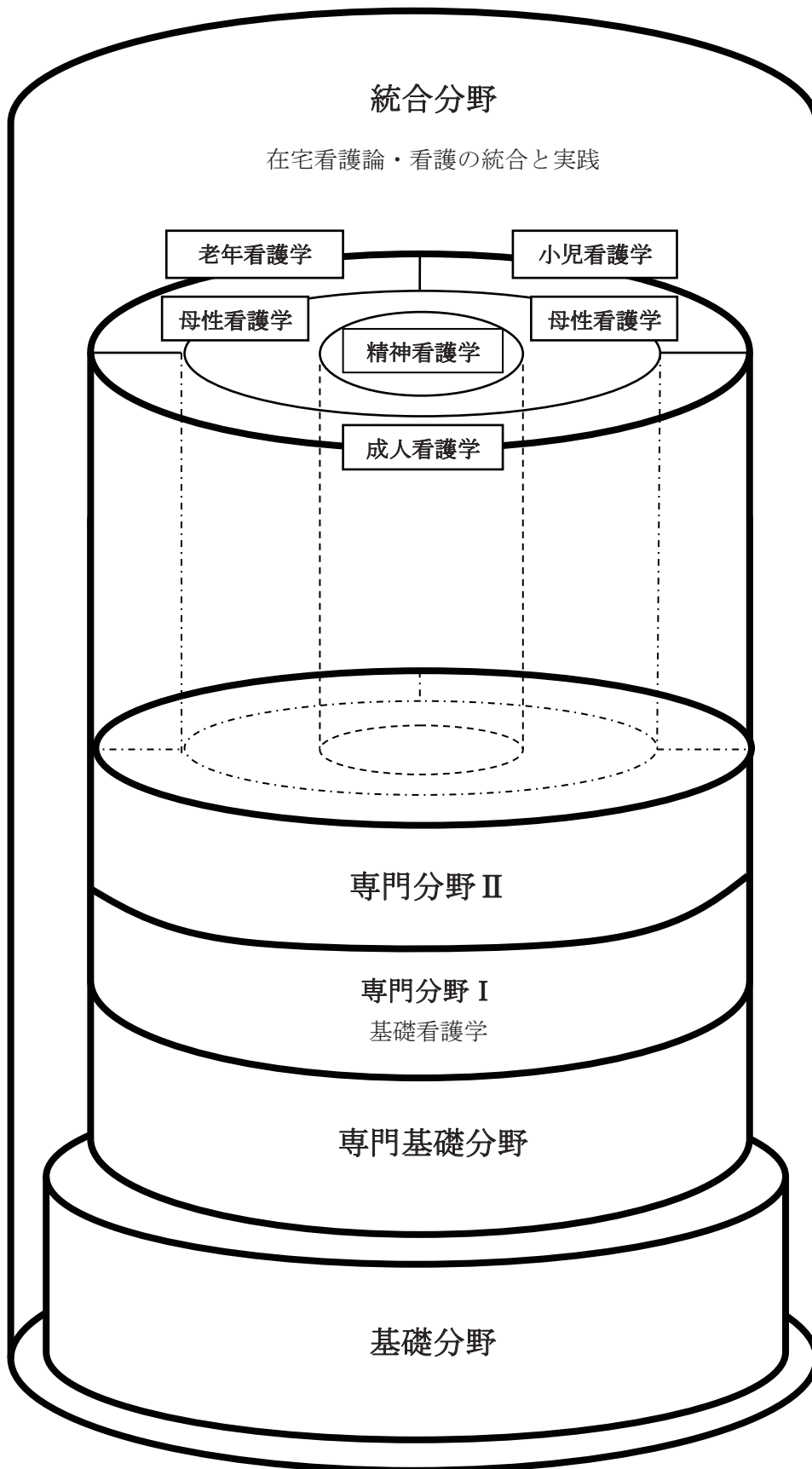
5 教育課程

1) 教育課程表

教育内容		基準 単位	科目名称	単位	年間授業時間数					
					1年次	2年次	3年次	合計		
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	13	1 論 理 学	1	15			15		
			2 情 報 科 学	1	30			30		
			3 統 計 学	1		15		15		
			4 文 章 表 現 法	1	30			30		
			5 倫 理 学	1	15			15		
			6 心 理 学	1	30			30		
			7 人 間 関 係 論	1	30			30		
			8 カ ウ ン セ リ ン グ 理 論	1		15		15		
			9 地 域 生 活 論	1		30		30		
			10 教 育 学	1		30		30		
			11 英 語 I	1	30			30		
			12 英 語 II	1		30		30		
			13 音 楽	1		30		30		
	13		小計	13	180	150	0	330		
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	14 解 剖 生 理 学 I	1	30			30		
			15 解 剖 生 理 学 II	1	30			30		
			16 解 剖 生 理 学 III	1	30			30		
			17 解 剖 生 理 学 IV	1	30			30		
			18 生 化 学	1	15			15		
			19 栄 養 学	1	30			30		
	疾病の成り立ちと 回復の促進		20 薬 理 学	1	30			30		
			21 病 理 学	1	30			30		
			22 病 態 学 I	1	30			30		
			23 病 態 学 II	1	30			30		
			24 病 態 学 III	1	30			30		
			25 病 態 学 IV	1	30			30		
	健康支援と 社会保障制度		26 治 療 論 I	1		15		15		
			27 治 療 論 II	1		15		15		
			28 微 生 物 学	1	30			30		
			29 総 合 医 療 論	1	15			15		
			30 公 衆 衛 生 学	1			30	30		
			31 口 腔 保 健	1		15		15		
	6	32 関 係 法 規	1			30	30			
33 社 会 福 祉		1		30		30				
34 生 命 倫 理		1			15	15				
		21		小計	21	390	75	75	540	
専門分野 I		基礎看護学	10	35 看 護 学 概 論	1	30			30	
				36 基 礎 看 護 学 方 法 論 I	1	30			30	
	37 基 礎 看 護 学 方 法 論 II			1	30			30		
	38 基 礎 看 護 学 方 法 論 III			1	30			30		
	39 基 礎 看 護 学 方 法 論 IV			1	30			30		
	40 基 礎 看 護 学 方 法 論 V			1	30			30		
	41 基 礎 看 護 学 方 法 論 VI			1	30			30		
	42 基 礎 看 護 学 方 法 論 VII			1	30			30		
	43 基 礎 看 護 学 方 法 論 VIII			1	30			30		
	44 基 礎 看 護 学 方 法 論 IX			1	30			30		
	臨地実習	3		45 基 礎 看 護 学 実 習 I	1	45			45	
				46 基 礎 看 護 学 実 習 II	2	90			90	
		13			小計	13	435	0	0	435

教育内容		基準 単位	科目名称	単位	年間授業時間数				
					1年次	2年次	3年次	合計	
専門分野Ⅱ	成人看護学	6	47	成人看護学概論	1	30			30
			48	成人看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			49	成人看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			50	成人看護学方法論Ⅲ	1		30		30
			51	成人看護学方法論Ⅳ	1		30		30
			52	成人看護学方法論Ⅴ	1		30		30
	老年看護学	4	53	老年看護学概論	1	30			30
			54	老年看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			55	老年看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			56	老年看護学方法論Ⅲ	1		15		15
	小児看護学	4	57	小児看護学概論	1		30		30
			58	小児看護学方法論Ⅰ	1		15		15
			59	小児看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			60	小児看護学方法論Ⅲ	1		30		30
	母性看護学	4	61	母性看護学概論	1		30		30
			62	母性看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			63	母性看護学方法論Ⅱ	1			30	30
			64	母性看護学方法論Ⅲ	1			15	15
	精神看護学	4	65	精神看護学概論	1	30			30
			66	精神看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			67	精神看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			68	精神看護学方法論Ⅲ	1			15	15
	臨地実習	6	69	成人看護学実習Ⅰ	2		90		90
			70	成人看護学実習Ⅱ	2		90		90
			71	成人看護学実習Ⅲ	2			90	90
		4	72	老年看護学実習Ⅰ	2		90		90
73			老年看護学実習Ⅱ	2		90		90	
2		74	小児看護学実習	2			90	90	
2		75	母性看護学実習	2			90	90	
2		76	精神看護学実習	2			90	90	
	38		小計	38	90	810	420	1320	
統合分野	在宅看護論	4	77	在宅看護概論	1		30		30
			78	在宅看護方法論Ⅰ	1		30		30
			79	在宅看護方法論Ⅱ	1		30		30
			80	在宅看護方法論Ⅲ	1			15	15
	看護の統合と実践	6	81	看護管理	1			15	15
			82	医療安全	1			15	15
			83	災害看護	1			15	15
			84	看護研究Ⅰ	1			15	15
			85	看護研究Ⅱ	1			30	30
			86	総合看護技術	1			30	30
臨地実習	2	87	在宅看護論実習	2			90	90	
	2	88	看護の統合実習	2			90	90	
	14		小計	14	0	90	315	405	
合計	99		合計	99	1095	1125	810	3030	

2) 教育課程の概念図



3) 臨地実習

(1) 臨地実習の目的と目標

【 目的 】

1. 生命・人間の尊厳を基盤に、対象者を尊重し、看護師としての倫理的態度を養う。
2. 学内で学んだ基礎的知識・技術を応用し、科学的根拠に基づいた看護を実践する。

【 目標 】

1. 看護の対象となる人々の人権を尊重し、倫理的判断に基づいて行動できる。
2. 対象者やその家族との相互関係を通して援助関係を築くことができる。
3. 対象者の健康レベルと生活の特性について、身体的・精神的・社会的・文化的・霊的な観点から統合的に理解し、個別性に対応した看護過程が展開できる。
4. 看護ケアについて、対象者のニーズを尊重し、科学的根拠に基づいた安全・安楽な看護技術が提供できる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として、他職種との連携を通して、看護師の専門性とその行動について理解できる。
6. 実習態度は、主体的学習を通して自己の向上に努めることができる。

(2) 臨地実習の構成

実習科目		単位	時期	実習場	実習の目的	
専門分野 I	基礎看護学実習 I	1 (45時間)	1年次 10月	病院	患者とのコミュニケーション、日常生活上の援助を通して看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養う。	
	基礎看護学実習 II	2 (90時間)	1年次 2月	病院	受け持ち患者の看護展開を通して、患者に必要な援助を学ぶ。	
専門分野 II	成人看護学実習	成人看護学実習 I 周手術期・急性期の看護	2 (90時間)	2年次	病院	急性期・周手術期にある成人期の対象が、危機的状況から速やかに回復し、身体状況に応じたセルフケアを獲得するための看護を実践する。
		成人看護学実習 II 回復期・慢性期の看護	2 (90時間)		病院	回復期・慢性期にある成人期の対象が、生活機能の回復・維持をする援助またはセルフケアを促進する援助を理解し、生活の再構築をはかるための看護を実践する。
		成人看護学実習 III 終末期の看護	2 (90時間)	3年次	病院	終末期にある成人期の対象の全人的苦痛とそれを緩和するケアを理解し、対象のQOLの維持・向上のための看護を実践する。
	老年看護学実習	老年看護学実習 I 施設で療養する老年期にある対象の看護	2 (90時間)	2年次	介護老人保健施設	介護老人保健施設で療養する老年期にある対象の特性を理解し、QOLを考慮した看護を学ぶ。
		老年看護学実習 II 健康障害を持つ老年期にある人とその家族の看護	2 (90時間)		病院	健康障害を持った老年期にある対象を理解し、看護過程の展開を通して必要な援助が実践できる。
	小児看護学実習	健康な小児の理解	2 (90時間)	3年次	保育所	乳幼児との関わりを通して、小児の成長発達および生活、保育の実際について学ぶ。
		健康障害を持つ小児と家族の看護			病院	健康障害を持った小児とその家族を理解し、成長発達段階、健康レベルに応じた看護の実際を学ぶ。
	学実習 母性看護	周産期の対象の看護	2 (90時間)	3年次	病院	妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の特徴を理解し、周産期の対象に必要な看護を実践できる能力を養う。
	学実習 精神看護	精神障害をもつ対象の看護	2 (90時間)	3年次	病院	精神障害をもつ対象とその家族を理解し、対象の自立に向けた看護を実践できる能力を養う。
	統合分野	在宅看護論実習	地域で生活する障がいを持つ人々の支援	2 (90時間)	3年次	社会福祉施設
在宅療養者とその家族の支援			訪問看護ステーション			地域で生活しながら療養している人とその家族についての理解を深め、QOLを考慮した看護の実際を学ぶ。
看護の統合実習		看護管理、夜間実習、複数患者の看護	2 (90時間)	3年次	病院	看護管理、夜間実習、複数患者の受け持ちを通して、既習の知識・技術・態度を統合し看護実践力を身につける。

6 シラバス

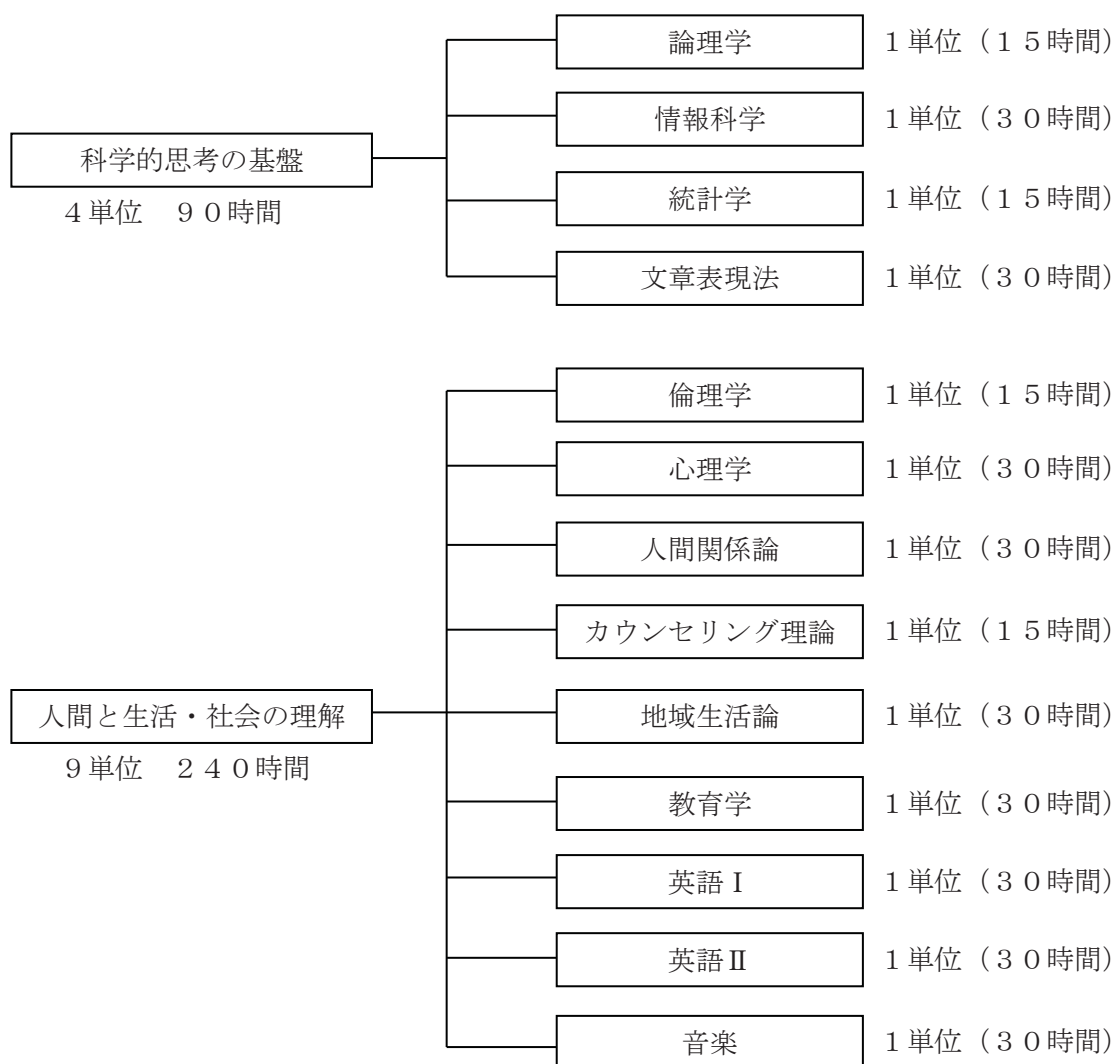
1) 基礎分野

「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」

基礎分野では、「科学的思考の基盤」と「人間・生活・社会の理解」に必要な科目について学習する。

この分野では、看護師としての豊かな人間性を培い、科学的・論理的思考を高めるために必要な科目を設定している。科学的思考の基盤形成に必要な論理学や情報科学等、人間性を高め、多様な人々との関係性を築くために必要な倫理学、人間関係論、地域生活論、語学や音楽等を学習する。

<基礎分野の設定科目>



科 目	(1) 論理学	1年 後期	1単位	15時間
担当教員	澤崎 高広			
ねらい	論証とは何かを理解し、トゥールミンの論証図を利用することで、パラグラフ・ライティングによる文章作成法を身につける。			
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の主張を根拠づけられるようにする。 ・相手の主張の根拠を見つけられるようにする。 			
単元名	行動目標	内 容		
論証とは何か	1. 論証の構造と種類について学び、前提の正しさと推論の妥当性の違いを理解する。	1) 論証の構造 2) 帰納と演繹の違い 3) 論証の正しさ		
論証の特定と構成	2. 与えられた文章の中から論証を取り出せるようにする。また、論証を構成する方法を学ぶ。	1) 論証を取り出す方法 2) 論証を構成する方法		
論証図	3. トゥールミンの論証図について学び、複雑な論証を論証図で表現できるようにする。課題①	1) 略記法の利点 2) 論証図の書き方 3) 論証図の使い方		
接続詞	4. 実際に文章を書く際に必要となる、接続詞の正しい使い方を学ぶ。	1) 接続詞の役割 2) 順接の接続詞 3) 逆接の接続詞		
パラグラフ・ライティング	5. パラグラフ・ライティングの仕組みを理解する。課題②	1) パラグラフの構造 2) トピック・センテンスの役割 3) サブ・センテンスの役割 4) パラグラフ間の関係		
主張の正当化	6. 自分の主張を根拠づける方法について学ぶ。	1) 論証図とパラグラフ・ライティングの復習 2) 自分の主張を根拠づける方法		
主張の批判	7. 相手の主張の根拠を見つける方法と、その主張を批判する方法を学ぶ。	1) 前回の復習 2) 主張の根拠の見つけ方 3) 主張の批判の仕方		
テキスト及び副教材	『看護学生が身につけたい 論理的に書く・読むスキル』 医学書院			
評価方法	筆記試験 60%、課題 40%			
備考・履修上の留意点				

科 目	(2) 情報科学	1年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	水田 正弘			
ね ら い	高度情報化社会に必要とされる基本的な情報処理能力を学習する。			
到達目標	コンピュータおよびネットワークの概要を理解する。また、情報倫理、著作権、セキュリティーなど関連知識を得る。			
単元名	学習目標	内 容		
情報とデータ	1. 情報とデータ、知識を理解する。	1) 実例を用いて、情報の意味を述べる。		
コンピュータとネットワークの基礎	2. コンピュータに関する基本的な事項を理解する。	1) コンピュータの仕組み、OS、インターネットを含むネットワークについて述べる。		
プレゼンテーション	3. 他者に対して説明・発表する方法について学ぶ。	1) レポート作成、グラフ作成、パソコンでの発表などについて述べる。		
データベース	4. データベースの基本的事項について学ぶ。	1) データベースの利用方法、その長所と短所について述べる。		
情報システム	5. 診断や治療のサポートとの観点から情報システムについて述べる。	1) 情報技術を利用した資料システムについて扱う。		
情報管理	6. 人権・個人情報・セキュリティーの基本を学ぶ。	1) 法的規制や個人情報の保存 2) プライバシーの保護の実際と課題		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 別冊 看護情報学」 医学書院			
評価方法	筆記試験で評価する。			
備考・履修上の留意点				

科 目	(3) 統計学	2年 後期	1 単位	15 時間
担当教員	水田 正弘			
ねらい	医学・看護学・健康科学における基本的な統計学の考え方・方法を講義する。			
到達目標	医療においてデータに基づいて適切な判断を下すことは基本的かつ重要である。統計的な考え方と手法を理解することにより、証拠に基づいた医療を補助することが可能となる。これらの基本的な事項を理解することを目標とする。			
単元名	学習目標	内 容		
統計学の基礎	1. 統計的な考え方を理解する	1) 統計的な考え方が普及する前の過ちの例などを用いた入門的事項を述べる。		
データの扱い方	2. データの入力方法と集計方法を学ぶ	2) データハンドリングの基礎を述べる。また、基本的な集計方法を扱う。		
確率分布	3. 確率と確率分布、推定について学ぶ	3) 確率論における基礎事項として、正規分布および二項分布を扱う。		
統計的仮説検定	4. 帰無仮説、有意水準などの概念を理解する。	4) 差の検定など実際的な問題を例にとり説明をする。		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 基礎分野 統計学」 医学書院			
評価方法	筆記試験で評価する。			
備考・履修上の留意点				

科 目	(4) 文章表現法	1年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	吉村 悠介			
ね ら い	自ら問題を発見し、自分の考えを文章で論理的に表現するための基礎能力を養う。			
到達目標	1. 書き言葉や敬語の適切な使い方、公的な場での文章を学ぶ。 2. 文章作成の基本を学ぶ。 3. 自分の考えを実際に文章にすることによって、論理的に表現する方法を学ぶ。			
単元名	学習目標	内 容		
小論文Ⅰ 文章表現法の基礎知識 小論文Ⅱ レポートの構成と構想 小論文Ⅲ 敬語表現／手紙文	1. まとまりのある短い文章の作成を通じて、現時点での語彙力、文章構成能力等を各自で認識する。 2. 文章作成で必要となる基礎的な知識を身につける。 3. 他者が作成した文章を適切に添削することができる。 4. 学校や職場等の公的な場でレポート（報告文）を作成する基礎的な方法を身につける。 5. レポートの構成と構想を踏まえて、指定された課題についての小論文を執筆することができる。 6. 社会人として必要とされる敬語表現を知る。 7. 手紙文の用途と書式を学ぶ。	1) 原稿用紙の使い方 2) 小論文 1) 話し言葉と書き言葉 2) 文のねじれ 3) 曖昧文 4) 句読点の打ち方 1) 小論文の添削 2) 小論文の推敲 1) パラグラフ・ライティング 2) アウトラインの作成 3) 文献検索の方法 4) 引用の原則 1) 小論文 1) 敬語の種類 2) 手紙文の書き方		
テキスト及び副教材	単元ごとにレジュメを用意する。			
評価方法	平常点 (30%) 筆記試験 (70%)			
備考・履修上の留意点				

科 目	(5) 倫理学	1年 前期	1 単位	15 時間
担当教員	宮野 晃一郎			
ね ら い	倫理についての理解を深め、看護実践における倫理的判断や行為を導く基盤を養う。			
到達目標	人間の行為の善悪を問う倫理学は、人間社会が成立すると同時に登場してきた人類最古の学問である。複雑化した現代社会においては、倫理的であるとは何かについて、具体的な例に即して考えてみよう。			
単元名	学習目標	内 容		
倫理学とは	1. 現代社会と倫理学との関わりはいかに。	なぜ倫理的に生きなければならないか。		
ビジネス倫理学	2. 金儲けと倫理とは両立するか。	金儲けは悪いことか。		
帰結主義と非帰結主義	3. 結果が大事か、努力することが大事か。	どのような行為が「よい」行為なのか。		
多数決の原理の問題点	4. 多数決は平等か。	皆が賛成する行為が「よい」行為なのか。		
理想主義と現実主義	5. エゴイズムにもとづく行為はすべて道徳に反するか。	最高の倫理と最低の倫理。		
自由主義の原則	6. 他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか。	愚行権とは何か。人間が自由であることとは。		
人格の定義	7. 責任や義務をもった厳密な意味での人格の範囲はどこまで及ぶか。	自己決定と現代医療		
テキスト及び副教材	適宜プリントを配布する。			
評価方法	筆記試験 (50%) + レポート (50%) による総合評価			
備考・履修上の留意点	常に問題意識をもって講義に臨むこと。			

科 目	(6) 心理学	1年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	後藤 聡			
ねらい	人間の心の仕組みや行動のメカニズムを理解し、看護の対象である人間の理解を深める。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の基礎的知識を習得する。 ・心理学を看護の対象である人間の理解に役立てる。 ・心理学の知識を人間関係に役立てる。 			
単元名	学習目標	内 容		
ガイダンス			授業内容・評価方法など	
人間関係と心理	1. 対人関係にともなう心理的働きを理解し、それを資源として対象との良好な人間関係を築くことができる。	1) 自己呈示 2) 援助行動 3) 攻撃行動 4) ステレオタイプと偏見 5) 対人コミュニケーション 6) 対人認知		
学習と認知	2. 学習理論を理解して人間の行動を学習の視点で説明できる。	1) 連合理論と認知理論 2) 思考のしくみ		
発達	3. 思考の仕組みについて理解し、対象から収集する情報を用いてアセスメントする際の思考活動に活用できる。			
	4. 発達の規定因や諸相を理解して対象の発達を意識した人間関係を築くことができる。	1) 知覚の発達 2) 道徳性の発達		
社会と心理	5. 社会との関わりの中で生じる心理現象を理解し、適切に社会生活を送るためにそれを活用することができる。	1) 社会の中の誤り 2) 社会的ジレンマ 3) うわさ 4) 社会的現実		
テキスト及び副教材	テキスト、参考書は使用しない。適宜資料を配布する。			
評価方法	筆記試験 70% 提出物 30%			
備考・履修上の留意点	私語や講義と関係のない行為を厳禁とする。私語をした人には減点することがある。講義と関係ない行為を発見した場合はその時間を欠席扱いにすることがある。			

科目	(7) 人間関係論	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	梶井 祥子			
ねらい	人間関係の基本構造を社会関係と社会集団の両方で学ぶ。家族、地域、職場の関係を構造と機能面から学習し、看護援助に活かすことができるコミュニケーションと対人関係についての基礎的知識を学ぶ。人間理解と寛容性の醸成を目指す。			
到達目標	「社会学」の方法論を基盤として、社会関係と社会集団をつくりあげている家族、親族、近隣、地域、職場、組織について、文化的背景とともに、その構造の特性や機能を理解する。現代社会の状況を踏まえ、看護援助に活かすことができるコミュニケーションと対人関係についての理解を深める。			
単元名	学習目標	内容		
人間関係	1. 人間関係とは何か	1) 社会学と人間関係 『人間学』あるいは『関係の学問』とも呼ばれる社会学の理論から、人々の相互行為の意味について学んでいく		
家族関係	2. 自己と他者との関わり	1) 自己の形成と他者理解		
	3. 役割理論から見る期待と葛藤	1) 役割距離の重要性		
	4. 少子化する高齢社会	1) 少子高齢化という大きな社会変動のなかで、人間関係の基盤がどのように変容したのか		
	5. 家族とは何か	1) 家族は多様化したのか		
地域関係	6. 家族とジェンダー	1) ジェンダーから家族の人間関係を読み解く		
	7. 子育てと社会化機能、児童虐待問題	1) 子育ての現代的課題		
	8. 核家族と子どもの学校での集団と関係	1) 学校教育と家庭教育の接続		
	9. 生殖補助医療と家族	1) 複雑化する親子間の人間関係		
職場関係	10. 高齢者のライフスタイル	1) 生殖補助医療がもたらすもの 2) 高齢社会の人間関係		
	11. 地域はどのように家族を支えられるか	1) 老若男女共同参画社会へ		
まとめ	12. 地域の中間集団の可能性	1) 文化的背景を探る		
	13. 保険医療の専門職	1) 医療化する社会 2) 働きかたの再検討		
	14. ケアと医療	1) 寛容なコミュニケーション・スキル		
テキスト及び副教材	系統看護学講座 基礎分野「社会学」 医学書院			
評価方法	筆記試験 (80%)・授業内の小レポート (20%)			
備考・履修上の留意点	必要に応じてプリントを配布し、新聞記事などからの知見を広げる。			

科 目	(8) カウンセリング理論	2年 前期	1 単位	15 時間
担当教員	後藤 聡			
ね ら い	カウンセリングの基本を理解し、カウンセラーの役割や態度を学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリングの基礎的知識を習得する。 ・ カウンセリングにおける人間関係の意義を理解する。 ・ 習得したことを看護や日常の人間関係に役立てる。 			
単元名	学習目標	内 容		
カウンセリングとは	1. 対話の意味を理解して実践する。	1) 対話と自己開示		
カウンセリングの基本	2. 自己開示の機能を理解し、他者から実践してもらえる関わりを提供する。	2) 自己洞察・自己決定の意義		
カール・ロジャーズの理論	3. カウンセリングにおける自己洞察や自己決定の意義を理解し、それらを尊重した人間関係を営む。	1) 個別化・傾聴・共感		
	4. 人間関係における個別化、傾聴、共感の意味を理解し、人間関係に活用する。	1) カール・ロジャーズの人間観 2) 癒し観 3) カウンセラーの基本的態度		
	5. ロジャーズの人間観や癒し観を理解し、それらを尊重した人間関係を営む。			
	6. ロジャーズによるカウンセラーの基本的態度を理解し、できるだけそれを身につけて人間関係に活かす。			
テキスト及び副教材	テキスト、参考書は使用しない。適宜資料を配布する。			
評価方法	筆記試験 70% 提出物 30%			
備考・履修上の留意点	私語や講義と関係のない行為を厳禁とする。私語をした人には減点することがある。講義と関係ない行為を発見した場合はその時間を欠席扱いにすることがある。			

科 目	(9) 地域生活論	2年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	梶井 祥子			
ねらい	地域社会にかかわる理論をコミュニティ研究から実証的に理解する。地域を担う人々の多様性に着目しながら、少子高齢化やグローバル化が進行する時代状況のなかでの相互扶助のあり方について多角的に学んでいく。			
到達目標	人口減少という社会変動を踏まえ、地域社会におけるコミュニティの必要性を理解する。そのうえで個別的に北海道の福祉、介護、看護、医療の実態を学びとる。医療・福祉の領域における地域連携のあり方について知見を養う。			
単元名	学習目標	内 容		
地域生活	1. 地域社会とコミュニティ 2. 地域を枠づける制度と組織 3. 地域のネットワーク 4. コミュニティ関係を創造する	1) 総論 1) 地域特性、政治と制度 1) ケアするコミュニティ 1) 世代間交流・まちづくり		
北海道の福祉生活	5. 地域と子育て支援 6. 就学支援児童を支える 7. 障がい者への地域支援 8. 地域社会と高齢者 9. 家族支援と地域基盤	1) 虐待の予防 1) 地域が担う次世代育成 1) 社会的包摂を考える 1) 高齢社会と人口減少 1) 家族の多様性への理解		
北海道の医療・看護	10. 医療資源の集中と分散 11. コミュニティ医療	1) 医療格差の実態 1) 保険と予防活動		
コミュニティと公共性	12. 地域の持続可能性の条件 13. 住民・行政との協働 14. ソーシャル・キャピタル論を考える	1) 事例から学ぶ 1) 『つながり』の再構築		
まとめ				
テキスト及び副教材	森岡清志（編） 「地域の社会学」2008年、有斐閣アルマ			
評価方法	筆記試験（80%）、授業内での小レポート（20%）			
備考・履修上の留意点	トピックスとなる新聞記事などを随時使用する。			

科 目	(10) 教育学	2年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	木村 純			
ね ら い	看護においては、①人々が自ら健康を守り、病気の治癒のために自らに潜んでいる力を発揮する。②看護師として研鑽を努め、自らの能力を高め、その養成や継続教育のあり方を考える。③子どもたちをはじめ患者の心身に様々な影響を与える教育の現状を理解することが求められる。そのために必要な教育学の知見を学ぶことが重要である。			
到達目標	①教育が学校教育にとどまらない生涯を通じての営みであることがわかる。 ②今日の教育学が看護師の養成や継続教育、看護実践といかに関係しているかを理解する。 ③今日の教育をめぐる問題のこころの健康との関わりがわかる。			
単元名	学習目標	内 容		
教育とは何か 教育・学習の主体と対象 (1) 教育学と成人教育学 (2) 看護と成人教育学教育 教育の目的 (1) 学校の誕生 (2) 生涯学習の理念と歴史 教育の制度 (1) 学校教育 (2) 社会教育 (3) 看護師養成と専門学校 教育の創造 (1) 学力をめぐる (2) 教育の評価 教育の現代的課題 (1) いじめ (2) 子どもの貧困 (3) PTA (4) 教師 まとめ	1. 教育が学校教育にとどまらず、学校外のノンフォーマル教育なども含む生涯を通じての営みであることがわかる。 2. 従来の教育学から成人を対象にした教育学(アンドラゴジー)が発展しており、看護の世界ではその吸収・活用が積極的に行われている理由を知る。 3. 主体的な生活を実現し、健康を守るために必要な教育学の多様な知見を理解し、看護師の継続教育や患者理解に生かすことができる。 4. 今日の教育制度の枠組みを知るとともに看護師養成の現状と課題がわかる。 5. 教育が実現する学力やその評価の現状と課題を知り、それが看護実践の評価とどのように繋がるかを理解する。 6. 現代の子どもと父母たちがどのような教育問題を抱え、悩みを抱いているかを理解し、その解決はどのように図るべきかを理解する。 7. レポートの書き方を理解する。	1) 教育とは何か 2) 教育学はどのように生まれたか 1) 教育学(ペダゴジー) 2) 成人教育学(アンドラゴジー) 3) 看護学への成人教育学の影響 1) 学校制度の歴史と発展 2) 生涯学習の理念と歴史 1) 学校教育の歴史と現状 2) 社会教育(公民館・図書館・博物館) 3) 看護師養成の歴史と専門学校 1) 日本の子どもの学力、成人力 2) 教育の評価をめぐる 1) 学校でのいじめとその防止 2) 子ども食堂、夜間中学 3) PTAへの参加をめぐる 4) 教師の現状 全体の振り返りとレポートの書き方		
テキスト及び副教材	テキストは特に指定しないが、毎回詳細な資料を配付し、参考文献を紹介する。			
評価方法	レポートにより評価する。			
備考・履修上の留意点	講義中の質問を歓迎する。			

科 目	(11) 英語 I	1年 前期	1単位	30時間
担当教員	及川 陽子			
ねらい	英文読解を通して専門分野における知識や情報を得ると同時に、新しい視点からの考え方を深める。			
到達目標	広い視野をもって国際社会に対応していけるように英語の基礎を習得し、専門的な語彙や表現を身につける。英語を聞き取る。英語で書かれた文献を理解できるようになる。			
単元名	学習目標	内 容		
オリエンテーション Chapter 1 Chapter 2 Chapter 3 Chapter 4 Chapter 5 Chapter 6 Chapter 7 Chapter 8 Chapter 9 Chapter 10 Chapter 11 Chapter 12 Chapter 13	1. 語彙を確認する 2. 英語を聞き取る 3. 英語を読解する 4. 英語を書いてみる 5. 英語で書かれた論文を読み、理解できるようになる	1. イントロダクション 2. Polio 3. Personal Prescription 4. Hay Fever 5. Anti-Diarrheal/Anti-gas 6. Sleeping problems 7. SARS 8. Diabetes 9. Arterial Diseases 10. Health Insurance in the United States 11. Food Allergies and Food Intolerance 12. Carpal Tunnel Syndrome 13. Sports Related Injuries and Conditions 14. The Change of Life		
テキスト及び副教材	「English for Medicine」 金星堂			
評価方法	小テスト 各章の内容理解・語彙の確認をする。必要に応じて課題をだす。(50%) 筆記試験 読解力、語彙力、文法力を総合的にみる。			
備考・履修上の留意点	語彙を調べるなど予習をすること。 内容に関して知識を得るだけでなく、自分の考え方を確立するために積極的に授業に参加すること。			

科 目	(12) 英語Ⅱ	2年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	及川 陽子			
ねらい	医療の現場での英会話を通して積極的に自分の考えを伝えるための基礎力を身につける。医療と看護に関する語彙を身につける。			
到達目標	会話表現を学びながら、聞くこと、話すことの練習に加えて、基本的な文法の確認もあわせておこなう。			
単元名	学習目標	内 容		
オリエンテーション Unit 1 Unit 2 Unit 3 Unit 4 Unit 5 Unit 6 Unit 7 Unit 8 Unit 9 Unit 10 Unit 11 Unit 12 Unit 13 Unit 14 Unit 15	1. 語彙を確認する 2. 英語を覚える 3. 英語を聞く 4. 英語を読む 5. 英語を話す 6. 基本的な文法を確認して、英語でコミュニケーションをとる	1. インTRODクション 2. 自己紹介する・あいさつする 3. 同僚を紹介する 4. 個人情報の聞き取りと管理 5. 指示や依頼をする 6. 相手をみて対応する 7. 確認、質問事項を準備する 8. 確認をする 9. 行為をうながす 10. 指示し、援助する 11. 説明は丁寧にする 12. 注意事項を伝える 13. 食べ物について言う 14. 薬について言う		
テキスト及び副教材	「Basic English for Medical Care」 弓プレス			
評価方法	発表 英語を読む・話す 課題・小テスト 文法や発音、思考内容 (50%) 筆記試験 文法とリスニングを中心に総合的にみる (50%)			
備考・履修上の留意点	積極的に授業に参加すること。具体的には、予習と授業内での発言や練習が必要である。			

科 目	(13) 音楽	2年 後期	1単位	30時間
担当教員	中山 ヒサ子、下出 理恵子、平野 則子、土屋 益子			
ねらい	看護師としての感性を磨くと共に、看護におけるスキルとして音楽療法について学ぶ。			
到達目標	①音楽の持つ生理的、心理的、社会的な力がどのように治療に役立つか、臨床現場での音楽の活用の仕方を学ぶ。 ②音楽活動を体験し、それから得られる効果を理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
一般音楽	1. 芸術療法としての音楽の基礎を学ぶ	1) 音楽概論 2) 音楽の体験		
音楽療法概論	2. 音楽療法の基礎を学ぶ	1) 音楽の力と音楽療法 2) 音楽療法の歴史		
音楽療法の臨床現場	3. 音楽療法のさまざまな臨床の場について理解する	1) 児童領域 2) 高齢者領域 3) 精神科領域 4) 緩和領域		
音楽活動	4. 医療現場における看護師と音楽療法の関わりについて理解する	5) 看護と音楽療法		
	5. 感性トレーニングを行う	1) 音楽を使用したチームによるアクティビティの構築、及び発表		
	6. チームワークのスキルを磨く			
	7. 発表を通して対象者との関わり方を理解する			
テキスト及び副教材	日野原重明監修「音楽療法ハンドブック」未来プロジェクト 星雲社			
評価方法	講義参加態度 レポート 筆記試験			
備考・履修上の留意点				

2) 専門基礎分野

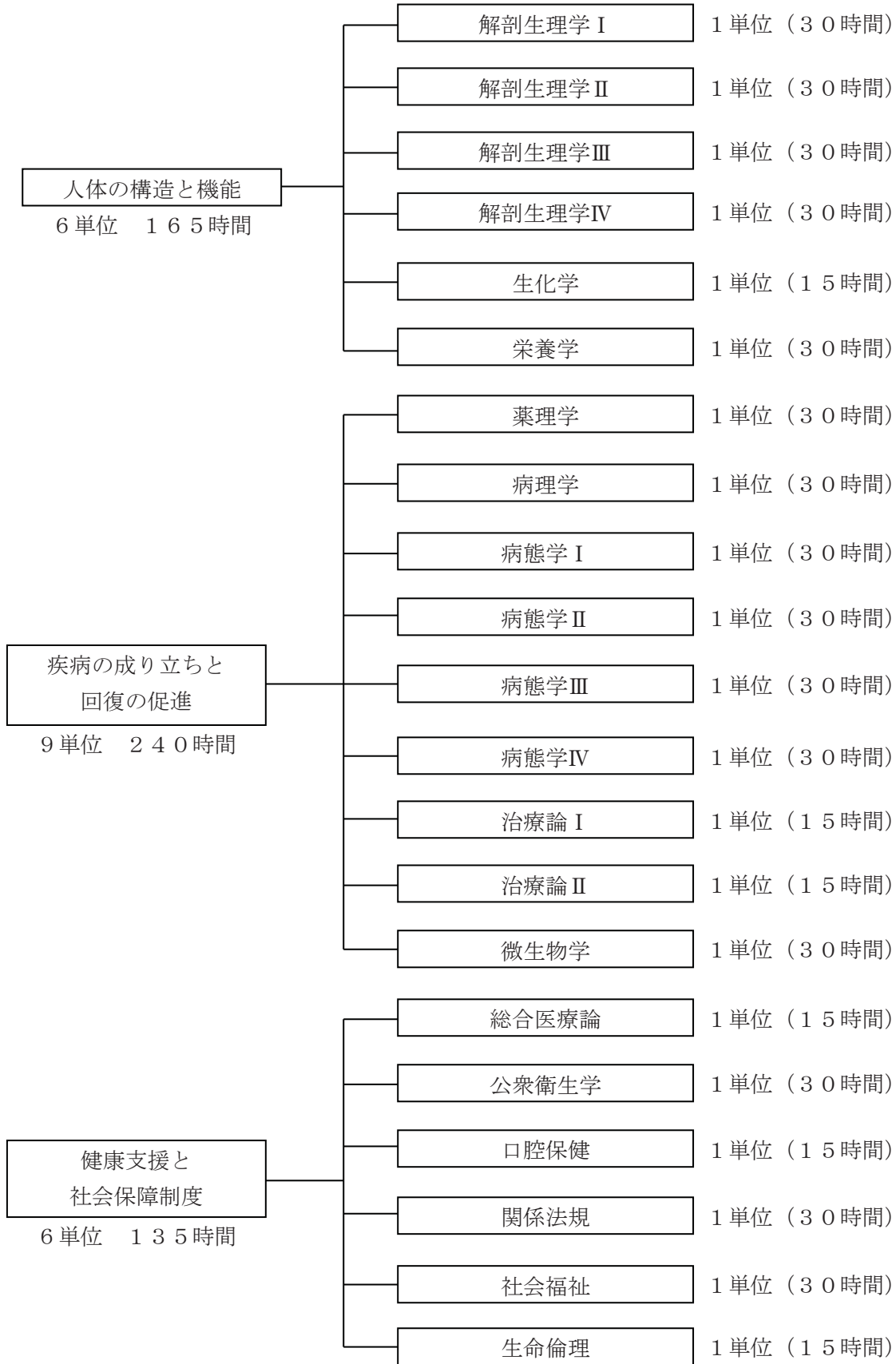
「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」

専門基礎分野では、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」および「健康支援と社会保障制度」について理解するために必要な科目を学習する。

「人体の構造と機能」を理解するために、解剖生理学、生化学、栄養学等、「疾病の成り立ちと回復の促進」を理解するために、病態学、治療論、微生物学等、「健康支援と社会保障制度」を理解するために、総合医療論、公衆衛生学、社会福祉、生命倫理等の科目を設定している。

この分野では、看護師の対象となる人々について、生命の尊重を基盤に、身体的、精神的、社会文化的な観点から理解し、看護師としての倫理観、死生観等について考えるための基礎的知識を学習する。

< 専門基礎分野の設定科目 >



科 目	(14) 解剖生理学 I	1年 前期	1単位	30時間
担当教員	小林 純子			
ねらい	正常な人体の構造と機能を系統的に学び、看護の対象である人間の生命活動を作り出す働きを支えるしくみと新たな生命を作り出すしくみについて学ぶ。			
到達目標	解剖生理学の基礎知識、体液の調節、皮膚・感覚器系、人体の発生と遺伝、生殖器系について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
解剖生理学の基礎知識	1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識について理解する。	1. 人体とはどのようなものか 1) 人体の階層性 2) 自然界における人類の位置 3) 社会のなかの人体 2. 人体の素材としての細胞・組織 1) 細胞の構造 2) 細胞を構成する物質とエネルギーの生成 3) 細胞膜の構造と機能 4) 細胞の増殖と染色体 5) 分化した細胞がつくる組織 3. 構造と機能からみた人体 1) 構造からみた人体 2) 機能から見た人体 3) 体液とホメオスタシス		
皮膚・感覚器系	2. 眼の構造と視覚について理解する。	1. 眼球の構造 2. 眼球付属器 3. 視覚		
	3. 耳の構造と聴覚・平衡覚について理解する。	1. 耳の構造 2. 聴覚 3. 平衡覚		
	4. 味覚と嗅覚について理解する。	1. 味覚器と味覚 2. 嗅覚器と嗅覚		
	5. 皮膚の構造と機能について理解する。	1. 皮膚の構造と機能 1) 皮膚の組織構造 2) 皮膚の付属器 3) 皮膚の血管と神経 4) 皮膚の機能		
	6. 疼痛（痛み）について理解する。	1. 痛みの分布 2. 疼痛の発生機序		
	7. 男性生殖器について理解する。	1. 精巣 2. 精路と付属生殖器 3. 男性の外陰部 4. 男性の生殖機能		

	<p>8. 女性生殖器について理解する。</p> <p>9. 受精と胎児の発生について理解する。</p> <p>10. 成長と老化について理解する。</p>	<p>1. 卵巣 2. 卵管・子宮・膣 3. 女性の外陰部と会陰 4. 乳腺</p> <p>1. 生殖細胞と受精 2. 初期発生と着床 3. 胎児と胎盤 1) 胎盤と臍帯 2) 生殖器の分化と発達 3) 妊娠中の母体の変化 4) 分娩 5) 胎児の血液循環</p> <p>1. 小児期の発達 2. 老化</p>
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」 医学書院</p> <p><参考図書> 「入門人体解剖学」南江堂 「入門組織学」南江堂 「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」西村書店</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>配布資料を熟読すること。</p>	

科 目	(15) 解剖生理学Ⅱ	1年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	中村 宅雄、菊池 真			
ね ら い	正常な人体の構造と機能を系統的に学び、看護の対象である人間の生活・精神活動を維持する働きを支えるしくみについて学ぶ。			
到達目標	筋肉系、骨格器系、脳神経系について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
筋肉系、骨格器系	<p>1. 骨格について理解する。</p> <p>2. 骨の連結について理解する。</p> <p>3. 骨格筋について理解する。</p> <p>4. 体幹の骨格と筋について理解する。</p> <p>5. 上肢の骨格と筋について理解する。</p> <p>6. 下肢の骨格と筋について理解する。</p> <p>7. 頭頸部の骨格と筋について理解する。</p> <p>8. 筋の収縮について理解する。</p>	<p>1. 骨格とはどのようなものか</p> <p>1) 人体の骨格</p> <p>2) 骨の形態と構造</p> <p>3) 骨の組織と組成</p> <p>4) 骨の発生と成長</p> <p>5) 骨の生理的機能</p> <p>1. 関節</p> <p>2. 不動性の関節</p> <p>1. 骨格筋の構造</p> <p>2. 骨格筋の作用</p> <p>3. 骨格筋の神経支配</p> <p>1. 脊柱</p> <p>2. 胸郭</p> <p>3. 背部、胸部、腹部の筋</p> <p>1. 上肢帯の骨格</p> <p>2. 自由上肢の骨格</p> <p>3. 上肢帯の筋群</p> <p>4. 上腕の筋群</p> <p>5. 前腕の筋群</p> <p>6. 手の筋群</p> <p>1. 下肢帯と骨盤</p> <p>2. 自由下肢の骨格</p> <p>3. 下肢帯の筋群</p> <p>4. 大腿の筋群</p> <p>5. 下腿の筋群</p> <p>6. 足の筋</p> <p>1. 神経頭蓋</p> <p>2. 内臓頭蓋</p> <p>3. 頭部の筋</p> <p>4. 頸部の筋</p> <p>1. 骨格筋の収縮機能</p> <p>2. 骨格筋収縮の種類と特性</p> <p>3. 不随意筋の収縮と特徴</p>		

脳神経系	<p>9. 神経系の構造と機能について理解する。</p> <p>10. 脊髄と脳について理解する。</p> <p>11. 内臓機能の調節について理解する。</p>	<p>1. 神経細胞と支持細胞 2. ニューロンでの興奮の伝達 3. シナプスでの興奮の伝達 4. 神経系の構造</p> <p>1. 脊髄の構造と機能 2. 脳の構造と機能 3. 脊髄神経と脳神経 4. 脳の高次機能 5. 運動機能と下行（遠心）伝導路 6. 感覚機能と上行伝達路</p> <p>1. 自律神経による調節 1) 自律神経の機能 2) 自律神経の構造 3) 自律神経の神経伝達物質と受容体</p>
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」 医学書院	
評価方法	筆記試験 100%	
備考・履修上の留意点	配布資料を熟読すること。	

科 目	(16) 解剖生理学Ⅲ	1年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	菊池 真			
ねらい	正常な人体の構造と機能を系統的に学び、看護の対象である人間の生命活動を維持する働きを支えるしくみについて学ぶ。			
到達目標	呼吸器系、体温調整、循環器系、血液・造血器系について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
呼吸器系	1. 呼吸器の構造について理解する。	1. 呼吸器の構造 2. 上気道 3. 下気道と肺 4. 胸膜と縦隔		
	2. 呼吸について理解する。	1. 内呼吸と外呼吸 2. 呼吸器と呼吸運動 3. 呼吸気量 4. ガス交換とガスの運搬 5. 肺の循環と血流 6. 呼吸運動の調節 7. 呼吸器系の病態生理		
循環器系	3. 循環器系の構成、心臓の構造について理解する。	1. 心臓の位置と外形 2. 心臓の4つの部屋と4つの弁 3. 心臓壁 4. 心臓の血管と神経		
	4. 心臓の拍出機能について理解する。	1. 心臓の興奮とその伝播 2. 心電図 3. 心臓の収縮		
	5. 末梢循環系の構造について理解する。	1. 血管の構造 2. 肺循環の血管 3. 全身の動脈 4. 全身の静脈		
	6. 血液の循環とその調整について理解する。	1. 血圧 2. 血液の循環 3. 血圧・血流量の調整 4. 微小循環 5. 循環器系の病態生理 6. リンパとリンパ管		
血液・造血器系	7. 血液について理解する。	1. 血液の組成と機能 2. 赤血球 3. 白血球 4. 血小板 5. 血漿たんぱく質と赤血球沈降速度 6. 血液の凝固と線維素溶解 7. 血液型		

<p>体温とその調節</p>	<p>8. リンパとリンパ管について理解する。</p> <p>9. 生体防御機構について理解する。</p> <p>10. 体温とその調整機構について理解する。</p>	<p>1. リンパ管について</p> <p>2. リンパの循環</p> <p>1. 生体防御の関連臓器</p> <p>1) リンパ節</p> <p>2) 粘膜付属リンパ組織と扁桃</p> <p>3) 胸腺</p> <p>4) 脾臓</p> <p>2. 非特異的防御機構</p> <p>1) 皮膚・粘膜における防御</p> <p>2) 食食作用、細胞傷害物質による防御</p> <p>3. 特異的防御機構 - 免疫</p> <p>1) 免疫に関与するリンパ球の機能</p> <p>2) 液性免疫</p> <p>3) 細胞性免疫</p> <p>1. 熱の出納</p> <p>2. 体温の分布と測定</p> <p>3. 体温調節</p> <p>4. 発熱</p> <p>5. 高体温と低体温</p>
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」 医学書院</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>配布資料を熟読すること。</p>	

科 目	(17) 解剖生理学Ⅳ	1年 前期	1単位	30時間
担当教員	賀佐 伸省			
ねらい	正常な人体の構造と機能を系統的に学び、看護の対象である人間の生命活動と内部環境を維持するしくみについて学ぶ。			
到達目標	消化器系、内分泌系、腎泌尿器系について理解する。			
单元名	学習目標	内 容		
消化器系	<p>1. 口・咽頭・食道の構造と機能について理解する。</p> <p>2. 腹部消化管の構造と機能について理解する。</p> <p>3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能について理解する。</p> <p>4. 腹膜について理解する。</p>	<p>1. 口の構造と機能</p> <p>2. 咽頭と食道の構造と機能</p> <p>1. 胃の構造</p> <p>2. 小腸の構造</p> <p>3. 大腸の構造</p> <p>4. 胃における消化</p> <p>5. 小腸における消化</p> <p>6. 栄養素の消化と吸収</p> <p>7. 大腸の機能</p> <p>1. 膵臓の構造と機能</p> <p>2. 肝臓と胆嚢の構造</p> <p>3. 肝臓の機能</p> <p>1. 腹膜と腸間膜</p> <p>2. 腹膜と内臓の位置関係</p> <p>3. 胃の周辺の間膜</p>		
内分泌系	<p>5. 全身の内分泌腺と内分泌細胞について理解する。</p> <p>6. ホルモンによる調節の実際について理解する。</p>	<p>1. 内分泌とホルモン</p> <p>2. ホルモンの化学構造と作用機序</p> <p>3. 視床下部 - 下垂体系</p> <p>4. 甲状腺と副甲状腺</p> <p>5. 膵臓</p> <p>6. 副腎</p> <p>7. 性腺</p> <p>8. その他の内分泌腺</p> <p>1. ホルモン分泌の調節</p> <p>2. 糖代謝の調節</p> <p>3. カルシウム代謝の調節</p> <p>4. ストレスとホルモン</p> <p>5. 乳房の発達と乳汁分泌</p> <p>6. 高血圧をきたすホルモン</p>		
腎泌尿器系	<p>7. 腎臓について理解する。</p>	<p>1. 腎臓の構造と機能</p> <p>2. 糸球体の構造と機能</p> <p>3. 尿細管の構造と機能</p> <p>4. 傍糸球体装置</p> <p>5. クリアランスと糸球体濾過量</p> <p>6. 腎臓から分泌される生理活性物質</p>		

	<p>8. 排泄路について理解する。</p> <p>9. 体液の調節について理解する。</p>	<p>1. 排泄路の構造 2. 尿の貯蔵と排尿</p> <p>1. 水の出納 2. 脱水 3. 電解質の異常 4. 酸塩基平衡</p>
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」 医学書院</p>	
<p>評価方法</p>	<p>評価は筆記試験および提出課題（ホルモン表）合計 100%</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>配布資料を熟読すること。</p>	

科 目	(18) 生化学	1年 前期	1単位	15時間
担当教員	田村 正人			
ねらい	生体を構成している主要な物質の構造と性質および機能を理解する。栄養とこれらの物質間の相互作用(代謝)を学ぶ。			
到達目標	生体を構成している主要な物質の構造と性質および機能を説明できるようになる。 栄養とこれらの物質間の相互作用(代謝)を説明できるようになる。 健康状態に影響する栄養素とビタミンの役割を説明できるようになる。			
単元名	学習目標	内 容		
生体を構成する物質の構造	1. 細胞と生体を構成する物質(糖質、脂質、たんぱく質、核酸)の構造と性質を学び、説明できるようになる。	1) 生体を構成する物質の構造		
酵素の性質と働き	2. 生体内の化学反応(同化と異化)、酵素の性質と働きを学び、説明できるようになる。	1) 生体内の化学反応(同化と異化)、酵素の性質と働き		
糖質の代謝と栄養	3. 糖質の代謝と栄養を学び、説明できるようになる。	1) 糖質の代謝と栄養		
脂質の代謝と栄養	4. 脂質の代謝と栄養を学び、説明できるようになる。	1) 脂質の代謝と栄養		
タンパク質の代謝と栄養	5. タンパク質の代謝と栄養を学び、説明できるようになる。	1) タンパク質の代謝と栄養		
核酸の代謝と遺伝子	6. 核酸の代謝と遺伝子を学び、説明できるようになる。	1) 核酸の代謝と遺伝子		
ビタミンとミネラル栄養	7. ビタミンの構造、性質と機能を学ぶ。基礎代謝と栄養について学び、説明できるようになる。	1) ビタミンの構造、性質と機能 2) 基礎代謝と栄養		
テキスト及び副教材	「わかりやすい生化学 疾病と代謝・栄養の理解のために」 ヌーヴェルヒロカワ			
評価方法	筆記試験を行う。			
備考・履修上の留意点				

科 目	(19) 栄養学	1年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	武部 久美子、野原 純子			
ねらい	近年、わが国では生活習慣病の予防施策からも食生活への関心は高く、栄養指導をはじめ看護師の役割は大きくなっている。食事と健康の関連を理解し、傷病者に対する栄養ケアおよび栄養食事療法の実際について学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養と健康の関連や人にとっての食事の意味を理解する。 ・ ライフステージによって異なる栄養を理解する。 ・ 疾患別栄養指導の実際を学ぶ。 			
テキスト及び副教材	「わかりやすい 栄養学 臨床・地域で役立つ食事指導の実際」 ニューヴェルヒロカワ 「食事療法のための食品交換表」 文光堂			
評価方法	筆記試験 80%、レポート課題 20%			
備考・履修上の留意点	一般健康人および傷病者の栄養全般について学びます。復習を心がけて、判らない事項は積極的に質問して下さい。			

【武部】(10講)

単元名	学習目標	内 容
健康と栄養	1. 健康な生活を送るための、栄養と健康の関連について理解する。生活環境の変化と食環境との関係性について理解する。	1) 栄養とは 2) 社会構造、生活環境の変化と食環境の変遷について 3) 健康的な食生活の管理
日常生活と栄養	2. ヒトにおける栄養の意味。日本人における栄養摂取の基準について理解する。	1) 生命維持と栄養 2) 日本人の食事摂取基準と摂取量の現状と課題
ライフステージと栄養①	7. 妊娠期・乳児期・幼児期の栄養療法について理解できる。	1) 妊娠期の貧血、食物アレルギー、先天性代謝異常
ライフステージと栄養②	8. 高齢期に特徴的な疾病とその栄養ケアについて学ぶ。	1) 加齢に伴う身体変化と栄養 2) 摂食・嚥下障害の栄養ケア 3) 褥瘡と栄養ケア
医療保険制度と栄養管理	9. 日本の医療保険制度における栄養管理体制について理解する	1) 入院時食事療養の制度 2) チーム医療と栄養管理実施加算 3) 栄養・食事指導
栄養ケアマネジメントとNST①	10. 傷病者の栄養評価と栄養ケアにおけるチーム連携について理解する。	1) 栄養スクリーニング 2) 栄養アセスメント
栄養ケアマネジメントとNST②	11. 傷病者の栄養評価と栄養ケアにおけるチーム連携について理解する。	1) 栄養ケアプラン 2) 栄養サポートチーム
健康施策と栄養	12. 生活習慣病の予防への国の施策と特定保健指導の実際を学ぶ。	1) 国の健康施策 2) 特定健診と特定保健指導
治療食の実際①、②	13. 疾患別治療食の実際	1) 糖尿病食の実際 2) 心臓・高血圧食の実際 3) 潰瘍食の実際

【野原】（5講）

単元名	学習目標	内 容
疾患と栄養①	3. 傷病者のための栄養食事療法について理解できる。	1) 代謝障害と栄養
疾患と栄養②	4. 傷病者のための栄養食事療法について理解できる。	1) 循環器系の障害と栄養
疾患と栄養③	5. 傷病者のための栄養食事療法について理解できる。	1) 消化器系の障害と栄養
疾患と栄養④	6. 傷病者のための栄養食事療法について理解できる。	1) 泌尿器系の障害と栄養

科 目	(20) 薬理学	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	唯野 貢司			
ねらい	薬物の効果や副作用、投与するときの注意点などを正しく理解し、薬物療法の有効性を十分に引き出すとともに、医療事故の防止と患者安全に寄与するための基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の投与方法及び投与量と薬理効果の関係を正しく理解できる。 ・薬物の人体に作用する仕組みや副作用などを正しく理解できる。 ・薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を理解できる。 			
単元名	学習目標	内 容		
薬理学総論 (2回)	1. 薬理学の概念や薬物療法の基本について理解する。	1) 薬理学とは 2) 薬物治療の目指すもの 3) 薬物と医薬品の定義 4) 薬物療法の目的		
	2. 薬理学の基礎知識を理解する。	1) 薬理作用と作用機序 2) 薬の体内挙動 3) 薬物相互作用 4) 薬効の個人差に影響する因子 5) 副作用と有害作用		
	3. 医薬品の管理や法律について理解する。	1) 医薬品と薬事関連法規 2) 医薬品の管理と取り扱い 3) 処方箋と調剤 4) 医薬品添付文書		
抗感染症薬・消毒薬 (2回)	4. 感染症治療に関する基礎事項と抗感染症薬の作用・副作用を理解する。	1) 抗感染症薬の作用機序と分類 2) 抗菌薬 3) 抗真菌薬 4) 抗ウイルス薬 5) 治療における問題点		
	5. 各種消毒薬の特性と有効性を学び、正しい選択と使用方法を理解する。	1) 消毒薬とは 2) 消毒薬の種類と使用方法		
抗がん薬・がん疼痛治療薬 (2回)	6. 抗がん薬の作用・副作用を理解する。	1) がん治療に関する基礎事項 2) 抗がん薬の種類と副作用		
	7. がん疼痛治療薬の作用・副作用を理解する。	1) がん疼痛治療の概要 2) がん疼痛治療薬の種類と副作用		
末梢神経系作用薬 (1回)	8. 交感神経作用薬・副交感神経作用薬の薬理作用と応用について学ぶ。	1) 交感神経と副交感神経の役割 2) アドレナリン・コリン作動薬 3) 筋弛緩薬 4) 局所麻酔薬		
	9. 筋弛緩薬・局所麻酔薬の薬理作用と応用について学ぶ。			
中枢神経系作用薬 (2回)	10. 中枢神経系作用薬の薬理作用と応用について学ぶ。	1) 全身麻酔薬 2) 催眠薬・抗不安薬 3) 抗精神病薬 4) 抗うつ薬・気分安定薬 5) 抗てんかん薬 6) パーキンソン症候群治療薬		

<p>物質代謝作用薬 (1回)</p> <p>循環器系作用薬 (2回)</p> <p>抗アレルギー薬・抗炎症薬・呼吸器系作用薬 (1回)</p> <p>消化器系作用薬・生殖器・泌尿器系作用薬 (1回)</p> <p>その他 (1回)</p>	<p>11. 各種ホルモンの作用と役割、ホルモン拮抗薬の薬理作用と応用について学ぶ。</p> <p>12. 代表的なビタミンについてその役割、特徴を学ぶ。</p> <p>13. 高血圧・その他循環器系疾患治療薬の作用・副作用を理解する。</p> <p>14. 炎症の発生機序とアレルギー疾患・その他免疫疾患治療薬について学ぶ。</p> <p>15. 呼吸器系疾患治療薬の作用・副作用を理解する。</p> <p>16. 消化器疾患治療薬の作用・副作用を理解する。</p> <p>17. 性ホルモン由来の生殖器疾患治療薬・泌尿器系疾患治療薬について学ぶ。</p> <p>18. 輸血の目的と適応を学び、副作用への対応を理解する。</p> <p>19. 輸液の使用目的と適応を学ぶ。</p> <p>20. 皮膚科用薬・点眼薬の使用目的と特徴を学ぶ。</p> <p>21. 薬物中毒とその解毒薬について学ぶ。</p> <p>22. 看護師に必要な計算を理解する。</p>	<p>1) 糖尿病治療薬</p> <p>2) 甲状腺疾患治療薬</p> <p>3) 骨粗鬆症治療薬</p> <p>4) 代表的なビタミンとその役割、欠乏症、特徴について</p> <p>1) 高血圧治療薬</p> <p>2) 狭心症治療薬</p> <p>3) 心不全治療薬</p> <p>4) 抗不整脈薬</p> <p>5) 利尿薬</p> <p>6) 脂質異常症治療薬</p> <p>7) 抗血液凝固薬</p> <p>8) 貧血治療薬</p> <p>1) 非ステロイド性抗炎症薬</p> <p>2) ステロイド性抗炎症薬</p> <p>3) 抗アレルギー薬</p> <p>4) 関節リウマチ治療薬</p> <p>5) 痛風・高尿酸血症治療薬</p> <p>6) 免疫治療薬</p> <p>1) 気管支喘息治療薬</p> <p>2) 鎮咳薬</p> <p>3) 去痰薬</p> <p>4) 呼吸促進薬</p> <p>1) 消化性潰瘍治療薬</p> <p>2) 健胃・消化薬</p> <p>3) 制吐薬</p> <p>4) 下剤</p> <p>5) 止痢薬</p> <p>6) 潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬</p> <p>1) 女性生殖器作用薬</p> <p>2) 男性生殖器作用薬</p> <p>3) 泌尿器系作用薬</p> <p>1) 輸血用血液製剤</p> <p>2) 輸液製剤の目的と適応</p> <p>1) 皮膚科用薬・点眼薬の種類と適応、使用上の注意点等</p> <p>1) 解毒薬</p> <p>3) 看護業務において必要となる計算を学ぶ(演習)</p>
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進[3]」 医学書院</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>		

科 目	(21) 病理学	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	高谷 あかり、菊池 泰弘、柳川 純子			
ねらい	正常な人間の構造と機能の理解を踏まえ、看護の対象の健康レベルや病気の経過、予後を理解するために、病気の原因、経過、機能的・形態的变化についての基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	病気の原因と発病の仕組み、疾病の分類について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
病理学で学ぶこと	1. 病理学の基礎知識を身につける。	1. 看護と病理学 2. 病気の原因 3. 疾病の分類		
先天異常と遺伝子異常	2. 先天異常と遺伝子異常について理解する。	1. 先天異常とは 2. 遺伝子異常 3. 遺伝性疾患 4. 染色体異常による疾患 5. 胎児の障害 6. 先天異常・遺伝子性疾患の診断		
代謝障害	3. 代謝障害について理解する。	1. 細胞の損傷と適応 2. 物質沈着 3. 脂質代謝障害と疾患 4. たんぱく質代謝障害と疾患 5. 糖質代謝障害と疾患 6. その他の代謝障害と疾患		
循環障害	4. 循環障害について理解する。	1. 循環器系の概要 2. 局所性の循環障害 3. 全身性の循環障害 4. リンパの循環障害		
炎症	5. 炎症について理解する。	1. 炎症 2. 炎症の各型		
免疫とアレルギー	6. 免疫とアレルギーについて理解する。	1. 免疫 2. アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 3. 移植と免疫		
感染症	7. 感染症について理解する。	1. 病原体と感染症 2. 宿主の防御機構 3. おもな病原体と感染症 4. 感染症の治療 5. 感染症の予防		

腫瘍	8. 腫瘍について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 腫瘍の定義と分類 2. 腫瘍の発生病理 3. 悪性腫瘍の転移と進行度 4. 腫瘍の診断と治療 5. 腫瘍の統計
老化と死	9. 老化と死について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 細胞の老化と固体の老化 2. 加齢に伴う諸臓器の変化 3. 個体の死
病理検査	10. 病理検査について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 1. 病理検査の意義
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進 [1]」 医学書院	
評価方法	筆記試験 100%	
備考・履修上の留意点		

科 目	(22) 病態学 I	1 年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	小島 隆、小寺 祐貴、進藤 悠真			
ねらい	病理学で学んだ知識を基に、代表的な疾患とその要因・原因、健康障害に伴う生体の変化、診断に必要な検査、治療法、予後についての基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	呼吸器、循環器、血液・造血器疾患について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
循環器	<ul style="list-style-type: none"> 1. 循環器系疾患の基礎知識を身につける。 2. 循環器系の構造と機能について理解する。 3. 循環器系の疾患について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 医療の動向 2. 患者の特徴 3. 疾患の経過 1. 心臓の構造と機能 2. 血管の構造と機能 1. 症状とその病態生理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 胸痛 2) 動悸 3) 呼吸困難 4) 浮腫 5) チアノーゼ 6) 失神 7) 四肢の疼痛 8) ショック 2. 検査と治療・処置 <ul style="list-style-type: none"> 1) 診察と診断の流れ 2) 検査 3) 治療・処置 3. 疾患の理解 <ul style="list-style-type: none"> 1) 虚血性心疾患 2) 心不全 3) 血圧異常 4) 不整脈 5) 弁膜症 6) 心膜炎 7) 心筋疾患 8) 肺性心 9) 先天性心疾患 10) 動脈系疾患 11) 静脈系疾患 12) リンパ系疾患 		
呼吸器	<ul style="list-style-type: none"> 4. 呼吸器系疾患の基礎知識を身につける。 5. 呼吸器系の構造と機能について理解する。 6. 呼吸器系の疾患について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 医療の動向 2. 患者の特徴 3. 疾患の経過 1. 呼吸器系の構造 2. 呼吸の生理 1. 症状とその病態生理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 自覚症状 2) 他覚症状 2. 検査と治療・処置 <ul style="list-style-type: none"> 1) 診察と診断の流れ 2) 検査 3) 治療・処置 		

<p>血液・造血器</p>	<p>7. 血液・造血器疾患の基礎知識を身につける。</p> <p>8. 血液の生理と造血のしくみについて理解する。</p> <p>9. 血液・造血器疾患について理解する。</p>	<p>3. 疾患の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症 2) 間質性肺疾患 3) 気道疾患 4) 肺血栓塞栓症 5) 呼吸不全 6) 呼吸調節に関する疾患 7) 肺腫瘍 8) 肺・肺血管の形成異常 9) 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 10) 肺移植 11) 胸部外傷 <p>1. 医療の動向</p> <p>2. 患者の特徴</p> <p>1. 血液の成分と機能</p> <p>2. 造血のしくみ</p> <p>1. 症状とその病態生理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 貧血 2) 白血球増加症 3) 白血球減少症 4) 脾腫 5) リンパ節腫脹 6) 出血性素因 <p>2. 検査と治療・処置</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 検査 2) 血液型と輸血 3) 造血器腫瘍の分類 4) 造血器腫瘍治療の基本理念 <p>3. 疾患の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 赤血球系の疾患 2) 白血球系の疾患 3) リンパ網内系疾患 4) 異常タンパク血症 5) 出血性疾患
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進[2]」 医学書院</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>		

科 目	(23) 病態学Ⅱ	1年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	菊池 真、徳田 禎久、村上 宣人、非常勤講師			
ねらい	病理学で学んだ知識を基に、代表的な疾患とその要因・原因、健康障害に伴う生体の変化、診断に必要な検査、治療法、予後についての基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	消化器系、脳・神経、運動器疾患について理解する。			
单元名	学習目標	内 容		
消化器	<ul style="list-style-type: none"> 1. 消化器系疾患の基礎知識を身につける。 2. 消化器系の構造と機能について理解する。 3. 消化器系疾患について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 医療の動向 2. 患者の特徴 3. 疾患の経過 <ul style="list-style-type: none"> 1. 消化器の構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> 1. 症状・徴候とその病態生理 <ul style="list-style-type: none"> (1) 消化器疾患の症状・徴候とその病態生理 (2) 肝臓疾患に特有の症状・徴候とその病態生理 2. 検査と治療・処置 <ul style="list-style-type: none"> (1) 診察と診断の流れ (2) 検査 (3) 治療・処置 3. 疾患の理解 <ul style="list-style-type: none"> (1) 食道の疾患 (2) 胃・十二指腸疾患 (3) 腸および腹膜疾患 (4) 肝臓・胆嚢の疾患 (5) 膵臓の疾患 (6) 急性腹症 (7) 腹部外傷 		
脳・神経	<ul style="list-style-type: none"> 4. 脳・神経系疾患の基礎知識を身につける。 5. 脳・神経系の構造と機能 6. 脳・神経系疾患について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 医療の動向 2. 患者の特徴 3. 疾病の経過 <ul style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経系の構造と機能 2. おもな脳神経の機能別解剖学 <ul style="list-style-type: none"> 1. 症状とその病態生理 2. 検査・診断と治療・処置 <ul style="list-style-type: none"> (1) 診断と診察の流れ (2) 検査 (3) 治療 3. 疾患の理解 <ul style="list-style-type: none"> (1) 脳疾患 (2) 脊髄疾患 (3) 末梢神経障害 (4) 神経・筋疾患 (5) 脱髄・変性疾患 (6) 脳・神経系の感染症 (7) 中毒 (8) てんかん 		

運動器	<p>7. 運動器疾患の基礎知識を身につける。</p> <p>8. 運動器の構造と機能について理解する。</p> <p>9. 運動器疾患について理解する。</p>	<p>1. 医療の動向</p> <p>2. 患者の特徴</p> <p>3. 疾病の経過</p> <p>1. 運動器の構造と機能</p> <p>1. 症状とその病態生理</p> <p>(1) 疼痛</p> <p>(2) 形態の異常</p> <p>(3) 関節運動の異常</p> <p>(4) 神経の障害</p> <p>(5) 異常歩行または跛行</p> <p>(6) 筋肉の障害</p> <p>(7) その他の障害</p> <p>2. 診断・検査と治療・処置</p> <p>(1) 診察・診断の流れ</p> <p>(2) 検査</p> <p>(3) 治療・処置</p> <p>3. 疾患の理解</p> <p>(1) 外傷性（外因性）の運動器疾患</p> <p>(2) 内因性（非外傷性）の運動器疾患</p>
テキスト及び副教材	<p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進[2]」 医学書院</p>	
評価方法	筆記試験 100%	
備考・履修上の留意点		

科 目	(24) 病態学Ⅲ	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	齋藤 重幸、佐野 敬夫			
ねらい	病理学で学んだ知識を基に、代表的な疾患とその要因・原因、健康障害に伴う生体の変化、診断に必要な検査、治療法、予後についての基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	内分泌・代謝、腎、泌尿器・生殖器疾患について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
内分泌・代謝	<p>1. 内分泌・代謝疾患の基礎知識を身につける。</p> <p>2. 内分泌・代謝器官の構造と機能について理解する。</p> <p>3. 内分泌・代謝疾患について理解する。</p>	<p>1. 医療の動向</p> <p>2. 患者の特徴</p> <p>3. 疾患の経過と看護</p> <p>1. 内分泌器官の構造と機能</p> <p>2. 代謝の概要と機能</p> <p>1. 症状とその病態生理</p> <p>1) 救急の場面で内分泌・代謝疾患を疑う所見</p> <p>2) 一般診療で内分泌・代謝疾患を疑う所見</p> <p>2. 検査</p> <p>1) 内分泌疾患の検査</p> <p>2) 代謝疾患の検査</p> <p>3. 疾患の理解</p> <p>1) 内分泌疾患</p> <p>2) 代謝疾患</p>		
腎・泌尿器	<p>4. 腎・泌尿器疾患の基礎知識を身につける。</p> <p>5. 腎・泌尿器の構造と機能について理解する。</p> <p>6. 腎・泌尿器疾患について理解する。</p>	<p>1. 医療の動向</p> <p>2. 患者の特徴</p> <p>3. 疾患の経過</p> <p>1. 腎・泌尿器の構造と機能</p> <p>1. 病状とその病態生理</p> <p>1) 尿の異常</p> <p>2) 排尿に関連した症状</p> <p>3) 浮腫</p> <p>4) 水と電解質の異常</p> <p>5) 高血圧</p> <p>6) 循環器系の異常</p> <p>7) 血液の異常</p> <p>8) 尿毒症</p> <p>9) 疼痛(圧痛、仙痛)</p> <p>10) 腫脹・腫瘍</p> <p>11) その他の症状</p> <p>2. 検査と治療</p> <p>3. 疾病の理解</p> <p>1) 腎不全</p> <p>2) ネフローゼ症候群</p> <p>3) 糸球体腎炎</p> <p>4) その他</p>		

生殖器	<p>7. 生殖器疾患の基礎知識を身につける。</p> <p>8. 生殖器の構造と機能について理解する。</p> <p>9. 生殖器疾患について理解する。</p>	<p>1. 医療の動向 2. 患者の特徴 3. 疾患の経過</p> <p>1. 女性生殖器の構造と機能 2. 男性生殖器の構造と機能</p> <p>1. 症状とその病態生理 2. 診察・検査と治療・処置 1) 診察・検査 2) 治療・処置 3. 疾患の理解 1) 性分化疾患 2) 臓器別疾患 3) 機能的疾患 4) 感染症</p>
テキスト及び副教材	<p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器」 医学書院 「系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進[2]」 医学書院</p>	
評価方法	筆記試験 100%	
備考・履修上の留意点		

科 目	(25) 病態学Ⅳ	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	幸野 貴之、吉田 重光、非常勤講師、米坂 理絵			
ねらい	病理学で学んだ知識を基に、代表的な疾患とその要因・原因、健康障害に伴う生体の変化、診断に必要な検査、治療法、予後についての基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	アレルギー、膠原病、感染症、感覚器疾患について理解する。			
单元名	学習目標	内 容		
アレルギー	1. アレルギー疾患の基礎知識を身につける。	1. 医療の動向 2. 患者の特徴		
	2. 免疫のしくみについて理解する。	1. 病気における免疫のしくみ		
	3. アレルギー疾患について理解する。	1. 検査と治療 1) 検査と診断 2) 治療 2. 症状と疾患の理解 1) 気管支喘息 2) アレルギー性鼻炎 3) アトピー性皮膚炎 4) 薬物のアレルギー 5) アナフィラキシー		
膠原病	4. 膠原病の基礎知識を身につける。	1. 医療の動向 2. 患者の特徴		
	5. 膠原病について理解する。	1. 自己免疫疾患とその機序 1) 免疫トレランス 2. 症状とその病態生理 1) 関節痛・関節炎 2) レノイー現象 3) その他 3. 検査と治療 1) 検査 2) 治療 4. 疾患の理解 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーテス 3) 全身性強皮症 4) その他		

科 目	(26) 治療論 I	2年 前期	1 単位	15 時間
担当教員	中村 宅雄、平澤 之規、非常勤講師			
ね ら い	内科系治療法の基本的知識を修得する。			
到達目標	薬物療法、食事療法、運動療法、リハビリテーション療法、放射線療法、内視鏡治療について、基本的方法と主要な治療法の知識を修得する。			
単元名	学習目標	内 容		
運動療法	1. 運動療法の目的、対象疾患、処方、効果、副作用について基礎的知識を修得する。	1) 運動療法の目的・対象・副作用・処方・効果		
リハビリテーション療法	2. リハビリテーション療法の目的、種類と内容について基礎的知識を修得する。	1) リハビリテーション療法の目的・種類と内容		
放射線療法	3. 放射線療法の目的、種類と内容、対象疾患、治療の実際、副作用について基礎的知識を修得する。	1) 放射線療法の目的・種類・対象疾患・治療の実際・副作用		
内視鏡治療	4. 内視鏡治療の目的、止血手技、食道・胃静脈瘤治療、消化管狭窄治療について基礎的知識を修得する。	1) 内視鏡治療の目的・止血手技・消化管静脈瘤治療・狭窄治療		
テキスト及び副教材	「新体系 看護学全書 治療法概説」 メヂカルフレンド社			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	国家試験出題基準に留意する。			

科 目	(27) 治療論Ⅱ	2年 前期	1 単位	15 時間
担当教員	松原 泉			
ね ら い	外科的治療法の基本的知識を修得する。			
到達目標	手術手技・処置、麻酔、手術室管理、術前・後の管理、外科的侵襲、感染症、生体損傷、救急医療、臓器移植について基本的知識を修得する。			
単元名	学習目標	内 容		
外科手術手技・処置	1. 術前処置、手術手技および処置の実際について基礎的知識を修得する。	1) 手術の目的、術前処置、手術手技・処置の実際		
麻酔の知識	2. 麻酔の種類、麻酔の実際、麻酔の看護、麻酔事故について基礎的知識を修得する。	1) 麻酔の歴史・種類・方法の実際・麻酔事故・麻酔と看護		
手術室の管理	3. 手術室の運営・設備・備品、手術準備、滅菌と消毒、手洗いとガウンテクニックについて基礎的知識を修得する。	1) 手術室の運営・設備、手術準備、滅菌と消毒、手洗いとガウンテクニック、回復室		
術前・術後管理	4. 術前管理、術後管理、ICU、術後合併症の管理について基礎的知識を修得する。	1) 術前管理、術後管理、ICUでの管理、術後合併症		
外科的侵襲と感染症	5. 手術侵襲と生体反応、外科感染症、感染予防について基礎的知識を修得する。	1) 手術侵襲、生体反応、外科感染症、院内感染		
テキスト及び副教材	「新体系 看護学全書 治療法概説」 メヂカルフレンド社			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	国家試験出題基準に留意する。			

科 目	(28) 微生物学	1年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	柴田 健一郎			
ね ら い	微生物の構造や感染戦略ならびに生体側の微生物の認識・排除機構を細胞・分子レベルで理解している看護師を育成する。			
到達目標	微生物の種類、構造ならびに感染戦略を理解する。 生体側の微生物の認識・排除機構を理解する。 滅菌・消毒、化学療法ならびに感染症対策を理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
微生物と微生物学 細菌の性質 真菌・原虫の性質 ウイルスの性質 感染と感染症 感染と生体防御機構 中間テスト 感染症の予防、診断、治療 主な細菌感染症 主な真菌、原虫感染症 主なウイルス感染症	1. 細菌学、ウイルス学、化学療法等の歴史を理解する。 2. 細菌の種類、構造、増殖様式等を理解する。 3. 真菌、原虫の種類、構造、増殖様式等を理解する。 4. ウイルスの種類、構造、増殖様式等を理解する。 5. 病原微生物の感染戦略を理解する。 6. 自然免疫、獲得免疫、粘膜免疫のしくみを理解する。 7. 滅菌法、消毒法、予防接種ならびに化学療法を理解する。 8. 代表的なグラム陽性球桿菌とグラム陰性球桿菌感染症の発症メカニズムを理解する。 9. 主な真菌、原虫感染症の発症メカニズムを理解する。 10. 主なウイルス感染症の発症メカニズムを理解する。	1) ルイ・パスツールやロバート・コッホの偉業 1) グラム陽性球桿菌とグラム陰性球桿菌の構造や増殖様式 1) 菌糸状、酵母用形態、有性世代と無性世代 1) インフルエンザウイルス、エイズウイルス、肝炎ウイルス等の構造と感染戦略 1) 感染源、感染経路、定着因子、侵入因子、毒素等 1) Toll 様受容体、貪食、補体、NK 細胞、抗原提示、MHC 分子、T 細胞、B 細胞、抗体 1) β -ラクタム系、マクロライド系薬剤等、MRSA、VRE 1) 化膿連鎖球菌、肺炎連鎖球菌、レジオネラ菌、腸内細菌、抗酸菌、ピロリ菌、マイコプラズマ等 1) カンジダ、クリプトコッカス等 1) HSV、HBV、HCV、HIV、インフルエンザウイルス等		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進[4]」 医学書院			
評価方法	中間テストと修了時テストを行い、合わせて100点として評価する。			
備考・履修上の留意点	毎回の講義内容を理解するために、次の講義の冒頭に前回の講義内容で確認テストを行い、解説する。			

科 目	(29) 総合医療論	1年 前期	1単位	15時間
担当教員	小林 宣道、相馬 仁、山本 武志			
ね ら い	医療の全体像を理解する。 健康な生活を確保するための医学が果たす役割と課題、生活者が必要としている医療サービスを理解し、医療者に必要な態度について学ぶ。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療の意味としくみを理解したうえで、医療の問題点とこれからの医療について自分の意見を述べることができる。 ・疾病の理解と治療に行動科学的視点を加える。 			
単元名	学習目標	内 容		
医療の原点	1. 生命・死・健康・病・医療の根源的な意味を理解し、個人・家族・社会との関係で医療を考える。	1) 生命・死・健康・病・医療の意味		
医療の歴史	2. 医療の歴史と医療観の移り変わりについて理解する。	1) 医療の起源、近代の医療、医療観の移り変わり		
生活と医療	3. 医療のしくみと保健・福祉行政について理解し、疾病予防・高齢社会・障害者・精神病の医療を考える。	1) 医療の仕組み、保健、福祉行政、生活習慣病、高齢者医療、障害者医療、精神医療		
先端医療と倫理	4. 先端医療の具体例を知ると同時に、その負の側面も理解する。	1) 先端医療技術、副作用・医原病・延命治療・死の判定の倫理、環境問題		
成熟社会と医療	5. 医療不信とインフォームドコンセントについて理解する。	1) 医療不信、インフォームドコンセント、医療訴訟		
学問としての医療	6. 生命倫理学、医療管理学、臨床疫学など、医療を扱う学問について理解する。	1) 生命倫理学、医療管理学、臨床疫学		
これからの医療	7. 現代医療の新しい側面を知り、これからの医療について考える。	1) 面接技法、チーム医療、在宅医療、緩和ケア、先端技術、情報技術、地域医療、国際化		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度[1]総合医療論」 医学書院			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	国家試験出題基準に留意する。			

科 目	(30) 公衆衛生学	3年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	玉城 英彦			
ねらい	健康の保持増進に携わる看護師の看護活動に活かすために必要な公衆衛生学の最低限の基礎知識を学ぶ。			
到達目標	公衆衛生の概念と基本的な内容を理解する。 集団の健康と環境との関連を学ぶ。 さまざまな健康保健の内容を学び現状と課題を理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
公衆衛生とは	1. 公衆衛生の概念と基本的な内容を理解する。	1) 公衆衛生の定義 2) 公衆衛生の領域と活動の特徴 3) 健康の定義・予防の概念 4) 公衆衛生の歴史		
健康と環境、疫学的方法	2. 健康は環境要因を含めて、多くの要因で成り立っていることを理解する。	1) 健康と環境 2) 集団の健康被害の理解		
健康の指標	3. 疫学は、集団を対象に多要因を解析する重要な技法の一つである、その基本的な方法を学習する。	1) 集団検診 2) 疫学研究技法		
感染症とその予防	4. 集団の健康水準を測定する尺度を理解する。	1) 人口問題 2) 人口動態統計		
食品保健と栄養	5. 感染症の成立要因と伝播様式を理解し、その発生予防やまん延防止の方策について学ぶ。	1) 感染症とは 2) 感染症の成立要因と流行 3) 感染症の動向と感染症法 4) 感染症予防の基本と対策 5) 主な感染症		
生活環境の保全	6. 食生活の安全を確保するため、食中毒予防の知識技術と食品衛生の制度を理解する。	1) 食品の安全 2) 食品衛生管理		
医療制度と地域保健活動	7. 現代の生活が環境に何をもたらし、人々の健康にどのように影響しているかを理解する。	1) 地球環境の問題 2) 行政と法 3) 飲料水の安全・排水 4) 大気汚染 5) 環境ホルモン 6) 公害・ごみ・放射性廃棄物		
母子保健	8. 国民の健康を守るための法や制度を理解する。	1) 医療保障・医療保険 2) 高齢者医療制度 3) 国民医療費 4) 地域保健法		
	9. 少子化が急激に進行するなかで、わが国の母子保健の現状と今後の方向について学ぶ。	1) 歴史的経過 2) 死亡率 3) 母子保健事業		

学校保健	10. 学校保健の内容とわが国の保健対策の中でどのような位置にあるのかを学ぶ。	1) 学校衛生の歴史 2) 保健教育
産業保健	11. 産業保健と働く人々を支える仕組みを学ぶ。	1) 労働環境と健康 2) 労働衛生管理 3) 職業病の予防と対策
生活習慣病と難病	12. わが国最大の死因である生活習慣病の現状と対策を学ぶ。難病は原因が不明であり医療機関だけでなく、地域全体で支えていくことが重要であることを理解する。	1) 生活習慣病対策 2) 老人保健 3) 健康日本21と健康増進法 4) 医療施設の整備と医療費負担の軽減
ヘルスプロモーション	13. 健康教育とヘルスプロモーションの概念や、その取り組みについて学ぶ。	1) 健康教育とは・その方法 2) ヘルスプロモーションとその方法
まとめ		
テキスト及び副教材	「わかりやすい公衆衛生学」 「手洗いの疫学 ゼンメルワイズの闘い」 「国民衛生の動向 2020」	
評価方法	ヌーヴェルヒロカワ 人間と歴史社 一般財団法人厚生労働統計協会	
備考・履修上の留意点	筆記試験 100%	

科 目	(31) 口腔保健	2年 前期	1 単位	15 時間
担当教員	山崎 裕、中村 麻希			
ねらい	近年、わが国では、人口の急速な高齢化に伴い、疾病構造が変化し、それに対応した良質な保健医療サービスが求められるようになりました。口腔の健康管理に対する国民の関心は年々高まってきており、口腔の健康管理に従事する看護師の果たす役割は今後ますます重要になると考えられます。口腔保健では、看護学生がこれから歯科医学や歯科臨床を学習するために必要な基礎知識について述べます。			
到達目標	1) 歯科医療の概要を理解できる。 2) 歯科医学や歯科臨床の基礎的知識を習得できる。 3) ライフサイクルに沿って口腔保健の意義と実際を理解できる。 4) 歯科臨床における看護師の果たす役割を理解できる。			
単元名	学習目標	内 容		
歯科医療の動向と看護 歯・口腔の構造と機能 口腔症状とその病態生理 検査と治療・処置 口腔疾患の理解 歯科患者の看護 口腔ケア 口腔保健の意義	1. 最近の医療の動向をふまえ、歯科・口腔疾患患者がかかえているさまざまな身体的問題および心理・社会的問題を通して患者を理解する。 2. 歯・口腔の構造と機能について学び、歯科・口腔疾患との関係を理解する。 3. 歯科・口腔疾患に伴うおもな障害の症状と発生機序および病態生理を理解する。 4. 歯科・口腔疾患の診察・診断・治療の概要を理解し、看護に必要な知識を習得する。 5. おもな歯科・口腔疾患の病態生理を理解し、看護を行う上で必要な基本知識を習得する。 6. 歯科・口腔領域におけるさまざまな障害の特徴をふまえ、患者に対する看護の実際を学習する。 7. 口腔ケアの目的・意義を理解し、看護に必要な知識を習得する。	1) 医療の動向と看護 2) 患者の特徴 3) 看護の役割 1) 歯および歯周組織 2) 口腔粘膜 3) 顎関節 4) 唾液腺 1) 口腔症状 2) 顎口腔機能障害 1) 診療と診断の流れ 2) 検査 3) 治療・処置 1) 歯の異常と疾患 2) 顎口腔の疾患 1) 口腔症状に対する看護 2) 治療・処置を受ける患者の看護 3) 全身疾患を持つ患者の口腔ケアの実際を知る 1) 口腔ケアとは 2) 発達段階の応じた歯の健康とケアの意義 (※ 歯科衛生士学校演習見学)		
テキスト及び副教材	「成人看護学15「歯・口腔」」 医学書院			
評価方法	出席率ならびに小テストと筆記試験の成績を総合的に評価する。			
備考・履修上の留意点	わからないことは授業中に解決するようにしてください。そのためには積極的に質問することが大切です。 口腔清掃法や歯のブラッシング法を、歯科衛生士専門学校の歯科保健指導実習の見学をすることで実践的に学びます。			

科 目	(32) 関係法規	3年 後期	1単位	30時間
担当教員	原田 亮太			
ねらい	看護職の基盤となる関係法規と法的考え方について理解し、看護業務を遂行するための法的基礎を学ぶ。			
到達目標	1. 看護職が果たすべき法的責任について理解する。 2. 医事関連法規、および看護職の業務に関連する法規、諸制度を理解する。 3. 医療事故、および医療過誤の動向と看護職の責務について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
看護活動と法の関係 看護職の業務、および保健医療専門職の業務 保健衛生法規（公衆衛生法） 予防衛生法規 社会福祉に関する法律 社会保険に関する法律 医薬品医療機器等法（旧薬事法）と看護管理 医療事故と看護職の責任 労働に関する法律 医療情報と看護	1. 看護活動と関連法規の関わりを理解する。 2. 保健師助産師看護師法に規定されている看護職の業務と責任を理解する。 3. 保健医療専門職の業務規程の概要を理解する。 4. 保健衛生に関する基本理念と法の体系を理解する。 5. 予防衛生法規の目的、種類、対象を理解する。 6. 社会福祉関連法による公的サービスを理解する。 7. 我が国の社会保険制度を理解する。 8. 旧薬事法規に明記されている医薬品の管理方法を理解する。 9. 看護職が関わる医療事故、医療過誤の近年の動向を理解する 10. 看護職の民事責任、刑事責任、行政上の責任について理解する。 11. 医療従事者の視点から労働に関する法律の基本的考え方を理解する。 12. 医療情報の保護、および個人情報保護に関わる看護管理上の注意について理解する。	1) 法の概念 2) 関連法規の概要、法の種類 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保に関する法律 3) 医療関係資格法 4) 医療法 1) 地域保健法 2) 健康増進法 3) 母子保健法・母体保護法 4) 精神保健及び精神障害者に関する法律 5) 学校保健安全法 1) 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律 2) 予防接種法 1) 社会福祉関連法規 1) 医療保険制度 2) 年金保険制度 3) 介護保険制度 4) 雇用保険制度 5) 労災保険制度 1) 医薬品医療機器等法（旧薬事法） 1) 医療事故と医療過誤 2) 療養上の世話、診療の補助行為にともなう事故例 3) 民事・刑事・行政上の責任 1) 労働関連法規 2) 社会基盤の整備 1) 個人情報保護法 2) 守秘義務		
テキスト及び副教材	健康支援と社会保障制度[4]「看護関係法令」 上記の他、講義の各回で参考資料を配布する。		医学書院	
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	看護職者として法律を学ぶことの意義・目的を理解し、主体的に学習してください。			

科 目	(33) 社会福祉	2年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	杉岡 直人、畠山 明子			
ねらい	社会福祉と社会保障制度について看護専門職に関連させた講義をおこなう。			
到達目標	医療サービス利用者とその家族を支援する機会のある看護専門職に求められる医療保障・社会保障および社会福祉サービスの利用について理解を深め、社会福祉専門職との効果的な連携を図ることができるようにすることを目標とする。			
単元名	学習目標	内 容		
社会福祉の歴史	1. 社会福祉の歴史を学ぶ。	1) 福祉史の枠組み、福祉史の3段階、前近代の救済の諸相、近代の救済の諸相、現代社会への構造変化と生活支援、戦後の社会福祉の再生		
社会保障制度と社会福祉	2. オリエンテーションとして、科目の全体像を学習する。	1) 社会保障制度、社会福祉の法律制度		
現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向(1)	3. 現代社会の変化を人口・家族・雇用・地域社会の変化を取り上げ学習する。	1) 現代社会の変化 (人口、地域社会、家族・個人、経済、雇用状況)		
現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向(2)	4. 社会保障・社会福祉の動向と社会福祉サービスの総合化について学ぶ。	1) 社会保障・社会福祉の動向 (社会保障制度・保健医療・社会福祉の動向)		
医療保障(1)	5. 医療保険制度と健康保険および高齢者医療制度のしくみを学ぶ。	1) 医療保険制度の沿革・構造と体系、健康保険と国民健康保険、高齢者医療制度		
医療保障(2)	6. 保険診療のしくみ・公費負担医療や国民医療費の現状と課題について理解を深める。	1) 保険診療のしくみ、公費負担医療、国民医療費		
介護保障(1)	7. 介護保険制度の歴史と概要を学ぶ。	1) 介護保険制度創設の背景と歴史・制度の概要		
介護保障(2)	8. 介護保険制度の見直しと課題を学習する。	1) 介護保険制度の課題と展望		
所得保障	9. 所得保障制度のしくみと年金制度および社会手当と労働保険制度について学ぶ。	1) 所得保障制度のしくみ、年金保険制度、社会手当、労働保険制度		
公的扶助	10. 貧困低所得問題と公的扶助制度の現状とあり方について学ぶ。	1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度、生活保護制度のしくみ・低所得者対策、近年の動向		

社会福祉の分野とサービス (1)	11. 高齢者福祉と障害者福祉の制度の現状と課題を考える。	1) 高齢者福祉 (高齢者の状況、高齢者福祉の施策、老人保健事業) 障害者福祉 (障害者の定義と実態、障害者福祉の理念、障害者福祉制度の変遷、新たな法体系の整備)
社会福祉の分野とサービス (2)	12. 障害者福祉と児童福祉の制度の現状と課題を考える。	1) 障害者福祉 (障害者福祉の関連施策)
社会福祉の分野とサービス (3)	13. 児童家庭福祉の制度の現状と課題を考える。	1) 児童家庭福祉、 (児童と育ちの環境としての家庭生活の現状、児童にかかわる法と施策、少子化対策と子育て支援、児童虐待対策、子どもの人権と貧困対策)
社会福祉実践と医療・看護 (1)	14. ケースワーク・グループワーク・間接援助技術および社会福祉援助の課題について学ぶ。	1) 社会福祉援助とは、ケースワーク、グループワーク、間接援助技術と関連援助技術、社会福祉援助の検討課題
社会福祉実践と医療・看護 (2)	15. 社会福祉実践と医療と看護との連携の実際と方法について考える。	1) 連携の重要性、社会福祉実践と医療・看護との連携、連携の場面とその方法
テキスト及び副教材	テキスト「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3]」 社会保障・社会福祉 (第18版) 医学書院 副教材としてDVD等の活用を図る	
評価方法	講義内容に関するミニテストおよび筆記試験の成績によって判定する。	
備考・履修上の留意点	社会福祉・医療・介護関係の新聞記事および厚労省のHP (http://www.mhlw.go.jp/) に目を通し、幅広く制度政策の動向を学習すること。	

科 目	(34) 生命倫理	3年 後期	1単位	15時間
担当教員	小林 知恵、井平 圭			
ねらい	3年間の臨地実習の体験を基に、現代の医療及び看護の抱えている倫理に関する問題を取り上げ、人間の生命と生活に深く関わる看護師としての倫理観を育む。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理誕生の経緯を理解する。 ・生命倫理上の問題への対応を学ぶ。 ・現在の医療倫理の課題を考える。 			
単元名	学習目標	内 容		
生命倫理の歴史と日本への導入	1. 生命倫理（バイオエシックス）の誕生の背景を学ぶ。	1) 古代の医療倫理		
インフォームド・コンセントを巡って	2. 古代から近代の医療倫理の変遷を学ぶ。	2) 中世から近代		
患者の主体性を巡って （難病患者と要介護高齢者を巡る倫理的問題）	3. インフォームド・コンセント（IC）を通じて患者の権利を学ぶ。	3) 現代の生命・医療倫理		
バイオエシックスの諸問題	4. 難病患者と要介護高齢者の問題を通じて医療者の倫理的なあり方を学ぶ。	1) ICの確立		
	5. 生殖医療の課題（1）出生前診断と選択的妊娠中絶について学ぶ。	2) ICの内容と問題点		
	6. 生殖医療の課題（2）生殖医療技術の発達とその問題点について学ぶ。	3) ICの事例研究		
	7. 終末期医療（緩和ケア・ホスピスケアを巡る倫理的問題を学ぶ。	1) 難病患者を巡る倫理的問題		
	8. 安楽死・尊厳死を巡る倫理的問題を学ぶ。	2) 要介護高齢者を巡る倫理的問題		
		3) 原因と対応		
		1) 問題の背景		
		2) さまざまな立場の代表的見解		
		3) リプロダクティブライツ		
		1) 体外・人工授精		
		2) 代理母		
		3) 胚を使つての研究		
		1) 緩和ケアの内容		
		2) 緩和ケアの重要性と在宅ケア		
		1) 安楽死と尊厳死の違い		
		2) 安楽死・尊厳死の種類		
		3) 尊厳死への対応		
テキスト及び副教材	「はじめて出会う生命倫理」 玉井・大谷編 有斐閣 「看護のための生命倫理 改訂版」 小林亜津子 ナカニシヤ出版			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点				

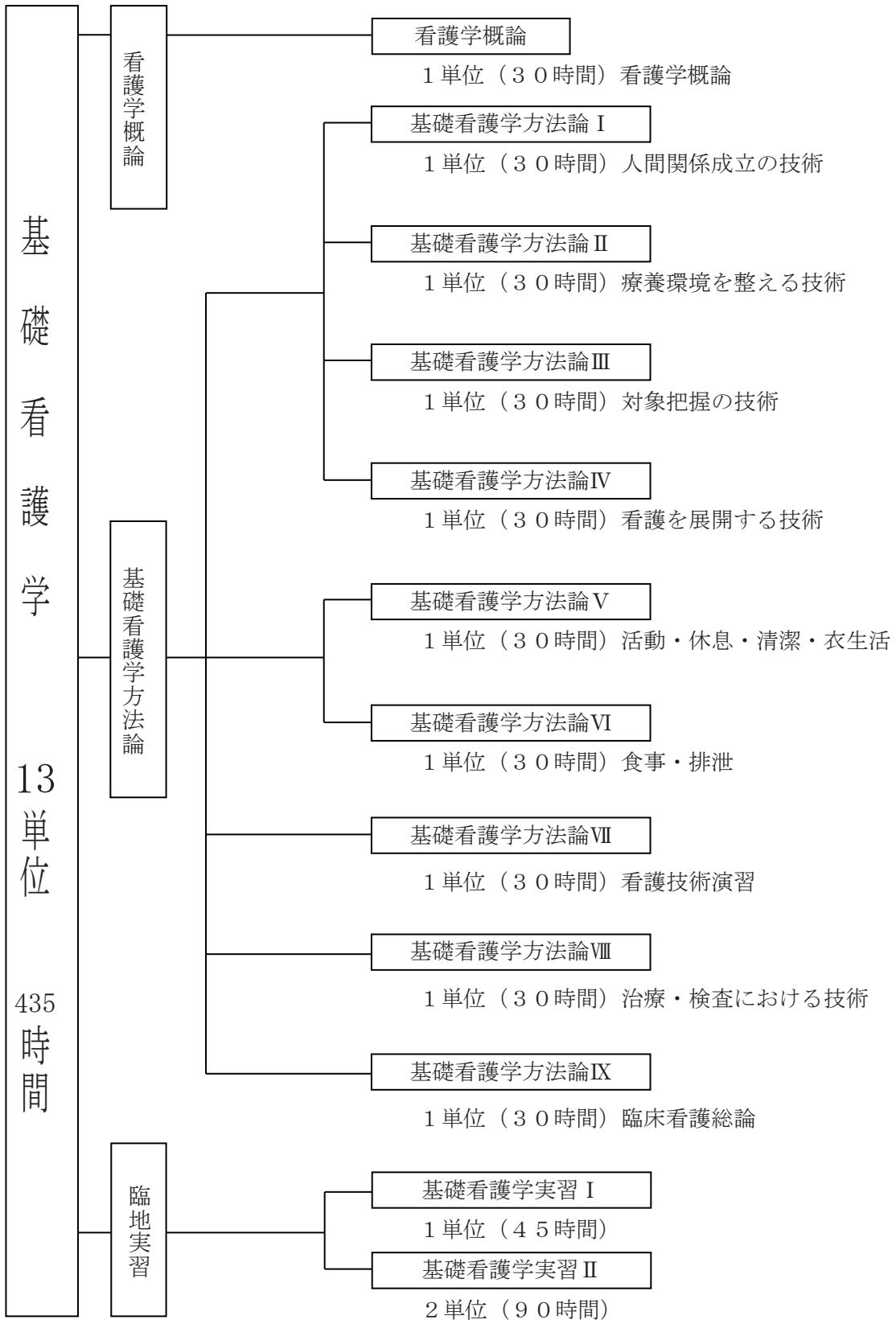
3) 専門分野 I

「基礎看護学」

専門分野 I は、看護学の各専門領域の全ての基盤になる「基礎看護学」を学ぶために、看護学概論、基礎看護学方法論と臨地実習の3つの柱から科目構成を設定している。

「看護学概論」では、看護の歴史的発展や看護の対象者理解に必要な看護理論、特に本校ではナイチンゲールの看護論を基盤に学習する。さらに、「基礎看護学方法論」では、基本的な看護技術とヘンダーソン理論を用いて看護過程の展開等を学習する。さらに、これらの学内での学習を基盤に病院での「基礎看護学実習」を行う。

<専門分野 I の構成>



専門分野Ⅰ 実務経験のある教員（専任教員）による授業科目

科目	閲覧ページ	担当教員		実務経験と担当科目との関係
		実務経験の有無	専任教員資格の有無（注）	
看護学概論	62ページ	有	有	実務経験を生かし科目のねらいと到達目標に沿った教育を行う
基礎看護学方法論Ⅰ	63ページ	有	有	同上
基礎看護学方法論Ⅱ	65ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅲ	67ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅳ	69ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅴ	70ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅵ	71ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅶ	72ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅷ	73ページ	有	有	〃
基礎看護学方法論Ⅸ	75ページ	有	有	〃

注) 専任教員資格の有る者とは、厚生労働省が定める、「看護師養成所の運営に関するガイドライン」に規定された、保健師、助産師又は看護師として、5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修を修了した者等に該当する者を言う。

科 目	(35) 看護学概論	1年 前期	1単位	30時間
担当教員	鈴木 君子			
ねらい	看護学を構成している要素としての看護、人間、環境、健康を理解し、F・ナイチンゲール、V・ヘンダーソンの看護の考え方から看護学の輪郭をとらえ、各看護学の基礎となる知識、態度を習得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の主要概念や看護の本質を歴史的変遷とともに理解する。 2. 看護の対象である人間を理解し、看護が健康や生活に関わる専門職であることがわかる。 3. 保健医療福祉システムにおける看護の機能と看護活動について理解する。 4. 看護実践における倫理について理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
看護とは	1. 看護の歴史的変遷から看護の主要概念と看護の本質を理解する。	1. 看護の本質 1) 看護とは 2) 看護の歴史的変遷 3) 看護の定義 4) 看護の役割と機能		
看護の対象の理解	2. 看護理論発展の歴史から看護理論の意義について理解する。 3. ナイチンゲールの看護論の概要を理解する。 4. 看護の対象としての人間を理解する。	1. 看護理論とは何か 2. 主な看護理論 1. ナイチンゲール 「看護覚え書」序章・補章 1. 人間の「こころ」と「からだ」 2. 生涯発達しつづける存在としての人間 3. 人間の「暮らし」の理解		
健康とは	5. 健康の概念を理解し、看護の視点からの健康を理解する。	1. 健康のとらえ方 2. ライフサイクルと健康		
看護の提供者	6. 職業としての看護と看護職養成にかかわる制度について理解する。	1. 職業としての看護の変遷 2. 看護職養成制度		
看護の提供のしくみ	7. 保健医療福祉システムと看護について理解する。	1. 看護サービス提供の場 2. 看護をめぐる制度と政策		
看護における倫理	8. 看護実践における倫理について理解する。	1. 看護実践に求められる倫理 2. ナイチンゲールの倫理観と職業観		
広がる看護活動	9. 看護の国際化、災害看護の特徴を理解する。			
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学【1】」 医学書院 「看護覚え書き」フローレンス・ナイチンゲール 現代社 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会			
評価方法	筆記試験 80%、レポート評価 10%、小テスト 10%			
備考・履修上の留意点	これまでの自己の看護のイメージとこれから目指す専門職としての看護を考えながら授業を受けて下さい。「看護とは」を思考する習慣を身につけましょう。			

科 目	(36) 基礎看護学方法論 I	1年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	坪 由香、佐藤 春美、菊池 麻美			
ね ら い	看護は、対象のより健康的な生活を支える実践活動である。ここではその核となる看護技術の考え方を学習し、看護の最も基本となる人間関係を成立し発展させるためのコミュニケーション技術を学ぶ。			
到達目標	1. 看護技術の概念と科学的根拠に基づく看護の考え方を理解する。 2. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、看護の基本となるコミュニケーション技術を習得する。			
単元名	学習目標	内 容		
看護技術の概念	1. 人間を対象とする看護技術の特徴を理解する。	1. 技術とは 2. 看護技術の定義と特徴 3. 看護技術の基本原則（安全・安楽・自立・個別性） 4. 看護技術の構成と基礎看護技術の位置づけ 5. 看護技術習得の過程とその方法		
援助的対人関係の理解	2. 援助過程での人間関係形成の基本を理解する。	1. 対人関係の特性とその成立・発展段階 2. 援助的対人関係の基本		
看護におけるコミュニケーション	3. コミュニケーションの意義と成立過程法を理解する。	1. コミュニケーションの定義と意義 2. コミュニケーションの成立過程とその影響要因 3. コミュニケーションアセスメント 4. コミュニケーションの方法		
	4. 看護の各場面におけるコミュニケーションの役割を理解する。	1. 看護におけるコミュニケーションの目的と方法 2. 看護コミュニケーションにおけるプライバシーや看護倫理的側面の理解 3. 患者・家族とのコミュニケーション (カウンセリング・コーチング・アサーション・アドボカシー) 4. 医療者とのコミュニケーション (連絡・報告・相談 インフォームドコンセント・アサーション・交渉)		
	5. 自己のコミュニケーション傾向を理解する。	1. 自己理解の重要性 2. ロールプレイング・プロセスレコードを通して自己の振り返り・再構成		
	6. 接遇の基本をふまえ、効果的なコミュニケーション技術について理解する。	1. 接遇の基本 2. 効果的なコミュニケーション技術の基本と留意点 3. 効果的でないコミュニケーション		

<p>コミュニケーション技術の習得</p>	<p>7. 患者との基本的なコミュニケーション技術と医療者間のコミュニケーションの重要性を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベッドサイドにおける患者とのコミュニケーション 2. 医療者間の報告・連絡・相談 3. 患者のプライバシーに配慮した対応 4. コミュニケーション障害がある患者への対応
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学【2】」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学【3】」 医学書院 「看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング」 医学書院</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>コミュニケーションは患者さんと良好な関係を築くために必要な技術になります。看護におけるコミュニケーションについて楽しく学びましょう。</p>	

科 目	(37) 基礎看護学方法論Ⅱ	1年 前期	1単位	30時間
担当教員	坪 由香、菊池 麻美			
ねらい	人と密接な関係にある環境のありようは、対象の療養状態や健康の回復過程に大きな影響を与える。ここでは、対象の生活の場である療養環境を整え、安全を守り安楽を促す技術として病床環境調整の技術、感染予防技術、安全管理の基本、安楽を促す技術を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の安全・安楽・人権尊重を視点における療養環境調整の意義を理解する。 2. 病床環境調整にかかわる基本を理解し病床環境調整技術を習得する。 3. 看護ケアの質的保証における安全管理の基本と重要性を理解する。 4. 感染予防にかかわる基本を理解し標準予防策技術を習得する。 5. 安楽を促す意義を理解し、罨法技術を習得する。 			
単元名	学習目標	内 容		
環境の概念	1. 環境の概念と看護における重要性を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナイチンゲール「看護覚え書」 —換気と保温、住居の健康、物音、変化、ベッドと寝具類、陽光、部屋と壁の清潔— 2. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」—安全— 3. 環境とは 		
療養環境の調整	<ol style="list-style-type: none"> 2. 病床の環境要素とその望ましい条件を理解する。 3. 安全の意義や影響因子と看護における安全管理の基本を理解する。 4. ボディメカニクスを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境調整の意義 2. 病室、病床の環境 1. 看護における安全の意義 2. 安全への影響因子と事故防止 1. ボディメカニクスとは 2. ボディメカニクス技術の基本 		
ベッドメイキング	5. ベッドメイキングの基本技術を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. リネン類のたたみ方 2. ベッドメイキング <ol style="list-style-type: none"> 1) クローズドベッド 2) オープンベッド 		
リネン交換	6. 臥床患者のリネン交換技術を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 汚染したシーツの取り扱い 2. 臥床患者のリネン交換 		
感染予防	<ol style="list-style-type: none"> 7. 感染および院内感染と予防の重要性を理解する。 8. 感染防御の適切な方法を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染の理解と院内感染予防 2. 感染予防アセスメント 1. 標準予防策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手指衛生 2) 個人防護用具 3) 汚染物の取り扱い 2. 病院環境保全と感染予防 		

科 目	(38) 基礎看護学方法論Ⅲ	1年 前期	1単位	30時間
担当教員	坪 由香、中村 詞子			
ねらい	看護は対象である人間を観察し、健康状態を評価することから始まる。看護者の観察は、その看護者が提供する看護行為を方向づける重要なステップといえる。ここでは、対象の健康状態を的確に評価する観察の基本的理解とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントについて理解する。また、その方法としてフィジカルイグザミネーション技術、観察した情報を活用する記録・報告について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康状態を観察するその意義と方法を理解する。 2. 対象の身体的状態を客観的かつ系統的に捉えるフィジカルアセスメント技術を習得する。 3. 看護の継続性と医療チーム連携のための記録・報告技術を理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
看護における観察	1. 観察の意義を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナイチンゲール「看護覚え書」－病人の観察－ 2. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」呼吸、体温 3. 観察の意義 4. 観察の目的と方法 5. 観察と情報 6. 看護行為につなげる観察 		
記録・報告	2. 記録・報告の意義を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記録・報告の意義と目的 2. 診療情報に関する医療の動向と記録のガイドライン 3. 診療情報開示と守秘義務 4. 記録・報告の種類と留意点 5. 観察と測定結果の記載方法 		
フィジカルアセスメントの概念と方法	3. フィジカルアセスメントの概念を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの概念 2. フィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション 		
	4. フィジカルイグザミネーションの基本技術を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本技術の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 問診 2) 視診 3) 触診 4) 打診 5) 聴診 		
	5. 系統的フィジカルアセスメントの基本技術を習得する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統別フィジカルアセスメントの実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸系 2) 循環系 3) 消化器系 4) 中枢神経系 		

	<p>6. バイタルサイン測定の意義を理解する。</p> <p>7. バイタルサイン測定の基本技術を習得する。</p> <p>8. 身体測定の意義を理解する。</p> <p>9. 身体測定の基本技術を習得する。</p>	<p>1. バイタルサイン測定の目的と方法</p> <p>1. バイタルサイン測定の実際</p> <p>1) 呼吸測定</p> <p>2) 脈拍測定</p> <p>3) 血圧測定</p> <p>4) 体温測定</p> <p>1. 身体測定の目的と種類、方法</p> <p>1. 身体測定の実際</p> <p>1) 身長測定</p> <p>2) 体重測定</p> <p>3) 周囲径の測定</p> <p>2. 体格指数</p>
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 基礎看護技術 I、II 基礎看護学【2】、【3】」 医学書院</p> <p>「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院</p> <p>「看護覚え書」フローレンス・ナイチンゲール 現代社</p> <p>「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会</p> <p>「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント」 インターメディカ</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 60% 技術試験 40%</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>ここでは基本技術を習得しながら人間のからだに関心がもてるよう、フィジカルアセスメントについて幅広く経験します。実際に観察・記録・報告しながら理解を深めましょう。</p>	

科 目	(39) 基礎看護学方法論Ⅳ	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	佐藤 春美、坪 由香、小倉 藤緒、菊池 麻美、中村 詞子、鈴木 君子			
ねらい	対象の健康問題を解決するための論理的・科学的根拠に基づいた看護の思考過程を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における看護過程の概念を理解する。 2. ヘンダーソンの考える看護について理解する。 3. 看護過程の一連の流れを理解する。 4. 紙上事例を通して、対象の健康問題を解決するための論理的・科学的根拠に基づいた看護の思考過程を理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
看護過程とは	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における看護過程の意義について理解する。 2. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の概要を理解する。 3. 看護過程の構成要素を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の意義 2) 看護過程発展の歴史 3) クリティカルシンキングとは 2. 看護の基本となるもの <ol style="list-style-type: none"> 1) ヘンダーソンの看護の考え方 2) 常在条件 3) 病理的状态 4) 基本的看護の構成要素(14項目) 		
紙上事例の看護過程	<ol style="list-style-type: none"> 4. 紙上事例を用いて看護過程を展開する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の構成要素 <ol style="list-style-type: none"> 1) 第一段階 アセスメント 2) 第二段階 看護問題の明確化 3) 第三段階 看護計画の立案 4) 第四段階 実施 5) 第五段階 評価 1. 第一段階 アセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報収集(分類・整理) 2) 情報の分析・解釈 2. 第二段階 看護問題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント統合し、関連図を作成 2) 看護問題の抽出 3) 看護問題の優先順位の判断 3. 第三段階 看護計画の立案 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護問題の目標 2) 期待される結果 3) 解決策 4. 第四段階 実施 5. 第五段階 評価 		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学【2】」 医学書院 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会 「疾患別看護過程の展開」 学研 「看護学生のための臨床検査」 メヂカルフレンド社 「今日の治療薬 2020」 南江堂			
評価方法	看護過程演習レポート70% 筆記テスト30%			
備考・履修上の留意点	看護の目的を達成するために、既習の知識・技術を活用し、科学的思考・問題解決思考に基づいた看護実践のための具体的な援助を考えるとところまでを学びます。特に人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、基礎看護学方法論など、これまで学習した知識を活用し、担当教員の指導を受けながら個人及びグループで看護過程を展開していきます。科学的根拠に基づいた看護の思考過程をしっかりと理解しましょう。			

科 目	(40) 基礎看護学方法論V	1年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	佐藤 春美、小倉 藤緒			
ねらい	人間の健康生活は、安全で快適な日常生活行動として営まれている。ここでは、その土台ともいえる生活リズムとしての活動と休息、より個別性が反映される清潔と衣生活について、生理的・心理的・社会的意義を理解するとともに、これらの生活を整える技術を学ぶ。			
到達目標	1. 活動・休息の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。 2. 清潔・衣生活の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。			
単元名	学習目標	内 容		
活動	1. 生活リズムにおける活動・運動の意義を理解する。	1. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」—活動・姿勢— 2. 活動・運動の機能と意義 3. 良肢位と安楽な体位 4. 体位の種類と身体への影響		
休息	2. 活動・運動の援助技術を習得する。	1. 援助技術の実際 1) 良肢位 2) 安楽な体位 3) 体位変換 4) 移乗・移送		
清潔と衣生活	3. 生活リズムにおける休息の意義を理解する。	1. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」—睡眠・休息— 2. 休息・睡眠の意義 3. 休息・睡眠のアセスメント		
	4. 休息・睡眠の援助を理解する。	1. 入眠・休息を促す援助		
	5. 清潔・衣生活の意義を理解する。	1. ナイチンゲール「看護覚え書」—からだの清潔— 2. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」—清潔、衣類— 3. 皮膚の構造と機能 4. 清潔・衣生活の意義		
	6. 清潔・衣生活の援助を理解する。	1. 清潔・衣生活の方法 1) 皮膚の清潔 2) 頭皮の清潔 3) 寝衣の交換		
	7. 清潔・衣生活の援助技術を習得する。	1. 清潔・衣生活の援助技術の実際 1) 清拭 2) 洗髪 3) 寝衣交換		
技術の形成評価				
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学【3】」 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 「看護覚え書」 フローレンス・ナイチンゲール 「看護の基本となるもの」 ヴァージニア・ヘンダーソン		医学書院 医学書院 現代社 日本看護協会	
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	日常生活行動や基本的欲求には個人差があります。人間としての共通性と生活習慣との違いを捉えながら、日常生活行動と基本的ニーズに関する基本的な考え方や援助を学習します。			

科 目	(41) 基礎看護学方法論VI	1年 前期	1単位	30時間
担当教員	小倉 藤緒、中村 詞子			
ねらい	人間にとっての食事・排泄は、生命維持及びその人らしい日常生活行動として重要な位置づけをなしている。ここでは、食事を栄養という視点から、排泄を人権尊重という視点からその意義を深く理解し、これらの生活を整える技術を学ぶ。			
到達目標	1. 栄養との関連から人間にとっての食のもつ意味について理解し、基本的な食事援助技術を習得する。 2. 排泄の意味を理解し、人権を尊重した基本的な排泄援助技術を習得する。			
単元名	学習目標	内 容		
栄養と食生活 食事の援助 排泄の援助	1. 栄養・食事の意義と消化・吸収のメカニズムを理解する。 2. 食事環境を整えるための援助について理解する。 3. 食事介助の援助技術を習得する。 4. 排泄援助の基本的技術を理解する。 5. 自然排泄を助ける援助技術を習得する。 6. 排泄困難時の援助技術について理解する。	1. ナイチンゲール「看護覚え書」 食事、食物の選択 2. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 飲食 2. 栄養・食事の意義 3. 消化・吸収のメカニズム 4. 食事摂取基準 5. 医療におけるNST活動 1. 栄養状態・食欲・摂食能力のアセスメント 2. 食事環境の調整と食事の援助 1. 臥床患者の食事の援助 2. 臥床患者の口腔ケア 1. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 排泄 2. 排泄とは 3. 排泄のメカニズム 1) 排尿のメカニズム 2) 排便のメカニズム 4. 排泄のアセスメント 1) 排泄状態 2) 排泄行動 5. 排泄の援助の基本姿勢 1. 床上排泄の援助 1) 便器・尿器による排泄の援助 2) オムツによる排泄の援助 3) 陰部洗浄 2. ポータブルトイレによる排泄の援助 1. 排泄困難のメカニズム 2. 排泄困難時の援助 1) 浣腸 2) 一時的導尿 3) 持続的導尿		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学【3】」 医学書院 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院 「看護覚え書」フローレンス・ナイチンゲール 現代社 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	基本的欲求の1つである食事、排泄の援助技術を演習を通して学びます。演習ではプライバシーや羞恥心に配慮した援助、援助を受ける患者さんの心理面も考えてください。			

科 目	(42) 基礎看護学方法論Ⅶ	1年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	鈴木 君子、中村 詞子			
ねらい	既習の基礎的な学習をふまえ、状況設定された患者の状態に応じた安全で安楽な生活援助技術の実際と、効率性や目的に合った一貫した行動のあり方を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の基礎看護学方法論や解剖生理学などの基礎的知識を統合し、状況設定された患者の理解ができる。 2. 看護技術の原理・原則にそって、状況設定患者に適切な方法を選択できる。 3. 選択した方法を安全・安楽に実施できる。 4. 実施した援助を振り返ることができる。 			
単元名	学習目標	内 容		
対象への援助技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の状態を理解する。 2. 対象に合わせた援助技術を安全・安楽に実施できる。 3. 実施した援助技術の記述と振り返りができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象理解の意義 【事例】 ベッド上安静が必要な患者 1. 事例に合わせた技術レポートの作成と実施 1) バイタルサイン測定 2) 足浴 1. 実施した援助の記述 2. 振り返りの記述 		
技術試験				
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 基礎看護学【2】【3】」 医学書院 「系統看護学講座 臨床看護総論 基礎看護学【4】」 医学書院 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院			
評価方法	技術試験 60% レポート 40%			
備考・履修上の留意点	ここでは、今まで学んだ基礎看護学方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴをもとに、複合した看護技術と援助の実際を学びます。各方法論で使用した資料・レポートを活かして、援助を計画・実施しましょう。			

科 目	(43) 基礎看護学方法論Ⅷ	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	小倉 藤緒、菊池 麻美			
ねらい	健康障害を持つ対象の健康回復には、検査や治療といった非日常的な体験が強いられる。その体験は心身ともに苦痛体験を伴うことが多く、また実施される検査や治療に対する対象自身の適切な行動も成果を大きく左右するといえる。ここでは、診療過程にある診察・検査・治療に関わる基礎的な知識を学習すると共に、その過程における看護師の役割と具体的な援助技術について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診察の基礎的知識と看護師の役割を理解し、診察における援助技術を理解する。 2. 検査の基礎的知識と看護師の役割を理解し、主要な検査の援助技術を理解する。 3. 薬物治療における看護師の役割と、安全で効果的な薬物療法に関する知識と技術を理解する。 4. 治療や処置を安全に実施するための知識を理解し、無菌操作の技術を理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
診療の補助と看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療の補助としての看護の法的責任を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナイチンゲール「看護覚え書」 ー感染防止と与薬についてー 2. 診療の補助の法的解釈 1) 正しい指示の受け方 		
検査時の看護	<ol style="list-style-type: none"> 2. 診察を受ける対象のニーズを理解する。 3. 診察における看護師の役割と機能を理解する。 4. 診察時の援助技術を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診察の意義・目的・方法 2. 診察を受ける対象のニーズ 1. 診察に関するアセスメント 2. 診察時の援助 1. 診察時の介助 		
与薬の技術	<ol style="list-style-type: none"> 5. 検査を受ける対象のニーズを理解する。 6. 検査における看護師の役割と機能を理解する。 7. 血液採取（採血）技術を理解する。 8. 薬物療法を受ける対象のニーズを理解する。 9. 薬物療法における看護師の役割と機能を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査の意義・目的・方法 2. 検査を受ける対象のニーズ 1. 検査に関するアセスメント 2. 検査の援助 1) 一般的検体の取り扱い(血液・尿・便・喀痰) 2) 放射線検査 3) 内視鏡検査 4) 超音波検査 5) 心電図検査 1. 静脈血採血 1. 薬物療法の意義・目的・方法 2. 方法別薬理作用の違い・特徴 3. 医薬品の管理 1. 薬物療法における看護の役割 2. 与薬の実際 		

<p>輸血療法と看護</p> <p>注射の技術</p> <p>安全を守る看護</p> <p>創傷管理の技術</p>	<p>10. 輸血が生体に及ぼす影響を理解する。</p> <p>11. 注射に伴う危険性と法的責任を理解する。</p> <p>12. 安全な注射の実施について理解する。</p> <p>13. 安全な注射技術を理解する。</p> <p>14. 創傷の管理と援助技術について理解する。</p> <p>15. 創傷保護の基本的技術を理解する。</p>	<p>1) 経口与薬 (内服・口腔内)</p> <p>2) 吸入</p> <p>3) 点眼・点鼻</p> <p>4) 直腸内与薬</p> <p>5) 経皮・外用薬</p> <p>6) 注射</p> <p>1. 輸血用血液の種類と適応</p> <p>2. 輸血の作用と副作用</p> <p>1. 注射に関わる法的責任</p> <p>2. 注射実施時のアセスメント</p> <p>3. 注射による危険性</p> <p>1. 安全な注射の実際</p> <p>1) 誤薬防止策</p> <p>2) 洗浄・消毒・滅菌</p> <p>3) 無菌操作</p> <p>4) 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>5) 針刺し事故防止</p> <p>1. 注射の実施</p> <p>1) 皮内・皮下注射</p> <p>2) 筋肉内注射</p> <p>3) 静脈内注射</p> <p>4) 点滴静脈内注射</p> <p>1. 創傷管理の基礎知識</p> <p>1) 皮膚の構造と機能</p> <p>2) 創傷と治癒過程</p> <p>2. 創傷処置の実際</p> <p>1) 洗浄と保護</p> <p>2) 包帯法</p>
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学【3】」 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 臨床看護総論 基礎看護学【4】」 医学書院</p> <p>「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>この科目では正確性・安全性が非常に重要とされる技術を学びます。演習は基本的にシミュレーターを用いて実施しますが、自身および全体への安全に十分に留意して、集中力を高め、真剣に取り組んで下さい。</p>	

科 目	(44) 基礎看護学方法論IX	1年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	坪 由香、新野 有美			
ね ら い	臨床におけるライフサイクルや健康状態の経過、症状に応じた根拠ある看護を実践するには既習知識をどのように活用するのか、その方法とプロセスを学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者とその家族のもつ健康上のニーズを理解する。 2. 健康状態の経過に基づく対象のニーズと看護の特徴について理解する。 3. 主要症状のメカニズムと看護について理解し、呼吸を整えるために必要な技術を習得する。 4. 基本的な治療・処置およびそれに伴う看護について理解する。 5. 医療用器機の原理と実際について理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
臨床看護とは	1. 臨床における看護の特徴を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床という場の特徴 2. 臨床における看護の役割 		
臨床における看護の対象とニーズ	<ol style="list-style-type: none"> 2. 看護の対象を個人と家族の視点から理解する。 3. 対象と家族が持つ健康上のニーズを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人と家族 2. 個人とライフサイクル 3. 家族の概念と機能 4. 看護が必要とされる場に応じた個人と家族のニーズ 		
健康状態の経過に基づく看護	4. 健康状態の経過と対象者のニーズ、基本となる看護援助の特徴を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の維持・増進を目指す看護 2. 急性期における看護 3. 慢性期における看護 4. リハビリテーション期における看護 5. 終末期における看護 		
主要症状と看護	<ol style="list-style-type: none"> 5. 主要症状とメカニズムを理解する。 6. 主要症状を対象者への看護について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状のメカニズムと看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 呼吸を整える技術 <ul style="list-style-type: none"> 吸引（口腔・気管内） 吸入 <ul style="list-style-type: none"> （酸素・ネブライザー） 2) 循環に関連する症状を示す対象者への看護 3) 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 4) 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 5) 活動・休息に関連する症状を示す対象者への看護 		

4) 専門分野Ⅱ

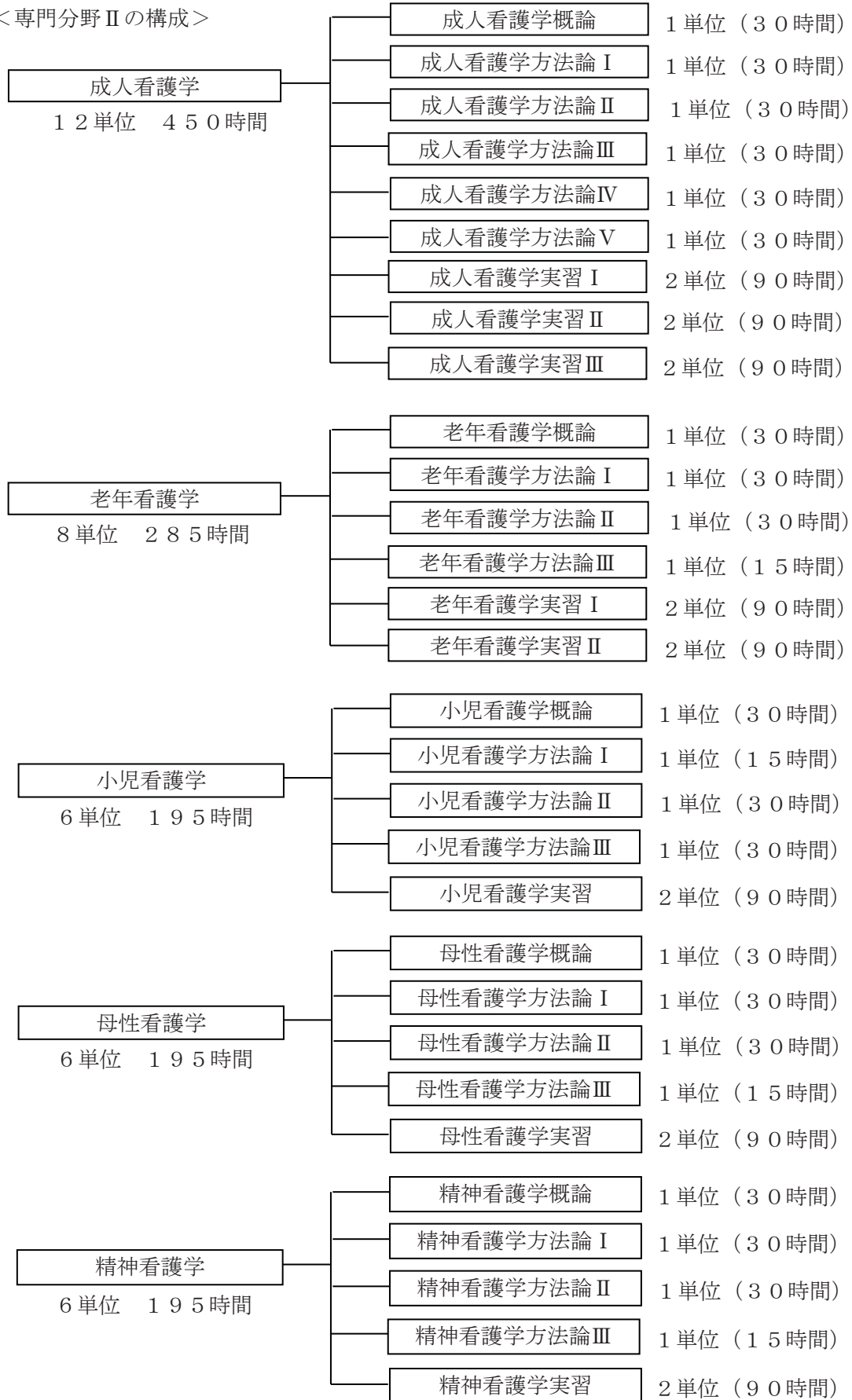
「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」

専門分野Ⅱは、「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」の科目より構成されており、各看護学の理論と実践について学習する。

各専門分野の科目は、概論、方法論と実習の3分野から構成されている。概論では、各専門看護学の立場から、ライフステージと発達課題、身体的、心理社会的特徴、および紙面による看護過程の展開を学習後、実際に医療機関を中心とした実習を展開する。

実習では、これまでの全ての学習を基盤に、看護師としての職業倫理や医療倫理の精神を背景に、看護ケアを体験する。

<専門分野Ⅱの構成>



専門分野Ⅱ 実務経験のある教員（専任教員）による授業科目

科目	閲覧ページ	担当教員		実務経験と担当科目との関係
		実務経験の有無	専任教員資格の有無（注）	
成人看護学概論	80ページ	有	有	実務経験を生かし科目のねらいと到達目標に沿った教育を行う
成人看護学方法論Ⅰ	81ページ	有	有	同上
成人看護学方法論Ⅱ	82ページ	有	有	〃
成人看護学方法論Ⅲ	83ページ	有	有	〃
成人看護学方法論Ⅴ	86ページ	有	有	〃
老年看護学概論	87ページ	有	有	〃
老年看護学方法論Ⅰ	88ページ	有	有	〃
老年看護学方法論Ⅲ	91ページ	有	有	〃
小児看護学概論	92ページ	有	有	〃
小児看護学方法論Ⅰ	93ページ	有	有	〃
小児看護学方法論Ⅲ	95ページ	有	有	〃
母性看護学概論	96ページ	有	有	〃
母性看護学方法論Ⅰ	98ページ	有	有	〃
母性看護学方法論Ⅱ	99ページ	有	有	〃
精神看護学方法論Ⅲ	108ページ	有	有	〃

注) 専任教員資格の有る者とは、厚生労働省が定める、「看護師養成所の運営に関するガイドライン」に規定された、保健師、助産師又は看護師として、5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修を修了した者等に該当する者を言う。

科 目	(47) 成人看護学概論	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	久保田 睦子、柳原 美保子			
ねらい	ライフサイクルの中の成人期の特徴や発達課題を理解し、成人期にある人にとって最適な健康を促進、維持、増進するための看護援助を学ぶ。 また、成人期の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ。			
到達目標	1. ライフサイクルからみた成人各期の特徴や発達課題を理解する。 2. 成人への看護アプローチの基本を理解する。 3. 成人の健康レベルに応じた看護を理解する。 4. 成人の健康生活を促進するための看護技術を理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
成人の生活と健康 成人への看護アプローチの基本 成人への看護の基本 成人の健康生活を促すための看護技術	1. 成人の生活と健康を理解する。 2. 成人への看護アプローチの基本を理解する。 3. 成人への健康レベルに応じた看護を理解する。 4. 成人の健康を維持するための看護を理解する。	1. 生涯発達の特徴と発達段階 1) 青年期・壮年期・中年期・向老期 2) エリクソン・ハビガースト 2. 健康状況と保健・医療・福祉システム 1) 平均寿命・受療状況・生活習慣病・職業性疾患 2) 健康日本 21・健康増進法 1. 倫理的判断・意思決定支援・家族支援 1・ヘルスプロモーションと看護 2. 健康をおびやかす要因と看護 1) 生命の危機状態 2) 急性疾患、侵襲的治療 3. 健康の破綻から回復を促す看護 1) セルフマネジメントの支援 4. 慢性的な揺らぎの調節機能を促す看護 5. 障害がある人の生活とリハビリテーション 6. 人生の最期のときを支える看護 1) 緩和ケア 2) 人生の最期の意味と看護 1. 学習者である患者の看護技術 1) 自己効力感 2) エンパワメント 2. 治療過程にある患者の看護技術 3. 退院支援の看護技術 4. 新たな最先端治療と看護		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学【1】」 医学書院			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	成人期にある対象を理解するために、成人期にある自分自身や、周囲の人々に興味を持ちながら授業に参加しましょう。また、2年次の成人看護学各論の基礎となる科目のため、健康レベルに応じた看護について深めてください。			

科 目	(48) 成人看護学方法論 I	2年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	新野 有美			
ねらい	急性疾患や外傷などにより急激な健康破綻をきたした人とその家族を理解し、健康破綻からの回復を促進する看護の基礎的知識を学ぶ。また、手術を受ける人とその家族を理解し、手術前・手術中・手術後までの一連のプロセスにおける看護の基礎的知識・技術を学ぶ。			
到達目標	1. 急性状態および生命状態の危機の観察や看護判断、患者の状態に応じた看護を理解する。 2. 周手術期にある患者の外科的侵襲と回復過程の看護を理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
急性期看護概論	1. 急性期看護を理解する。	1. 急性期看護とは 2. 急性期看護の概念		
救命救急処置とその看護	2. 健康の急激な破綻をきたし、生命の危機状態にある人の特徴を理解する。 3. 救命・集中治療を必要とする人の看護を理解する。 4. 主要な急性期にある患者の看護を理解する。	1. 生命の危機状態にある人の特徴 1. 救急看護とは 2. 集中治療下での看護 1. 急性心筋梗塞・狭心症 2. アナフィラキシー 3. 熱中症 4. 広範囲熱傷		
手術療法を受ける人の看護	5. 周手術期にある人の特徴を理解する。 6. 周手術過程に応じた看護を理解する。 7. 主要な手術療法を受ける患者の看護	1. 周手術期の看護 1) 手術の種類と適応 2) 手術侵襲と生体反応 3) 手術を受ける人の心理 4) 手術による変化・喪失 1. 手術期の看護 2. 手術期の看護 3. 手術後の看護 4. 退院に向けた指導・援助 1. 消化器の手術 2. 脳神経の手術 3. 循環器の手術		
テキスト及び副教材	「成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護」 南江堂 「成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護」 南江堂 「成人看護学 成人看護技術」 南江堂 「はじめてのドレーン管理」 メディカ出版 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院 聴診器、瞳孔計			
評価方法	筆記試験 60%、レポートファイル 30%、グループワーク 10%			
備考・履修上の留意点	急性期看護は展開が早く、素早い判断を求められます。そのためには基礎知識が不可欠です。今まで学習した基礎科目、専門基礎科目、専門科目を復習し、授業に臨んでください。			

科 目	(49) 成人看護学方法論Ⅱ	2年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	久保田 睦子、蓑内 ひろみ			
ね ら い	生涯にわたるコントロールが必要な慢性疾患をもつ人が、疾病をもちながら主体的に生活していくために必要なセルフマネジメントを支援する看護について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患患者の特徴が理解できる。 2. 生涯にわたる疾病のコントロールや生活調整を必要とする人が体験している心理的・社会的特徴を理解する。 3. 慢性疾患患者のセルフマネジメントを支援する看護が理解できる。 			
単元名	学習目標	内 容		
慢性期にある人と家族の理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患の特徴が理解できる。 2. 慢性期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 3. 慢性期にある人のセルフマネジメントを促す援助方法を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期とは 2. 慢性疾患の概念 3. 疾患と治療の特徴 		
慢性期にある人への看護	<ol style="list-style-type: none"> 4. 慢性期にある人に行われる代表的な治療と看護の特徴を理解する。 5. 慢性疾患患者への看護が理解できる。 6. 演習 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期にある人の身体的特徴 2. 慢性期にある人の心理・社会的特徴 1. 成人への学習支援 2. 行動変容に向けた支援 1. インスリン療法 2. 人工透析 3. 化学療法・放射線療法 1. 糖尿病患者への看護 2. 慢性腎不全患者への看護 3. 食道がん患者への看護 1. インスリン自己注射指導の実際 2. 血糖自己測定の実際 3. 化学放射線療法を行っている患者への看護の実際 		
テキスト及び副教材	「成人看護学 慢性期看護」 南江堂 「成人看護学 成人看護技術」 南江堂 (必要時) 「系統看護学講座専門Ⅱ 消化器・内分泌代謝・腎泌尿器」 医学書院 (必要時)			
評価方法	筆記試験 60% レポートファイル 30% グループワーク 10%			
備考・履修上の留意点	<p>主要な慢性疾患の病態と治療、看護について学習を深めるため、既習の基礎科目、専門基礎科目と関連させながら授業を進めるので、よく復習して授業に臨んで下さい。</p>			

科 目	(50) 成人看護学方法論Ⅲ	2年 前期	1単位	30時間
担当教員	久保田 睦子、柳原 美保子、蓑内 ひろみ			
ねらい	一時的または永久的にその身体的（生理的）機能や心理的・社会的自立を妨げる何らかの障害をもつ人が、最善の機能を回復または保持し、自立生活を送ることができるための看護を学ぶ。			
到達目標	1. リハビリテーションを必要とする人の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2. リハビリテーションを必要とする人と家族の特徴を理解する。 3. 回復経過に応じた看護を理解し、リハビリテーションを必要とする人とその家族に必要な看護を理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
リハビリテーション看護とは	1. リハビリテーション医療と専門職の役割と機能を理解する。	1. リハビリテーション看護の専門性		
リハビリテーションを必要とする人と家族の理解	2. リハビリテーションを必要とする人の特徴	2. 看護の専門性チームアプローチ		
回復過程とリハビリテーション看護	3. 主な回復期にあたる患者の看護を理解する。 循環器障害を有する人への看護 脳血管障害を有する人への看護	1. リハビリテーションを必要とする人の特徴 1) 身体的特徴 2) 生活上の特徴 3) 心理的特徴 障害受容・悲嘆のプロセス		
	4. 維持期に当たる患者の看護を理解する。 運動器疾患を有する人への看護	2. リハビリテーションを必要とする人の家族の特徴 1) 家族機能・役割に及ぼす影響 2) 家族心理と家族対処、家族適応		
		1. 循環器障害を有する人への看護 1) 機能回復と在宅復帰を目指す支援		
		2. 脳血管障害を有する人への看護 1) 日常生活援助と機能回復の支援 2) セルフケア支援		
		3. 運動器疾患に有するリハビリテーション看護 1) 社会復帰への支援		
テキスト及び副教材	「リハビリテーション看護 障害を持つ人の可能性とともに歩む」 南江堂 「系統看護学講座専門Ⅱ 循環器、脳・神経、運動器」 医学書院 「初めてのドレーン管理」 メディカ出版			
評価方法	筆記試験 60%、レポートファイル 30%、グループワーク 10%			
備考・履修上の留意点	専門基礎科目と関連させながら、回復期、維持期の対象の看護を学んでください。			

科 目	(51) 成人看護学方法論Ⅳ	2年 後期	1単位	30時間
担当教員	大串 祐美子、青田 美穂、納谷 さくら、蓑内 ひろみ			
ねらい	がん患者とその家族を理解し、疾患やがん治療に伴う看護および身体的・心理的苦痛を和らげる緩和ケアについて学ぶ。また、終末期にある成人期の人とその家族の特徴を理解し、人生の最期のときを、苦痛や苦悩にさいなまれることなく、その人の望む生き方を尊重し、家族とともに有意義な生活を送ることができるための看護を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護の動向と治療、看護の現状を理解する。 2. がん患者と家族の苦痛を理解し苦痛を緩和するための援助を理解する。 3. 終末期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 4. 終末期にある人と家族への看護を理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
がんの動向と疾病の理解	1. がんの動向と疾病の特徴を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの動向 2. がんという疾病の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) がんの病態 2) がん診療の流れと特徴 3) 身体的変化、症状の特徴 4) がんの緩和ケア 		
がん患者と家族の理解	2. がん患者と家族を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) トータルペイン 2) 苦痛に対するマネジメント、 3) 心理的特徴とサポート 2. がん患者の家族の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者の家族の課題、支援 3. がん患者の療養の場と看護 		
がん治療と看護	3. 化学療法・放射線療法の日常生活への影響を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 化学療法の特徴と日常生活への影響 2. 放射線療法の特徴と日常生活への影響 		
	4. 化学療法・放射線療法を受けている人の看護を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 化学療法を受けている人の看護 2. 放射線療法を受けている人の看護 		
	5. その他のがん治療を受けている人の看護を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 造血幹細胞移植を受けている人の看護 		
緩和ケア	6. 緩和ケアの歴史と現状を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアの歴史と現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 歴史 2) チーム医療 3) コミュニケーションと意思決定支援 2. 身体症状とマネジメント 3. 精神的・社会的・スピリチュアルケア 		
	7. がん患者の全人的苦痛を理解し、緩和のための援助を理解する。			

<p>終末期にある人と家族の理解</p> <p>終末期にある人と家族の看護</p> <p>死の看取りの援助</p> <p>終末期・緩和ケアにおける倫理</p>	<p>8. 終末期医療の現状と終末期にある人の療養の場を理解する。</p> <p>9. 終末期にある人を理解する。</p> <p>10. 終末期にある人の家族を理解する。</p> <p>11. 終末期にある人と家族の看護を理解する。</p> <p>12. 死の看取りの基本と死後のケアを理解する。</p> <p>13. 終末期・緩和ケアにおける倫理的課題を理解する。</p>	<p>1. 終末期医療の現状 2. 終末期にある人の療養の場 3. 日本人の死生観</p> <p>1. 終末期にある人の身体的特徴 2. 終末期にある人の心理的・社会的・文化的特徴</p> <p>1. 家族が直面する危機 1) 家族の精神的苦痛・社会的苦痛 2) 死別の悲嘆反応 3) 死別後の家族の生活上の変化</p> <p>1. 終末期にある人のQOL 2. 終末期にある人の持つ力を支える援助 3. 終末期にある人の意思決定を支える援助 4. 終末期にある人の心理的援助 5. 終末期にある人の家族への看護</p> <p>1. 死の看取りの援助とその基本 2. 死の看取りと悲嘆ケア 3. 臨終のケア 4. 死後のケア</p> <p>1. 患者の権利と意思決定 2. 看護者の倫理綱領 3. 倫理的課題</p>
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座別巻 緩和ケア」 医学書院 「系統看護学講座別巻 がん看護学」 医学書院</p>	
<p>評価方法</p>	<p>レポートファイル (15%) グループワーク (5%) 筆記試験 (80%)</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>がんは日本人の死因の第1位です。成人期の主たる疾患として病態の理解を深め、看護について十分に学んでください。また、終末期の患者への看護を学ぶと同時に、自己の死生観を深めながら授業に参加してください。</p>	

科 目	(52) 成人看護学方法論V	2年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	久保田 睦子、新野 有美、柳原 美保子、蓑内 ひろみ			
ねらい	紙上事例を通して成人期の対象を統合的に理解し、疾患をもった成人期の対象とその家族に必要な看護を科学的思考に基づいて考えることができる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> セルフマネジメントを必要とする患者の病態および患者の身体的・心理的・社会的側面への影響を理解する。 セルフマネジメントを推進する際に予測される問題を判断し、患者教育の視点を含めた看護計画を立案する。 			
単元名	学習目標	内 容		
成人看護過程の考え方 成人看護過程の展開	<ol style="list-style-type: none"> 成人看護過程について理解する。 慢性疾患を有する成人期の対象の看護過程を展開する。 	<ol style="list-style-type: none"> 看護過程とは 成人看護過程記録の書き方 慢性期にある患者のアセスメント 全体像の描写 看護問題の明確化 看護計画の立案 実施（演習） 評価 		
テキスト及び副教材	「成人看護学 慢性期看護」 南江堂 「系統看護学講座専門Ⅱ 消化器」 医学書院 「今日の治療薬」 南江堂			
評価方法	看護過程演習レポート（グループワーク点含む）100%			
備考・履修上の留意点	基礎看護学で学んだ看護過程の展開方法を使って、ライフサイクルにおける成人期の対象と家族の特徴をふまえ、必要な看護を考えます。既習の知識の活用方法や思考プロセスをしっかりと学び、患者に個別性のある看護を提供できるよう深めてください。 また、老年看護学方法論Ⅲと連動して行う授業になります。老年期の特徴も含めて理解し、学ぶ機会にしていきたいと思います。			

科 目	(53) 老年看護学概論	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	熊谷 昌恵、中村 由紀子			
ねらい	高齢者とその家族、高齢社会の現状を理解し、老いを生きる人の加齢による変化と健康レベルに応じた老年看護のあり方や看護師の役割について学ぶ。			
到達目標	1. 高齢者の概念を学び、ライフサイクルにおける老年期の特性と加齢に伴う変化を理解する。 2. 高齢社会の保健医療福祉の現状と課題、生活の質の確保に必要な制度について理解する。 3. 老年看護の意義と役割を学ぶ。			
单元名	学習目標	内 容		
高齢者とは	1. 老いること、老いを生きるとは どういうことかを理解する。	1. 老いるということ 1) 加齢と老化 2) 身体的・心理的・社会的側面の変化 2. 老いを生きるということ 1) 老年期とは 2) 老年期の発達課題 3) 老いを生きる人々へのまなざし 3. 高齢者疑似体験		
高齢社会と社会保障	2. 高齢化が社会に及ぼす影響と高齢化に伴う社会文化的影響を理解する。	1. 高齢社会の統計的輪郭 1) わが国の高齢化 2) 高齢者のいる世帯 3) 高齢者の健康状態・死亡 4) 高齢者の暮らし		
	3. 高齢者の健康や生活を保健医療福祉の現状から理解する。	1. 高齢者の看護と介護の問題 1) 高齢者の健康問題 2) 高齢者の看護・介護の問題 2. 保健医療福祉の動向 1) 高齢者とソーシャルサポート 2) 保健医療福祉システムの構築 3) 高齢者を支える職種と活動の多様化		
生活・療養の場における看護の展開	4. 高齢者の権利擁護の視点から、高齢者ケアの場における課題を考察することができる。	1. 高齢社会における権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 高齢者虐待 3) 身体への拘束 4) 権利擁護のための制度		
老年看護の基盤	5. 多様な老年看護の場と特徴を理解する。	1. 高齢者が安全で安心して暮らせる地域 1) 環境づくり 2) 保健医療福祉施設における看護 3) 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護		
	6. 老年看護の発展経緯から、その意義と役割を理解する。	1. 老年看護のなりたち 2. 老年看護の役割 3. 老年看護に携わる者の責務 4. 尊厳の保持		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 老年看護学」第1～4章、第9章 「系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論」序章、終章 「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」		医学書院 医学書院 医学書院	
評価方法	筆記試験 (80%) + レポート (20%) による総合評価			
備考・履修上の留意点	高齢者とその家族への理解を深め、看護・介護を受ける高齢者が家族にいるとどうなるかを考察しながら授業に参加して下さい。			

科 目	(54) 老年看護学方法論 I	2年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	熊谷 昌恵、中村 由紀子			
ねらい	高齢者の生活機能を考え、QOLの維持・向上するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。			
到達目標	1. 高齢者に多い症状・特徴とアセスメントの視点を学び、生命や生活への影響を理解する。 2. 高齢者の生活機能に焦点を当て、その人らしい生活が送れるための援助を理解する。 3. 高齢者の生活援助技術から生活機能を考えた看護を理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
高齢者のアセスメント 高齢者の生活機能を整える看護の展開	1. 高齢者のアセスメントの視点を理解する。 2. 高齢者の生活に影響する転倒・廃用症候群のアセスメントと看護を理解する。 3. 高齢者のもてる力を考え、生活機能を整えるための看護を理解する。	1. 看護職が行うフィジカルアセスメント 2. 身体に加齢変化とアセスメント 1) 皮膚とその付属器、視聴覚とその他の感覚、循環系、呼吸器系、消化吸收、ホルモンの分泌、泌尿生殖器系、運動系 3. 高齢者によく見られる身体症状とアセスメント 1) 発熱、痛み、掻痒、脱水、嘔吐、浮腫、倦怠感 4. 老年症候群 1. 日常生活を支える基本動作と看護ケア 1) 基本動作と環境のアセスメントと看護 2) 転倒のアセスメントと看護ケア 3) 廃用症候群のアセスメントと看護 1. 食事・食生活 1) 食生活に注目する意義 2) 高齢者に特徴的な変調 3) 摂食・嚥下機能のアセスメント 4) 栄養状態のアセスメント 5) 食事に対する看護 2. 排泄 1) 排泄ケアの基本姿勢 2) 排泄障害のアセスメントと看護 3) 排尿障害のアセスメントと看護 4) 排便障害のアセスメントと看護 3. 清潔 1) 清潔の意義 2) 高齢者に特徴的な変調 3) 清潔のアセスメントと看護 4. 生活リズム 1) 高齢者と生活リズム 2) 高齢者に特徴的な変調 3) 生活リズムのアセスメント 4) 生活リズムを整える看護		

	<p>4. コミュニケーション障害がある高齢者の特徴と関わり方を学び、アセスメントと看護を理解する。</p> <p>5. 高齢者の生活援助技術を習得する。</p> <p>6. 行った演習から高齢者の生活機能を考えた看護について理解する。</p>	<p>1. コミュニケーション</p> <p>1) 高齢者とのコミュニケーションの特徴とかかわり方</p> <p>2) 高齢者におこりやすいコミュニケーション障害</p> <p>3) コミュニケーション障害のアセスメントと看護</p> <p>1. 経管栄養法</p> <p>2. 膀胱留置カテーテルの挿入</p> <p>3. 口腔ケア</p> <p>4. 爪切り</p> <p>5. 髭剃り</p>
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 老年看護学」第4、5章 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論」第1～3章 医学書院</p> <p>「写真でわかる高齢者ケア」 インターメディカ</p> <p>「根拠と事故防止から見た老年看護技術」 医学書院</p> <p>「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」 医学書院</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験（80％） ＋ レポート（20％）による総合評価</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>高齢化が進み、高齢者に看護ケアを実施する頻度は増えています。アセスメントに基づきイメージトレーニングや演習を十分に行った上での看護技術の提供が必要です。十分に事前学習をして講義と演習に臨んでください。</p>	

科 目	(55) 老年看護学方法論Ⅱ	2年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	松原 泉、細川 善吉、中村 由紀子			
ね ら い	高齢者の健康障害と治療の特徴を理解し、回復を促す看護を学ぶ。また、エンドオブライフケアを支える看護を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の疾患の特徴を理解する。 2. 高齢者の健康障害からの回復を促す看護を理解する。 3. 高齢者のエンドオブライフケアを支える看護を理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
高齢者の疾患の特徴	1. 高齢者疾患の症状、原因、予防、検査、治療を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の疾患の特徴 認知症、精神・神経疾患、循環器系・呼吸器系・消化器系の疾患、内分泌・代謝系の疾患、膠原病、血液の疾患、腎・泌尿器系の疾患、運動器・皮膚・感覚器の疾患、歯・口腔の疾患、感染症 2. 高齢者と薬 3. 高齢者のリハビリテーション 		
検査・治療を受ける高齢者への看護	2. 診断に必要な検査の種類と治療の目的・方法を理解する。また、身体侵襲に伴う生理的・心理的反応を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査・治療を受ける高齢者への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 検査 2) 放射線療法・化学療法 3) 薬物療法 4) 手術療法 		
疾患を持つ高齢者への看護	3. 高齢者が発症しやすい疾患の特徴的な看護を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患を持つ高齢者への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳血管障害 2) 呼吸不全 3) 心不全 4) 皮膚障害 5) 骨粗鬆症・骨折 6) 感染症 		
終末期を支える看護	4. 認知機能に障害がある高齢者の看護を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知機能の障害に対する看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) うつ 2) せん妄 3) 認知症 		
高年齢者のリスクマネジメント	5. 終末期における高齢者の看護を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の死のとりえかた 2. 死を迎える場の多様化 3. エンドオブライフケア 		
	6. 医療事故の実態から高齢者と医療安全を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者と医療安全 2. 高齢者と救命救急 3. 高齢者と災害看護 		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 老年看護学」第6、8章 「系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論」第2、4、5、6章 「写真でわかるリハビリテーション看護」		医学書院 医学書院 インターメディアカ	
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	臨地実習へ向けて、高齢者に特徴的な疾患と看護についてよく復習しておいて下さい。			

科 目	(56) 老年看護学方法論Ⅲ	2年 前期	1 単位	15 時間
担当教員	熊谷 昌恵、中村 由紀子			
ねらい	紙上事例を通して対象の疾患を理解する。健康状態や疾患や障害が生活に与える影響について科学的な思考に基づいた看護アセスメントができる。アセスメントしたことから必要な看護を導き出すための、看護過程を展開できる能力を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象をライフサイクルの中に位置づけ、常に発達・変化する存在として捉えることができる。 2. 対象の健康状態を疾患のみならず、身体的、精神的、社会的・文化的側面から捉えることができる。 3. 科学的な思考に基づいた看護アセスメントができる。 4. 対象に必要な看護計画を立案し、評価できる。 			
単元名	学習目標	内 容		
老年看護過程の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ高齢者を生活機能の視点から、もてる力を考えアセスメントし看護展開する方法を理解する。 2. 健康障害が高齢者の生活にどのように影響するか理解する。 3. 目標志向型思考である看護の焦点を考えることができる。 4. 生活に及ぼす影響の大きさから優先順位を決定できる。 5. 対象となる高齢者にあった看護計画を具体的に考察できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紙上事例による看護過程 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報収集 2) アセスメント 3) 全体像の描写 4) 看護の焦点(問題点) 5) 看護計画立案 2. 文献を使用し、計画的に学習を進める 3. グループワーク・発表を通して自己の考えを表現でき、理解を深める。 		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 老年看護学」 医学書院 「系統看護学講座 老年看護 病態・疾病論」 医学書院 「生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図」 医学書院 「写真でわかる高齢者ケア」 インターメディカ 「根拠と事故防止から見た老年看護技術」 医学書院 「写真でわかるリハビリテーション看護」 インターメディカ			
評価方法	筆記試験 + レポートによる総合評価			
備考・履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学方法論Ⅴと連動して行う看護過程になります。成人期・老年期の特徴を理解した看護過程を学ぶ機会としましょう。 2. 臨地実習では看護過程を展開するので、既存の知識・技術を活用し主体的に学習して下さい。 			

科 目	(57) 小児看護学概論	2年 前期	1単位	30時間
担当教員	佐々木 菜穂子			
ねらい	子どもを権利の主体としてとらえた上で小児と家族を取り巻く社会の変化を理解し、小児看護の役割と課題を学ぶ。			
到達目標	小児の成長・発達および発達段階に応じた養育の考え方や援助の方法、小児看護の特徴と看護の役割を理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
小児看護の対象 小児看護の特徴と看護の役割 小児を取り巻く医療環境 小児保健の動向と健康問題 小児の成長発達 小児の発達段階に応じた養育	1. 小児看護の対象を理解する。 2. 小児看護の特徴と看護の役割を理解する。 3. 小児を取り巻く医療の変遷を理解する。 4. 小児の人権を理解する。 5. 小児保健の動向と健康問題を理解する。 6. 小児の成長・発達を理解する。 7. 小児の発達段階に応じた養育が理解できる。	1. 小児看護の対象 1) 小児とは 2) ライフサイクルみた小児区分 3) 小児と家族 2. 小児看護の特徴 1) 小児看護の対象と目標 2) 小児看護の特徴 3) 小児看護の役割 ・小児看護の役割 ・他職種との連携 ・ヘルスプロモーション 3. 小児を取り巻く医療の変遷 1) 小児医療の変遷 2) 小児看護の変遷 3) 今後の小児医療 4) 今後の小児看護の課題 4. 子どもの人権と看護 1) 生命倫理 ※GW 2) 児童の権利に関する条約 3) インフォームドコンセント・アセント 4) 児童虐待と対応 5. 母子保健の動向 1) 母子保健の目的と動向 2) 母子保健 3) 学校保健 4) 小児の事故防止と安全教育 5) 予防接種 6. 小児の統計 7. 小児の成長・発達 1) 成長・発達の原則 2) 形態的発達 3) 機能的発達 4) 心理社会的発達 8. 発達段階に応じた養育 1) 健康な生活・食事・睡眠・排泄 清潔・活動(遊び・学習) ※GW 2) 健康問題 3) 発達段階別の養育・健康増進		
テキスト及び副教材	「新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健」 メヂカルフレンド社			
評価方法	講義出席状況・筆記試験・グループワーク参加状況・提出物			
備考・履修上の留意点	小児の理解を深めるために、日ごろから様々な年齢の小児へ関心を持ち、周りで会う小児を意識的に観察するようにして下さい。また、成長・発達の理解は重要内容であるため、しっかりと予習・復習をして下さい。			

科 目	(58) 小児看護学方法論 I	2年 後期	1 単位	15 時間
担当教員	佐々木 菜穂子			
ね ら い	病気・入院が小児や家族に及ぼす影響を理解し、健康問題や障害を持つ小児と家族の看護について学ぶ。			
到達目標	健康問題や障害をもつ小児と家族の生活や療養を支える看護について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
健康問題／障害および入院が小児と家族に及ぼす影響と看護 健康問題／障害のある小児の発達段階に応じた看護 小児と家族に起こりやすい・直面しやすい状況と看護	<ol style="list-style-type: none"> 健康問題／障害や入院が小児と家族に及ぼす影響について理解する。 治療や入院を必要とする小児と家族への発達段階に応じた看護について理解する。 さまざまな状況にある小児と家族への看護について理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 健康問題／障害および入院の影響 健康問題／障害の受容と入院適応に向けての看護 快適な病院環境に向けての看護 発達段階に応じた看護 <ol style="list-style-type: none"> 新生児期における看護 乳児期の看護 幼児期の看護 学童期の看護 思春期の看護 治療処置、検査を受ける小児と家族 ※点滴固定体験 救急処置を要する小児と家族 活動制限を要する小児と家族 感染予防の必要がある小児と家族 先天的な問題のある小児と家族 障害のある小児と家族 聴覚障害のある小児と家族 家庭で療養している慢性疾患のある小児と家族 在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族 在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族 災害に遭遇した小児と家族 成人期への移行過程を生きる慢性疾患のある小児と家族 外来における小児と家族への看護 		
テキスト及び副教材	「新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護」 メヂカルフレンド社 「小児看護技術」 医学書院 その他、必要に応じ資料配布します。			
評価方法	筆記試験、出席状況			
備考・履修上の留意点	子どもが病気に罹り、通院または入院をする事による影響とはどのようなものなのか、治療や処置は子どもにとってどのような体験なのか、また、病気をすることによる家族の思い、影響はどのような状況なのか、既習の知識と想像力を駆使して考える力を養う。 展開が早いので必ず予習・復習をしてきてください。特に、小児看護学概論の成長・発達についての復習は必須です。			

科 目	(59) 小児看護学方法論Ⅱ	2年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	大久保 岩男、筒井 智子			
ね ら い	小児期の主な疾患を理解し、看護援助に必要な基礎知識を学ぶ。 また、病気・入院が小児や家族に及ぼす影響を考え、健康問題を持つ小児と家族の看護について学ぶ。			
到達目標	小児期の代表的疾患の疫学・病態・症状・診断・治療・予後を理解し、小児と家族の状況に応じた援助、成長・発達に合わせた看護を考えられる。			
単元名	学習目標	内 容		
先天異常とは 小児の系統別疾患 小児の虐待 小児と家族が直面しやすい状況と看護 症状別の看護 経過別の看護	<p>1. 先天異常、新生児の主な疾患を理解する。</p> <p>2. 小児期特有の身体構造を理解し、系統別に疾患の病態・症状・診断・治療・予後を理解する。</p> <p>3. 小児虐待の特徴的な状況を理解する。</p> <p>4. 手術を受ける小児と家族の看護を理解する。</p> <p>5. 予後不良の小児の看護を理解する。</p> <p>6. 小児期に多くみられる主な症状と看護を理解する。</p> <p>7. 経過別の看護を病態・症状・検査・治療をふまえ看護を理解できる。</p>	<p>1. 先天異常</p> <p>2. 新生児疾患</p> <p>3. 内分泌・代謝疾患</p> <p>4. 免疫・アレルギー疾患</p> <p>5. 感染症</p> <p>6. 呼吸器疾患</p> <p>7. 循環器疾患</p> <p>8. 消化器疾患</p> <p>9. 血液・造血器疾患</p> <p>10. 悪性新生物</p> <p>11. 腎・泌尿器疾患</p> <p>12. 神経疾患</p> <p>13. 小児の虐待</p> <p>14. 手術を受ける小児の看護 1) 手術を受ける患児の特徴と目的及び心の準備 2) 麻酔の種類と影響・合併症 3) 痛みのある小児と家族 (1) インフォームドアセントのための技術 ①プレパレーション ②ディストラクション</p> <p>15. 予後不良の小児の看護 1) 小児の死の概念 2) 予後不良の小児の生活 3) 死に対する小児・家族・同室児の反応と援助 4) 予後不良の小児と家族の看護</p> <p>16. 症状別の看護 (GW) 発熱・下痢・嘔吐・脱水・痙攣 浮腫・咳嗽・喘鳴・呼吸困難 ショック・意識障害・痛み</p> <p>17. 経過別の看護 1) 急性期にある小児と家族の看護 2) 慢性期にある小児と家族の看護</p>		
テキスト教材及び副教材	「新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護」 メヂカルフレンド社			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	小児期に見られる先天性の疾患や小児が罹患しやすい疾患を学び、病気・障害を持った小児と家族を理解するための基礎知識とします。 小児の成長発達の特徴をふまえ、子どもが直面しやすい状況を理解し、小児と家族のための看護を考えます。			

科 目	(60) 小児看護学方法論Ⅲ	2年 後期	1単位	30時間
担当教員	佐々木 菜穂子、筒井 智子、菊池 麻美			
ねらい	小児看護に必要な看護技術を理解し、効果的な看護を実践するための看護過程展開能力を養う。			
到達目標	小児の成長・発達に応じた看護援助に必要な技術を修得し、効果的な看護を実践するために既習知識を統合させて看護過程を展開することができる。			
単元名	学習目標	内 容		
小児と家族に対する基本的看護技術の修得	1. 小児の生活や診療に関する援助技術を習得する。	1. 健康問題・健康障害のある小児に必要な看護技術 1) コミュニケーション技術 2) フィジカルアセスメント及び技術演習 (1) 乳児の身体計測 (2) 乳児・幼児のバイタルサイン測定 (3) ディストラクション プレパレーション 3) 診療に伴う技術 (1) 採血 (2) 点滴固定 (3) 採尿 (4) 咽頭・鼻腔培養 (5) 骨髄穿刺・腰椎穿刺 (6) 与薬と輸液管理 (7) 吸入・吸引 (8) 酸素療法 (9) 身体の固定 (10) 保育器の使用と管理 4) 指導・教育技術 (1) 初期教育 (2) 退院指導 (3) 集団教育・指導 5) 与薬法		
健康障害をもつ小児の看護過程	2. 健康障害をもつ小児の病態生理・症状・治療・処置、成長・発達、家族の状況をふまえた看護過程を展開することができる。	1. 健康障害をもつ小児の紙上事例を用いた看護過程展開演習 急性期(個人・GW) 1) 発達段階の理解 2) 病態・症状アセスメント 3) 家族状況アセスメント 4) 看護計画立案 5) 紙上事例のケアシュミレーション		
テキスト及び副教材	「新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健」 メヂカルフレンド社 「新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護」 メヂカルフレンド社 「小児看護学技術」医学書院 「小児看護過程」 医学書院			
評価方法	筆記試験70%、講義出席状況、提出物、グループワーク参加状況 演習課題(個人ワーク15%、グループワーク5%、演習レポート10%)			
備考・履修上の留意点	演習は事前に提示される課題に取り組んで臨み、提出期限は守ること。 グループ課題はメンバーと協力しあって取り組むこと。			

科 目	(61) 母性看護学概論	2年 後期	1単位	30時間
担当教員	川崎 恵子			
ねらい	人間の性と生殖の意義を理解するとともに、母性の概念と母性看護の対象として女性のライフサイクル各期の特徴をとらえる。さらに、母性をとりまく現状を理解し、対象と家族を支援する看護を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の基盤となる概念と母性看護の特徴について理解する。 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。 母性看護の対象とその看護をライフサイクル各期の視点から理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
母性看護の概念	1. 母性看護の基盤となる概念と理念について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の主な概念 <ol style="list-style-type: none"> 母性と親になることの意味 母子関係と家族発達 <ul style="list-style-type: none"> 愛着・母子相互作用 家族機能 セクシュアリティ リプロダクティブヘルス／ライツ ヘルスプロモーション 母性看護のあり方 <ul style="list-style-type: none"> 母性看護の課題と展望 母性看護における倫理 母性看護における安全・事故予防 		
母性看護の変遷と現状	2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の歴史的変遷と現状 <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の変遷 母子保健統計の動向 母性看護に関する組織と法律 母子保健に関する施策 母性看護の対象を取り巻く環境 <ol style="list-style-type: none"> 家族 <ul style="list-style-type: none"> 多様な家族形態 地域社会 生物学的環境 社会文化的環境 <ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画社会・国際化 		
母性看護の対象理解	3. 母性看護の対象について様々な側面から理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 <ol style="list-style-type: none"> 生殖器の形態・機能 妊娠と胎児の性分化 女性のライフサイクルと家族 <ol style="list-style-type: none"> 現代女性のライフサイクルと生涯発達 家族発達段階と家族看護 母性の発達・成熟・継承 <ol style="list-style-type: none"> 女性性の発達 母性・父性・親性の発達 母性の世代間伝達 <ul style="list-style-type: none"> 内的作業モデル 		

<p>ライフサイクル各期における看護</p> <p>リプロダクティブヘルス</p> <p>出生前からのリプロダクティブヘルス</p>	<p>4. ライフサイクル各期における女性の健康と看護について理解する。</p> <p>5. リプロダクティブヘルスケアについて理解する。</p> <p>6. 出生前からのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。</p>	<p>1. 思春期にある人の特徴と看護</p> <p>1) 思春期女性の特徴</p> <p>2) 健康問題と看護</p> <p>3) 思春期女性への看護の視点</p> <p>2. 成熟期にある人の特徴と看護</p> <p>1) 成熟期女性の特徴</p> <p>2) 健康問題と看護</p> <p>3) 成熟期女性への看護の視点</p> <p>3. 更年期・老年期にある人の特徴と看護</p> <p>1) 更年期・老年期女性の特徴</p> <p>2) 健康問題と看護</p> <p>3) 更年期・老年期女性への看護の視点</p> <p>1. 家族計画</p> <p>2. 性感染症とその予防</p> <p>3. HIVに感染した女性へのケア</p> <p>4. 人工妊娠中絶と看護</p> <p>5. 喫煙女性の健康と看護</p> <p>6. 性暴力を受けた女性への看護</p> <p>7. 国際化社会と看護</p> <p>1. 遺伝相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝相談 ・ 出生前診断 <p>2. 不妊治療と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不妊検査 ・ 不妊治療 ・ 不妊夫婦への看護
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学【1】 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学【2】 医学書院</p> <p>「系統看護学講座 専門Ⅱ女性生殖器 成人看護学⑨」 医学書院</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験</p> <p>課題への取り組み</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>母性看護学は、親になることの支援を通して、次世代の健全育成を目指す看護学です。いままでの自分自身や これからのことを考え、さらに現代社会の母性に関するさまざまな問題に関心を持ち、参加して下さい。</p>	

科 目	(62) 母性看護学方法論 I	2年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	川崎 恵子、出崎 裕貴子			
ねらい	妊娠が正常に経過し健康な児を出産できるよう、また、家族がサポートできるように妊娠期の生理的変化を理解し、看護について学ぶ。また、産婦と胎児が安全・安楽に分娩を終了し、産婦が主体的に分娩に取り組めるための産婦と家族への看護を学ぶ。			
到達目標	1. 妊娠の経過と看護について理解する。 2. 分娩の経過と看護について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
妊娠期における看護	1. 妊娠の経過と胎児の発育について理解する。 2. 妊婦の心理と社会的特性について理解する。 3. 妊婦の日常生活とセルフケアについて理解する。 4. 出産・育児の準備について理解する。 5. 親役割の準備について理解する。 6. 妊婦の看護の実際について理解する。	1. 妊娠の生理と経過、胎児発育 2. 妊婦の健康診査 3. 妊婦の診察と介助 1. 妊婦の心理的特徴 2. 妊婦と家族および社会 1. 妊娠中の日常生活の過ごし方 2. 妊婦の健康管理と保健指導 3. 妊娠中のマイナートラブルと保健指導 4. 妊婦の食事指導 5. 妊婦の疑似体験		
分娩期における看護	7. 分娩の経過と胎児の健康状態について理解する。 8. 産婦と家族の心理について理解する。 9. 分娩の進行状態に合わせた看護について理解する。	1. 分娩準備教育 2. 育児準備のための保健指導 1) 妊娠中の乳房の手当て 1. 母親としての自己像形成過程 2. 新しい家族役割への適応過程 1. 妊婦健康診査の目的と方法 1) 腹囲・子宮底の測定 2) レオポルドの4段触診法 3) 胎児心拍の聴取 1. 分娩の生理と経過 2. 産婦の健康診査 1) 分娩の進行状態・胎児の健康度 1. 産婦の心理的特徴 1) 分娩経過と心理的变化 2) 家族の心理と支援 1. 分娩の経過と看護 1) 入院時の看護 2) 分娩第1期～第4期の看護 3) 産痛緩和法 (1) 呼吸法 (2) 弛緩法		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学【2】」 「根拠と事故防止からみた母性看護技術」		医学書院 医学書院	
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	母性看護学実習に通じる科目です。事前学習に基づく演習を行いますので、しっかり準備して授業に参加して下さい。			

科 目	(63) 母性看護学方法論Ⅱ	3年 前期	1単位	30時間
担当教員	川崎 恵子、出崎 裕貴子			
ねらい	褥婦と新生児が生理的経過をたどり、褥婦が自身のセルフケアと育児が行えるための保健指導について学ぶ。また、新生児の胎外生活への適応を促し、家族の一員として迎えらるるための看護について学ぶ。			
到達目標	1. 産褥の経過と看護について理解する。 2. 新生児期の経過と看護について理解する。 3. 母性の特徴を理解し、褥婦の看護過程を展開する。			
単元名	学習目標	内 容		
産褥期における看護	1. 産褥の経過について理解する。 2. 褥婦の心理について理解する。 3. 褥婦の日常生活とセルフケアを理解する。 4. 家族関係形成への援助を理解する。 5. 褥婦の看護の実際を理解する。	1. 産褥の生理と経過 2. 褥婦の健康診査 1. 褥婦の心理的特徴 2. 家族の心理 1. 褥婦の日常生活 2. 褥婦のセルフケアへの援助 1. 新しい家族形成への援助 1. 乳房の観察と乳汁分泌促進 2. 復古現象の観察と促進方法 3. 産褥体操 4. 直接授乳の援助		
新生児期における看護	6. 新生児の経過を理解する。 7. 早期新生児の看護を理解する。 8. 新生児の看護技術を理解する。	1. 新生児の生理と経過 1) 新生児の身体的特徴 1. 出生直後の新生児の看護 2. 早期新生児の日常生活の援助 3. 新生児の保育環境 1) 保育器・コットの整備 4. 退院へ向けた保健指導 1) 沐浴指導 2) 育児技術指導 1. バイタルサイン測定 2. 全身の観察 3. 身体計測・頭部計測 4. 沐浴、おむつ交換、臍処置 5. 安全な抱き方、寝かせ方		

母性看護における看護過程展開	9. 紙上事例を用いた褥婦の看護過程展開を理解する。	1. アセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎情報(非妊時の健康情報、過去の妊娠・分娩歴、今回の妊娠・分娩経過、児の健康状態など) 2) 産褥経過 3) 褥婦の健康状態 4) 褥婦の生活パターン 5) 不快症状と対処能力、セルフケア行動 6) 新生児と褥婦・夫との関係性 7) 母親としての褥婦の役割行動 8) 褥婦を取り巻くサポート体制 2. 全体像の描写 3. 健康課題の明確化 4. 看護計画の立案
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学【2】」 医学書院 「根拠と事故防止からみた 母性看護技術」 医学書院	
評価方法	筆記試験 90% 看護過程レポート 10%	
備考・履修上の留意点	母性看護学実習に通じる科目です。事前学習に基づく演習を行いますので、しっかり準備して授業に参加して下さい。	

科 目	(64) 母性看護学方法論Ⅲ	3年 前期	1単位	15時間
担当教員	吉藤 美幸			
ねらい	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期各期の病態生理と異常について理解し、異常に傾いた時どのように対象を捉えるか、また、対象とその家族をどのようにサポートしていくかについて学ぶ。			
到達目標	1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児のハイリスク状態と主な治療について理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児のハイリスク時の看護について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
周産期の異常 周産期の健康問題に対する看護 筆記試験	1. ハイリスク状況にある妊娠・分娩・産褥期・新生児期の病態生理・治療について理解する。 2. ハイリスク状況にある妊娠・分娩・産褥期、新生児期の主な健康問題に対する看護を理解する。	1. 妊娠期の異常と健康問題に対する看護 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患 (妊娠悪阻、GDM、HDP、妊娠性貧血) 4) 高齢妊娠、若年妊娠 5) 妊娠持続期間の異常 (流産、早産、不育症) 2. 分娩期の異常と健康問題に対する看護 1) 微弱神通、過強陣痛 2) 胎盤の異常 (常位胎盤早期剥離、前置胎盤、前期破水) 3) 分娩時異常出血 4) 帝王切開術、術後 5) 胎児機能不全 3. 産褥期の異常と健康問題に対する看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥熱 3) 乳腺炎 4) 産褥うつ 5) 児を亡くした褥婦と家族 4. 新生児期の異常と健康問題に対する看護 1) 早産、低出生体重児 2) 呼吸障害(新生児仮死、TTN、MAS、RDS) 3) 高ビリルビン血症 4) 新生児低血糖		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学【2】」 医学書院			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	これまで学習した妊娠・分娩・産褥の生理的变化をしっかりと理解した上で、この時期に異常に傾いたとき、どのように対象を捉え、サポートしていくかを学習して下さい。			

科 目	(65) 精神看護学概論	1年 後期	1単位	30時間
担当教員	相澤 加奈、伊藤 絹子、原田 亮太			
ねらい	精神の健康の考え方とその保持・増進のための基本および個人から社会に至る様々なレベルでの心の問題を理解し、精神疾患を有する人々の多様なニーズに対応する看護師の役割、及び看護に共通する精神の健康について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の目的と役割について理解する。 2. 精神看護と精神科看護の違いを理解する。 3. 精神（こころ）の構造を理解する。 4. 精神看護に用いられる種々の理論を理解する。 5. 精神保健医療・看護と関連法制度の歴史の変遷と現状を学び、精神障害者の人権尊重の重要性について考えることができる。 6. 精神保健学の基本的事項を学び、個人から社会に至る様々なレベルにおける心の問題について理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
精神看護学の目的	1. 精神看護の考え方を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における精神看護 2. 精神看護が展開される場 3. 精神看護学の基本的な考え方 		
精神（心）のとらえ方	2. 精神看護と精神科看護の違いを理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科看護の考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護の役割 2) 精神科看護の役割 		
精神（心）の発達に関する主要な考え方	3. 脳の機能と精神障害について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意識と意識障害 2. 知能と知的障害 3. 記憶と記憶障害 4. 感情と感情障害 5. 意欲と意欲障害 6. 知覚と知覚障害 7. 思考と思考障害 		
精神（心）の危機状況と精神保健	4. 心の構造と機能を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の心のはたらき <ol style="list-style-type: none"> 1) 心の構造と機能 2) 心の発達理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) フロイト (2) エリクソン (3) ピアジェ (4) マーラー (5) ボウルビー 3) 自我の構造 4) 防衛（適応）機制 		
精神（心）の危機状況と精神保健	5. 危機的状況とそれに対する介入について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 危機とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 危機理論とストレス理論 2) ストレスへの対処 3) ストレスとしての心的外傷 4) 危機を乗り越え、成長していくための支援と力 		
看護師のメンタルヘルス	6. 看護師のメンタルヘルス保持・向上の必要性を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感情労働としての看護 2. 看護師の感情ワーク 		

<p>ライフサイクルと精神の健康</p> <p>暮らしの場と精神の健康 現代社会と精神の健康</p> <p>わが国の精神保健・医療・福祉の歴史の変遷</p> <p>精神科看護と法制度</p> <p>精神（心）を病むということ</p>	<p>7. ライフステージにおける発達課題と発達危機について理解する。</p> <p>8. 現代社会における精神保健について理解する。</p> <p>9. 日本における精神保健・医療・福祉の歴史を理解する。</p> <p>10. 精神看護の実践に必要な種々の法制度を理解する。</p> <p>11. 精神（心）を病むことと生きることについて理解する。</p>	<p>1. 発達課題と危機</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 青年期 5) 壮年期 6) 老年期 <p>1. 家族・家庭の精神保健</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 学校と精神保健 3. 職場における精神保健 4. コミュニティにおける精神保健 5. 地域保健活動と精神保健 <p>1. 精神保健の概念</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 精神障害と治療の歴史 3. 日本における精神医学・精神医療の流れ 4. 精神障害と文化 5. 精神障害と社会学 <p>1. 精神保健福祉法</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 心身喪失者等医療観察法 3. 生活保護法 4. 地域精神保健福祉対策 <p>1. 事例を通して精神疾患を患い生きることについて考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神疾患に伴う内的異常体験 2) 精神疾患を患うことでの人生の苦悩 3) 社会からのスティグマと当事者自身のセルフスティグマ
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健」 メヂカルフレンド社</p> <p>「新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護」 メヂカルフレンド社</p> <p>上記の他、必要に応じて講義中に参考資料等を配布する。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>精神看護学の学習は、各看護学領域における看護実践に繋がっていきます。本科目では、人間の心の健康の保持・増進についての考え方や、日本の精神医療の歴史について学習していきます。授業への積極的な参加を望みます。</p> <p>【参考図書】「看護のための精神医学 第2版」 医学書院 「新クイックマスター 精神看護学 改訂版」 医学芸術社</p>	

科 目	(66) 精神看護学方法論 I	2年 前期	1 単位	30 時間
担当教員	松山 清治、原田 亮太			
ねらい	精神症状と、主な精神障害（疾患）の診断・治療を理解し、精神に障害を持つ人の看護の基本を学ぶ。			
到達目標	精神症状・精神障害（疾患）の特徴と検査・治療を学び、それらに必要な看護を理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
精神疾患の理解	1. 精神疾患の基礎知識を理解する。	1. 精神疾患の概念 1) DSMとICDの分類 2. 精神疾患の診断とは 3. 精神科の診断方法 4. 診断の進め方 5. 精神疾患に見られる精神症状 1) 意識の障害 2) 知覚（感覚）の障害 3) 思考の障害 4) 感情の障害 5) 記憶の障害 6) 意欲の障害 7) 知能の障害 8) 自我意識の障害		
検査による状態把握	2. 主な検査を理解する。	1. 生物学的検査 2. 心理学的検査 3. 画像検査		
精神疾患と治療法	3. 主な精神疾患の特徴と精神症状を理解する。	1. 主な精神疾患 1) 統合失調症 2) 気分障害 3) 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 4) 器質性精神障害（症状性精神障害） 5) 精神作用物質使用による精神・行動の障害 6) 睡眠障害 7) 摂食障害 8) パーソナリティ障害 9) 小児・青年期の精神障害		
	4. 精神科における主な治療法を理解する。	1. 薬物療法 2. 電気けいれん療法 3. 精神療法 4. 精神科リハビリテーション療法 1) 作業療法 2) レクリエーション療法 5. 認知行動療法		

<p>主な治療法に対する看護</p> <p>精神科における身体ケア</p>	<p>5. 精神科における主な治療法に対する看護を理解する。</p> <p>6. 精神科における身体ケア（身体合併症ケア）の方法を理解する。</p>	<p>1. 主な治療法と看護</p> <p>1) 精神科薬物療法に伴う看護</p> <p>2) 電気けいれん療法に伴う看護</p> <p>3) 精神療法に伴う看護</p> <p>4) 精神科リハビリテーション療法に伴う看護</p> <p>5) 認知行動療法に伴う看護</p> <p>1. 精神科における身体ケア</p> <p>2. 日常から気を付けておきたい身体合併症</p> <p>1) メタボリックシンドローム</p> <p>2) 糖尿病</p> <p>3) 誤嚥・窒息</p> <p>4) 肺炎</p> <p>5) 骨折</p> <p>6) イレウス</p> <p>7) 水中毒</p> <p>8) 不整脈</p> <p>9) 深部静脈血栓症・肺塞栓症</p> <p>3. 日常生活における身体ケア</p>
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「看護学テキスト Nice 病態・治療論【12】精神疾患 南江堂</p> <p>「新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護」 メヂカルフレンド社</p> <p>「看護実践のための根拠がわかる精神看護技術」 メヂカルフレンド社</p> <p>上記の他、必要に応じて講義中に参考資料等を配布する。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 100%（松山講師：70%・原田：30%）</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>精神疾患・症状とそれらに対する治療を理解することは、精神障害を持つ人に対する看護を実践していくうえで重要になります。授業への積極的な参加を望みます。</p> <p>【参考図書】</p> <p>「看護のための精神医学」 医学書院</p> <p>「学生のための精神医学」 医歯薬出版株式会社</p>	

科 目	(67) 精神看護学方法論Ⅱ	2年 後期	1単位	30時間
担当教員	相澤 加奈、原田 亮太			
ねらい	こころの健康問題や精神障害をもつ対象と家族の理解とその関わり方、治療的環境の提供・日常生活の援助、及び主な精神症状のアセスメントと援助を理解し、精神障害者の看護について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害をもつ対象と家族に対する看護を理解する。 2. 安全な治療的環境とリスクマネジメントを理解する。 3. 主な精神症状と、それに対する援助を理解する。 4. 精神看護に活用できる理論を理解する。 5. リエゾン精神看護について理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
精神障害をもつ対象と家族の特徴と看護の基本	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護に携わる看護師の役割を理解する。 2. 生活の視点から精神障害をもつ対象の特徴を理解する。 3. 精神障害を持つ対象を支える家族への援助を理解する。 4. 地域における精神看護を理解する。 5. 治療的人間関係の必要性を理解する。 6. 入院治療における看護の実際を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護に携わる看護師の役割 2. 精神障害をもつ対象の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害の捉え方 2) 精神障害者の体験する世界 1. 家族への支援の基本 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族の状況 2) 家族を見る視点 3) 家族の課題 4) 家族への援助の実際 1. 外来における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科外来 2) 精神科デイケア 2. 精神科訪問看護 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係論 2. 患者－看護師関係の発展過程 <ol style="list-style-type: none"> 1) ケアの人間関係 2) 患者－看護師関係に関する理論 3. プロセスレコードの実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) プロセスレコードの定義 2) プロセスレコードを記載することの意義 3) プロセスレコードの記載 1. 入院治療と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病室・病棟の環境調整と管理 2) リスクマネジメント 3) 精神保健福祉法上の入院形態 4) 入院生活の支援 5) 行動制限と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体拘束 (2) 隔離 (3) その他の行動制限 6) 代理行為と自己管理 		

<p>主な精神疾患・症状に対する看護</p> <p>リエゾン精神看護</p>	<p>7. 精神障害をもつ対象への日常生活の援助を理解する。</p> <p>8. 援助に必要な基本的技術を理解する。</p> <p>9. 精神症状の特徴と症状を呈する人に対する看護の基本を理解する。</p> <p>10. リエゾン精神看護について理解する。</p>	<p>1. 精神看護で用いられる看護理論</p> <p>1) セルフケア理論</p> <p>2. 日常生活動作能力のアセスメント</p> <p>3. 対象者の状況に応じた日常生活への援助</p> <p>1) 日常生活動作に対する援助</p> <p>(1) 食事・水分摂取と服薬行動</p> <p>(2) 排泄行動</p> <p>(3) 清潔行動</p> <p>(4) 活動と休息のバランス</p> <p>(5) 安全</p> <p>(6) 孤独と付き合いのバランス</p> <p>1. 援助に必要な基本的技術</p> <p>1) 精神科における看護観察</p> <p>2) 治療的コミュニケーション</p> <p>3) ロールプレイ</p> <p>4) グループワーク</p> <p>5) カウンセリング</p> <p>6) サイコエデュケーション</p> <p>2. 治療的コミュニケーション演習</p> <p>1. 主な精神疾患を有する患者への看護</p> <p>1) 統合失調症</p> <p>2) 感情障害</p> <p>3) 人格障害</p> <p>4) アディクション</p> <p>2. 主な精神症状の特徴と看護</p> <p>1) 不安状態</p> <p>2) 抑うつ状態</p> <p>3) 躁状態</p> <p>4) 幻覚・妄想状態</p> <p>5) 思考・意識障害</p> <p>6) 強迫行為</p> <p>7) 記憶障害</p> <p>8) 離脱症状</p> <p>1. リエゾン精神看護とは</p> <p>2. リエゾン精神看護の対象の特徴</p> <p>3. 精神看護専門看護師の活動の実際</p> <p>4. 災害時の精神保健医療活動</p>
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「看護学テキスト Nice 病態・治療論【12】 精神疾患」 南江堂</p> <p>「新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護」 メヂカルフレンド社</p> <p>「看護実践のための根拠がわかる精神看護技術」 メヂカルフレンド社</p> <p>上記の他、必要に応じて講義中に参考資料等を配布する。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>授業内課題：10% 筆記試験 90% (相澤講師：40%・原田：50%)</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>本科目では、精神看護に活用する理論や、こころの健康に問題を抱える人に対する看護の実際（精神科看護）を学びます。授業への積極的な参加を望みます。</p> <p>また、授業の中での演習で、日々の他者との関わりや、実習での対象との関わりを振り返り、実際に「プロセスレコード」を記載します。</p> <p>【参考図書】「看護のための精神医学」 医学書院</p> <p>「学生のための精神医学」 医歯薬出版株式会社</p>	

科 目	(68) 精神看護学方法論Ⅲ	3年 前期	1単位	15時間
担当教員	伊藤 絹子、原田 亮太			
ねらい	統合失調症（急性期）患者の紙上事例の看護過程展開から、精神障害の理解と必要な看護を理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に現在現れている精神症状と、疾患に対する検査・治療を理解することができる。 2. 精神障害・症状が日常生活に与える影響を理解することができる。 3. 精神障害が対象のライフサイクルに与える影響を考慮することができる。 4. 患者・家族を取り巻く社会的状況（人権擁護、法律、社会福祉施策等）を理解することができる。 5. 対象に起きている事実から看護の方向性を明確にすることができる。 6. グループ学習の成果を共有し、対象に必要な看護を多角的に考えることができる。 			
単元名	学習目標	内 容		
精神科看護における看護過程の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科領域における看護過程の考え方がわかる。 2. 統合失調症の急性期にある人の看護過程を展開することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科領域における看護過程 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科領域における看護過程の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報収集 (2) アセスメントと対象の把握 (3) 計画立案と実践・評価 2) 精神科領域における看護記録 1. 情報の整理（パーソナルワーク） <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神症状 2) 精神保健福祉法上の入院形態 3) 日常生活の状況 4) 現病歴、生育歴 5) 対象の発達段階 6) 行われている治療 7) 身体状況の把握 8) 認知・理解力の把握 9) 合併症の有無 10) 重要他者（主に家族）との関係 11) 主観的情報 2. 全体像の把握 <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント（パーソナルワーク） <ol style="list-style-type: none"> (1) 病状の把握 (2) 精神症状の日常生活への影響 (3) 治療の状況 (4) 対人関係能力 (5) 病識の有無 2) 関連図の作成（グループワーク） <ol style="list-style-type: none"> (1) 対象の状況と主病名 (2) 精神症状 (3) 入院生活・日常生活の状況 (4) 社会資源の活用状況 (5) 重要他者との関係 3. 看護問題・看護目標の明確化（グループワーク） <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護問題・健康問題の抽出 2) 優先順位の判断 3) 対象のゴールの設定 		

	<p>3. グループワーク・発表を通じ、多角的な看護の必要性について考えることができる。</p>	<p>4. 看護の方向性の明確化 (グループワーク)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対人関係や日常生活の自立を促す看護 2) 患者－看護師関係発展のための看護 3) 精神症状の緩和のための看護 4) 安全な環境への配慮 5) 家族への支援 <p>1. グループ発表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメントの統合 (関連図) 2) 看護上の問題点 3) 援助の方向性 4) 質疑応答
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「看護学テキスト Nice 病態・治療論【12】 精神疾患」 南江堂 「新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護」 メヂカルフレンド社 「看護実践のための根拠がわかる精神看護技術」 メヂカルフレンド社 上記の他、必要に応じて講義中に参考資料等を配布する。</p>	
<p>評価方法</p>	<p>看護過程レポート：評価表に基づき評価する (40%) 筆記試験：看護師国家試験出題基準に準拠した内容 (60%)</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学実習に向けて重要な科目です。授業では看護過程の演習（パーソナルワーク・グループワーク）を行います。 ・パーソナルワークは計画的に進め、必要な指導を受けてからグループワークに参加することを徹底してください。 ・グループワークでは積極的に発言することを意識してください。 ・学習状況に応じ、精神症状を持つ人への関わり方の理解を深めるために、事例に関連する場面設定でロールプレイを行います。 ・記録提出のスケジュールについては、初回講義時に説明します。 <p>【参考図書】 「エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図」 中央法規 「新クイックマスター 精神看護学 改訂版」 医学芸術社 「精神看護実習ガイド」 照林社 「看護のための精神医学」 医学書院 「学生のための精神医学」 医歯薬出版株式会社 これらの他、図書室の蔵書等を活用して学びを深めること。</p>	

5) 統合分野

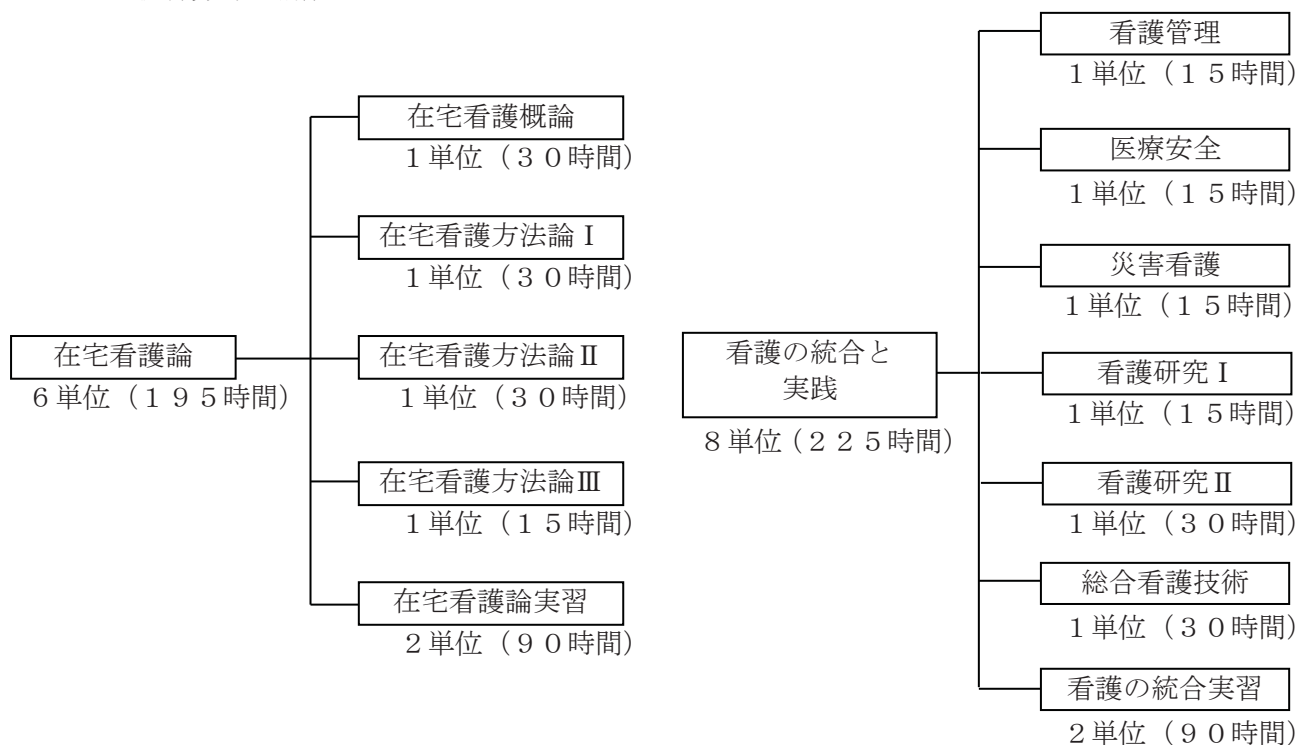
「在宅看護論」「看護の統合と実践」

統合分野は、「在宅看護論」と「看護の統合と実践」で構成されている。

「在宅看護論」は、概論、方法論と実習から成り、在宅療養の実態とその課題について理解するために、訪問や施設見学等の実習を行い、対象者の健康レベルと生活の場に対応したケアについて学習する。さらに、現状の課題・問題点を明確にし、今後のあり方等を考える。

「看護の統合と実践」は、看護管理、医療安全、災害看護、看護研究、総合看護技術、看護の統合実習から構成されている。「看護の統合と実践」では、これまでの実習経験から選択した事例について、看護研究の一連のプロセスを通して、客観的にまとめ、今後の課題について思考する。

<統合分野の構成>



統合分野 実務経験のある教員（専任教員）による授業科目

科目	閲覧ページ	担当教員		実務経験と担当科目との関係
		実務経験の有無	専任教員資格の有無（注）	
在宅看護概論	112ページ	有	有	実務経験を生かし科目のねらいと到達目標に沿った教育を行う
在宅看護方法論Ⅰ	113ページ	有	有	同上
在宅看護方法論Ⅱ	115ページ	有	有	〃
在宅看護方法論Ⅲ	116ページ	有	有	〃
災害看護	119ページ	有	有	〃
看護研究Ⅰ	120ページ	有	有	〃
看護研究Ⅱ	121ページ	有	有	〃
総合看護技術	122ページ	有	有	〃

注) 専任教員資格の有る者とは、厚生労働省が定める、「看護師養成所の運営に関するガイドライン」に規定された、保健師、助産師又は看護師として、5年以上業務に従事し、専任教員として必要な研修を修了した者等に該当する者を言う。

科 目	(77) 在宅看護概論	2年 前期	1単位	30時間
担当教員	波間 由紀子、米坂 理絵			
ねらい	社会情勢の変化や医療の発展のなか、住み慣れた地域で暮らすために地域包括ケアシステムの構築が強く推進されている。このため、我が国の現状をふまえ、在宅療養を支える看護師の役割について学ぶ。また、対象を生活者にとらえ、療養の場に応じた看護と多職種連携について理解する。さらに療養者と家族を支える制度や社会資源について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護が必要とされる背景と基本理念を理解する。 2. 在宅看護の対象を理解する。 3. 在宅看護の役割を理解する 4. 在宅看護にかかわる法律・制度を理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
在宅看護の目的と特徴	1. 日本の在宅看護の変遷と社会背景について説明できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目指すもの 2. 在宅看護における看護師の役割 3. 地域包括ケアシステムの理解 		
在宅看護の対象者	2. 在宅看護の対象である療養者と家族について理解し、必要な援助を説明できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の特徴 2. 住まい方と健康 3. 家族のとらえ方と支援 		
在宅療養への支援	3. 療養の場に合わせて、看護支援を行うことや多職種との連携について説明できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の提供方法 2. 療養の場の移行 3. 在宅看護の基本となるもの 		
地域療養を支える制度	4. 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用について理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護にかかわる法令・制度 2. 介護保険制度 3. 訪問看護制度 4. ケアマネジメント 5. 多職種連携 		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 「強みと弱みからみた在宅看護過程＋総合的機能関連図」 「ナースのためのやさしくわかる訪問看護」		医学書院 医学書院 ナツメ社	
評価方法	提出課題10% 筆記試験90%			
備考・履修上の留意点	在宅療養者とその家族を生活者の視点でとらえます。このため、学生自身が地域の中で生活していることを意識しながら講義を受けてください。			

科 目	(78) 在宅看護方法論 I	2年 後期	1 単位	30 時間
担当教員	米坂 理絵			
ねらい	地域で療養している人とその家族の理解を深め、在宅療養者の健康状態に応じた看護を展開するための基礎的知識・技術を学ぶ。また、在宅看護に必要な保健・医療・福祉システムの活用について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護援助の基本を理解する。 2. 在宅療養者の健康状態に応じた療養者と家族への看護について理解する。 3. 在宅看護を支えるしくみと関連職種との協働や社会資源の活用について理解する。 			
単元名	学習目標	内 容		
在宅看護援助の基本	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の生活について理解する。 2. 在宅看護援助の基本を理解する。 3. 在宅看護における訪問看護技術の基本を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者と生活 2. 対象者の生活様式と価値観 		
在宅療養者の健康状態に応じた看護	<ol style="list-style-type: none"> 4. 在宅で療養する認知症高齢者と家族への看護を理解する。 5. 難病で療養する人と家族への看護を理解する。 6. 障害を持ちながら生活する人と家族への看護を理解する。 7. 終末期を迎えた療養者と家族への看護を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における看護援助の基本 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅における日常生活の援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 連絡体制、相談・訪問 (2) 感染管理、リスクマネジメント 1. 訪問看護技術の基本 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーション技術 2) 相談・指導技術 3) 訪問時のマナー 1. 認知症の高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病の特徴と療養の経過 2) 日常生活自立度・要介護度 3) 家族への支援 1. 難病で療養する対象の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病の特徴と療養の過程 2) 難病対策要綱 3) 家族への支援 1. 障害を持ちながら生活する対象の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害に応じた看護 2) 住環境調整・生活拡大への支援 3) 家族への支援 4) 障害者総合支援法 1 終末期を迎えた対象の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病の特徴と療養の過程 2) 症状コントロール（緩和ケア） 3) 自己決定への支援 4) 家族への支援 5) 24時間の支援体制 		

<p>在宅看護における看護過程</p> <p>在宅における災害看護</p>	<p>8. 在宅で療養する子どもと家族への看護を理解する。</p> <p>9. 看護過程の視点と情報収集の視点を理解する。</p> <p>10. 災害時における在宅看護について理解する。</p>	<p>1. 在宅で療養する子どもへの看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 発達を踏まえた援助 2) 家族への支援 3) 子どもの療養生活を支える制度 <p>1. 在宅看護過程の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者、家族個々の価値観や人生観の尊重 2) 療養者、家族が望む生活の実現 3) 療養者、家族の習慣の尊重 4) 自己決定とセルフケアへの支援 5) 支援体制の確立 <p>2. 情報収集の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者、家族の身体・精神面の健康状態 2) 療養者と家族の在宅療養への思いや願い 3) 療養者と家族の関係 4) 住環境と経済状況 5) 活用している社会資源 <p>1. 災害時の在宅看護の視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者とその家族の環境の理解 2) 災害時の援助の実際
<p>テキスト及び副教材</p>	<p>「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 医学書院 「強みと弱みからみた在宅看護過程＋総合的機能関連図」 医学書院 「ナースのためのやさしくわかる訪問看護」 ナツメ社</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験 100%</p>	
<p>備考・履修上の留意点</p>	<p>在宅看護論は、各看護学との関連が深くそれらの応用が求められます。今まで学習したことを振り返りながら講義を受けてください。</p>	

科 目	(79) 在宅看護方法論Ⅱ	2年 後期	1単位	30時間
担当教員	波間 由紀子			
ねらい	在宅療養者とその家族のQOLの維持・向上に向けて、在宅看護を展開するために必要な訪問看護技術の基本技術と生活を支える看護技術を学ぶ。			
到達目標	1. 訪問看護の基本技術を理解する。 2. 在宅における生活を支える看護技術を理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
訪問看護の基本技術 生活を支える看護技術	<p>1. 生活環境の調整を理解する。</p> <p>2. 在宅における生活全体をアセスメントする視点を理解する。</p> <p>1. 在宅における日常生活援助技術を理解する。</p> <p>2. 在宅における処置を伴う援助技術を理解する。</p>	<p>1. 住まい・生活環境の調整 1) 住まい・生活環境の整備 2) 社会資源の活用と工夫</p> <p>1. 生活全体のアセスメントの視点 1) ヘルスアセスメントの目的 2) ヘルスアセスメントの実際</p> <p>1. 在宅における日常生活援助技術 1) 食事 (1) 食事のアセスメントと援助 2) 排泄 (1) 排泄のアセスメントと援助 3) 清潔・衣生活 (1) 清潔・衣生活のアセスメントと援助 (2) 入浴・シャワー浴・清拭・部分浴・洗髪・整容・更衣 4) 活動・休息 (1) 活動(移動・移乗)のアセスメントと援助 (2) 転倒・転落・外傷予防 (3) 休息(睡眠)のアセスメントと援助</p> <p>2. 処置を伴う援助技術 1) 在宅経管栄養法の管理 2) 在宅中心静脈栄養法の管理 3) 膀胱留置カテーテルの管理 4) 腹膜透析の管理 5) ストマケア 6) 褥瘡の予防とケア 7) 在宅酸素療法の管理 8) 在宅人工呼吸器の管理 (マスク・気管切開・吸引・吸入) 9) 服薬管理</p>		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 「ナースのためのやさしくわかる訪問看護」 「強みと弱みからみた在宅看護過程＋総合的機能関連図」 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 「写真でわかるリハビリテーション看護アドバンス」 「写真でわかる高齢者ケアアドバンス」 「写真でわかる透析看護」		医学書院 ナツメ社 医学書院 医学書院 インターメディカ インターメディカ インターメディカ	
評価方法	筆記試験100%			
備考・履修上の留意点	在宅療養者の増加に伴い、在宅看護では対象の生活を支えるために日常生活援助技術と特殊な技術の管理が必要です。 在宅看護技術の中から重要な技術を演習します。事前学習して演習に臨んで下さい。			

科 目	(80) 在宅看護方法論Ⅲ	3年 前期	1単位	15時間
担当教員	波間 由紀子、米坂 理絵			
ねらい	紙上事例を用いて、地域で生活する療養者と家族を生活者の視点から考える。さらに、今まで学習した基礎知識をふまえ、療養者と家族のQOLの維持・向上を目指した在宅看護を学ぶ。			
一般目標	紙上事例を用いて、在宅療養者および家族のQOLの維持・向上を目指した在宅看護過程の展開ができる。			
単元名	行動目標	内 容		
在宅看護過程の展開	<p>1. 療養者と家族の理解を深め、療養者と家族のQOLの維持向上に向けて看護を考える。</p> <p>2. 在宅看護における社会資源</p>	<p>1. アセスメント</p> <p>1) 疾患・医療ケア</p> <p>2) 活動</p> <p>3) 環境</p> <p>4) 理解・意向</p> <p>2. 全体像の描写</p> <p>1) 文章による全体像</p> <p>3. 療養上の課題の明確化</p> <p>4. 看護課題リスト</p> <p>1) 療養に対する思い・望み</p> <p>2) 長期目標</p> <p>3) 短期目標</p> <p>5. 行動計画（訪問看護計画）立案</p> <p>(1) 日常生活支援</p> <p>(2) 療養者と家族への指導</p> <p>(3) 社会資源の理解と活用</p> <p>1. 在宅療養を支える制度・法律</p>		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 「ナースのためのやさしくわかる訪問看護」 「強みと弱みからみた在宅看護過程＋総合的機能関連図」		医学書院 ナツメ社 医学書院	
評価方法	在宅看護過程レポート20% 筆記試験80%			
備考・履修上の留意点	在宅看護の対象ならびに社会資源、制度について復習しておくこと。在宅看護方法論Ⅰ，Ⅱの内容をふまえ、講義を受けてください。			

科 目	(8 1) 看護管理	3 年 前期	1 単 位	15 時間
担当教員	田所 亮一			
ね ら い	看護の対象者ひとり一人により良い看護サービスを提供するための看護管理についての基礎的知識・技術を学ぶ。			
到達目標	1. 看護管理とは何かを理解する。 2. より良い看護を提供するための看護管理の方法について理解する。 3. 組織における専門職の協働、看護職のキャリア形成について理解する。 4. 看護を取り巻く法と制度、看護職の職業倫理について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
看護とマネジメント	1. 看護管理の定義と変遷からマネジメントの概念を理解する。	1. 看護管理の定義 2. マネジメントの考え方の変遷 1) ナイチンゲール「看護覚え書」小管理 3. マネジメントの目的とプロセス		
ケアのマネジメント	2. 対象者に提供されるケアを調整、統制するケアマネジメントについて理解する。	1. ケアのマネジメント 1) ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 看護基準と看護手順 3) 看護職の協働・他職種との協働 4) ケアの提供にかかわる情報の記録・保管・蓄積		
看護職のキャリアマネジメント	3. 看護を学ぶ人が社会人・職業人としてのキャリア形成について理解する。	1. 看護職のキャリア形成 1) 看護職の技能習得段階 2) 新人教育・研修・キャリアラダー 3) 看護専門職としての成長（社会化） 4) タイムマネジメント		
看護サービスのマネジメント	4. 看護サービスを提供する組織を調整、統制する看護サービスのマネジメントについて理解する。	1. 看護サービスのマネジメント 1) 看護サービスのマネジメントの対象と範囲 2) 病院組織の目的達成のための看護の組織化 3) 看護ケア提供システムと看護単位 4) 情報の管理		
看護職と法制度	5. 看護を取り巻く諸制度について理解する。	1. 看護職と法制度 1) 看護職の法的責任 2) 診療報酬制度と看護対価		
看護職と倫理・教育	6. 看護職の職業倫理と教育制度とについて理解する。	1. 看護職の倫理 1) 倫理綱領・倫理原則・倫理的葛藤 2. 看護職の教育制度 1) より専門性の高い看護職の養成及び・認定制度		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 看護管理 看護の統合と実践【1】」 医学書院 「看護覚え書」フローレンス・ナイチンゲール 現代社 *参考資料「看護管理」ナーシング・グラフィカ メディカ出版			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	2年次の臨地実習での施設オリエンテーション、師長・チームリーダー・指導者・看護師との関わりを思い起こしながら、より良い看護を提供するための看護管理について学習して下さい。ナイチンゲールの「看護覚え書」の第3章「小管理」は事前によく読んでおいて下さい。			

科 目	(82) 医療安全	3年 前期	1 単位	15 時間
担当教員	田所 亮一			
ね ら い	看護を実践していくうえで、患者に予期せぬ不幸な事態が生じないために、どのような「してはいけないこと」や「すべきこと」があるのか、医療安全の考え方と具体策を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人はなぜ間違いを起こすのかを知り、医療安全を考えることができる 2. 診療の補助に伴う医療事故、対策を知ること、安全な看護業務を考えることができる 3. 療養上の世話の伴う医療事故、対策を知ること適切な援助を考えることができる 			
単元名	学習目標	内 容		
医療安全について	1. 医療事故防止の考え方を理解する	事例を通し看護事故の構造を考える		
診療の補助の事故防止	2. 診療の補助を安全に実施するために必要な知識を理解する	注射、輸血、内服与薬、経管栄養、チューブ管理の事故防止		
療養上の世話の事故防止	3. 療養上の世話を安全に実施するために必要な知識を理解する	転倒・転落、誤嚥、異食、入浴中の事故防止		
医療安全とコミュニケーション	4. 医療チームや患者間で必要な情報を正確に伝達・共有することができる。	事故を未然に防ぐために必要な情報の共有、コミュニケーションを、事例を通して考える		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 医療安全 看護の統合と実践【2】」 医学書院 医学書院 医療安全ワークブック 第4版			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	医療安全に対する意識を持ち、医療事故を予防できるように学習を進めて下さい。			

科 目	(83) 災害看護	3年 後期	1単位	15時間
担当教員	熊谷 昌恵			
ねらい	災害から自分や家族の身を守る防災や減災対策を習得するとともに、災害時において看護師が果たす役割や他職種との連携について学ぶ。また、国際社会における人々の健康と保健医療の現状について学び看護の果たす役割を考える。			
到達目標	1. 災害医療・災害看護に関する基礎的な知識・技術を習得し、災害時の看護活動と看護職の役割を理解する。 2. 世界の人々の健康と保健医療の現状について理解し、異文化看護と在日外国人の看護について考える。			
単元名	学習目標	内 容		
災害医療・ 災害看護の基礎	1. 災害看護の基礎的知識を理解する。	1. 災害医療の基礎 1) 定義・分類 2) 災害医療の歴史 3) 世界各地の災害		
災害各期の看護活動	2. 災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を理解し、災害各期に応じた看護活動を理解する。	2. 災害看護の基礎 1) 災害サイクル 2) 災害サイクルに応じた看護		
災害時に必要な技術	3. 災害時に必要な基本的な技術について理解する。	3. 災害各期の看護活動 1) 急性期の看護活動 2) 避難所における看護活動 3) 中長期的看護 4) 防災と減災		
国際化と看護	4. 国際社会における看護について理解する。	4. トリアージの基本的知識 1) トリアージの原則と方法 2) トリアージ演習		
		5. 国際社会における看護 1) 看護のグローバル化 2) 多様な文化と看護 3) 看護の国際協力活動		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 統合分野看護 災害看護学・国際看護学」 医学書院			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	災害はいつ、どこで起こるかわからないだけに、平常時より看護職として自然災害・人為災害に対する危機管理意識を持つことが重要です。演習にあたっては事前学習をしっかりとって参加して下さい。			

科 目	(84) 看護研究 I	3年 前期	1単位	15時間
担当教員	久保田 睦子			
ね ら い	看護を科学的思考で論理的に考え、研究に必要な基礎的知識・態度を養う。			
到達目標	1. 看護研究の意義と方法、研究的なプロセスを理解する。 2. 看護研究における倫理について理解する。			
単元名	学習目標	内 容		
看護研究の基礎	1. 看護における研究の意義とプロセスを理解する。 2. 看護研究の方法を理解する。 3. 看護研究における倫理について理解する。 4. ケーススタディの実際を理解する。	1. 看護における研究 1) 看護における研究の意義 2) 看護研究のプロセス (1) 研究課題 (テーマ) の明確化 (2) 文献検索・文献検討 (3) 研究方法の決定 (4) 研究計画書 (5) データ収集と分析 (6) 結果・考察 1. 看護研究の方法 1) 量的なアプローチの研究 2) 質的なアプローチの研究 1. 看護研究における倫理的な問題 2. 看護研究における倫理的な配慮 1. ケーススタディとは 2. 論文のまとめ方 3. 発表の方法		
テキスト及び副教材	「黒田裕子の看護研究 step by step 第5版」 学研 「看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方」 照林社			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	臨床にでてからの看護研究の基礎となる科目です。看護研究とは何かを理解し、看護研究Ⅱで作成する論文の組み立て方についてしっかり学んでください。			

科 目	(85) 看護研究Ⅱ	3年 通年	1単位	30時間
担当教員	久保田 睦子、全教員			
ねらい	看護を科学的思考で論理的に追求し、自己の看護の考えを明らかにするとともに研究に必要な基礎的知識・態度を養う。			
到達目標	1. 自己の看護実践を振り返り、ケーススタディとしてまとめることができる。 2. 研究的なプロセスを通して、看護研究の意味や重要性、今後の看護実践への活用を認識する。			
単元名	学習目標	内 容		
看護研究の実際 (ケーススタディ)		1. 論文(ケーススタディ)の作成 1) テーマの決定 2) 文献検索 3) 研究計画書作成 4) 論文の作成 5) 抄録の作成 6) 発表原稿の作成 2. 論文の発表		
テキスト及び副教材	「黒田裕子の看護研究 step by step 第5版」 学研 「看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方」 照林社			
評価方法	論文(ケース・スタディ)・研究計画書・発表態度 100%			
備考・履修上の留意点	看護基礎教育の集大成として、それぞれが臨地実習で関心をもった看護現象を選択し、問題意識をもってケーススタディに取り組んで下さい。文献検索・文献検討には十分に時間をかけて下さい。担当指導教員による個別指導のもと、主体的・積極的に指導を受けることはもちろん、自己の看護観や専門職者としての役割を認識し、卒業を迎えて下さい。卒業時には、看護研究論文集録集を作成します。			

科 目	(86) 総合看護技術	3年 通年	1単位	30時間
担当教員	筒井 智子、小倉 藤緒			
ねらい	様々な状況下にある患者の状態を総合的に判断し、安全・安楽に看護援助を実践できる能力を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の患者に対する看護技術を、優先順位を考慮して、安全、安楽で正確に実施できるよう計画できる。 2. 根拠に基づいて看護技術が提供できる。 3. 対象者を尊重し、配慮した援助ができる。 4. 複数患者の事例を考えることで自己の学習・技術の達成度、応用力、柔軟性を振り返り、今後の課題を明確にすることができる。 			
単元名	学習目標	内 容		
総合看護技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数事例を理解する <ol style="list-style-type: none"> 1) 複数患者の看護計画立案 2) グループ内での看護計画共有化 3) 複数事例の行動計画立案 4) グループ内での行動計画調整 5) 申し送りを受けての行動計画調整 2. 看護技術演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 複数事例を用いて看護技術を実施する 2) 診療の補助に必要な看護技術を根拠に基づき実施する 3. 演習評価・まとめ 	<p>複数事例を用いて個人で看護計画を立案し、その後、グループワークを行う</p> <p>複数事例を用いて、1日の行動計画を立案する</p> <p>立案した行動計画を、申し送りを受けて調整する</p> <p>自己の学習・技術の達成度、応用力、柔軟性を振り返り、今後の課題を明確にする</p>		
テキスト及び副教材	「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 基礎看護学【2】、【3】」医学書院 「系統看護学講座 臨床看護学総論 基礎看護学【4】」医学書院 「根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術」医学書院			
評価方法	筆記試験 100%			
備考・履修上の留意点	これまでの学習で経験不足の技術や自信がない技術を明らかにし、基本的な看護技術の手順やチェックポイントを再度学習して臨んで下さい。			